秋田県文化財調査報告書第267集

遺跡詳細分布調査報告書

秋田県埋蔵文化財センター

1996・3

秋田県教育委員会

遺跡詳細分布調査報告書

1996・3

秋田県教育委員会

序

秋田県には4,000ヵ所を数える遺跡が知られており、先人の足跡として多くの埋蔵文化財が受け継がれてきております。これらは大地に刻まれた文化遺産であり、損なうことなく未来へと受け継がれるべきものであります。

近年、高速交通体系や農業基盤の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行なわれ、埋蔵文化財の保護との調和を図ることが急務となってきております。遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査はそのための基礎となるものであります。

本報告書は平成7年度国庫補助事業として実施した、田沢湖オートキャンプ場建設事業・県道比内大葛鹿角線建設事業・県営ほ場整備事業内越地区などの遺跡分布調査と、森吉山ダム建設事業・一般国道285号国道改良工事南沢バイパス・県道木戸石鷹巣線建設事業などの遺跡範囲確認調査の結果をまとめたものであります。

最後になりましたが、これらの調査にご協力いただきました関係各機関に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきましてご協力下さいますようお願い申し上げます。

平成8年3月

秋田県教育委員会

教育長　橋本顕信

例　　言

1　本報告書は平成７年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て実施した遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査の報告書である。

2　本報告書に記載の遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査は、主に秋田県教育庁文化課・秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報文は各調査担当者が作成したものを秋田県埋蔵文化財センターが編集した。

3　遺跡分布調査のうち、一般国道13号湯沢横手道路建設事業・秋田県総合リハビリ医療センター建築事業・広域農道男鹿中央地区建設事業・県営ほ場整備事業下田沢地区・県立農業試験場再編成事業・県営ほ場整備事業東長野地区・日本ジャンボリーアクセス道路整備事業は、調査の結果事業区内に遺跡が確認されなかったので本報告から除外した。

4　本報告書に使用した地図は、秋田県教育委員会発行の『秋田県遺跡地図』（県南版・中央版・県北版）、建設省国土地理院発行50,000分の１および25,000分の１地形図と、建設省・秋田県土木部が作製した1,000分の１地形図である.

目　　次

序
例　　言
目　　次
第１章　はじめに……1
第２章　平成７年度遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査実施要項……1
　第１節　遺跡分布調査……1
　第２節　遺跡範囲確認調査……3
第３章　調査の記録……6
　第１節　遺跡分布調査……6
　　1　県営ほ場整備事業内越地区……6
　　2　県営ほ場整備事業金沢地区……7
　　3　県営ほ場整備事業高梨東部地区……8
　　4　県営ほ場整備事業茂内地区……9
　　5　県道男鹿公園線バイパス建設事業……10
　　6　県営農地開発事業小坂地区……11
　　7　県営大規模老朽溜め池等整備事業……12
　　8　県営ほ場整備事業北阿気地区……13
　　9　県営ほ場整備事業黒倉地区……14
　　10　県営ほ場整備事業角間川地区……15
　　11　県営ほ場整備事業畑屋地区……16
　　12　田沢湖オートキャンプ場建設事業……17
　　13　県道比内大葛鹿角線建設事業……18
　第２節　遺跡範囲確認調査……19
　　1　森吉山ダム建設事業……19
　　（１）日廻岱Ａ遺跡、日廻岱Ｂ遺跡……20
　　（２）漆下遺跡……28
　　（３）上ハ岱Ａ遺跡、上ハ岱Ｂ遺跡……33
　　（４）二重鳥Ａ遺跡、二重鳥Ｂ遺跡、二重鳥Ｃ遺跡、二重鳥Ｄ遺跡
　　二重鳥Ｅ遺跡、二重鳥Ｆ遺跡、二重鳥Ｇ遺跡、二重鳥Ｈ遺跡……38
　　（５）水上遺跡……44
　　（６）天津場Ａ遺跡、天津場Ｂ遺跡、天津場Ｃ遺跡……50
　　（７）ネネム沢Ａ遺跡、ネネム沢Ｂ遺跡、ネネム沢Ｃ遺跡……53
　　（８）森吉家ノ前Ａ遺跡、森吉家ノ前Ｂ遺跡、森吉家ノ前Ｃ遺跡……61
　　（９）森吉Ａ遺跡、森吉Ｂ遺跡……70
　　2　一般国道285号国道改良工事南沢バイパス
　　小袋岱遺跡……75
　　3　県道木戸石鷹巣線建設事業
　　脇神館跡……84

第１章　はじめに

国庫補助を得て実施した平成７年度の遺跡詳細分布調査は、県営ほ場整備事業内越地区・県営ほ場整備事業金沢地区・県営ほ場整備事業高梨東部地区・県営ほ場整備事業茂内地区・一般国道13号湯沢横手道路建設事業・県道男鹿公園線バイパス建設事業・秋田県総合リハビリ医療センター建築事業・県営農地開発事業小坂地区・県営大規模老朽溜め池等整備事業・広域農道男鹿中央地区建設事業・県営ほ場整備事業北阿気地区・県営ほ場整備事業下田沢地区・県営ほ場整備事業黒倉地区・県営ほ場整備事業角間川地区・県営ほ場整備事業畑屋地区・県立農業試験場再編成事業・田沢湖オートキャンプ場建設事業・県営ほ場整備事業東長野地区・県道比内大葛鹿角線建設事業・日本ジャンボリーアクセス道路整備事業の遺跡分布調査と、森吉山ダム建設事業・一般国道285号国道改良工事南沢バイパス・県道木戸石鷹巣線建設事業に係る遺跡範囲確認調査である。これらの調査はすでに策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁文化課、秋田県埋蔵文化財センターの職員、それに男鹿市・本荘市・横手市・小坂町・森吉町・仙北町・田沢湖町の専門職員の協力を得て、平成７年４月から平成８年１月にかけて実施したものである。

第２章　平成７年度遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査実施要項

第１節　遺跡分布調査

１　調査の目的

開発予定地内を踏査して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を構ずる。

２　調査の方法

（１）計画地域の範囲内で遺物の表面採集および試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。

（２）確認された遺跡は地図に記入し、位置を記録する。

（３）遺跡の現況、遠景を写真記録し、遺跡の概要も記録する。

3　事業主体者

秋田県教育委員会

4　調査担当者

秋田県教育庁文化課		学芸主事	熊谷太郎
		学芸主事	石郷岡千鶴子
男鹿市教育委員会	社会教育課	係長	泉　明
本荘市教育委員会	社会教育課	主事	長谷川潤一
横手市教育委員会	社会教育課	主事	神谷裕子
小坂町教育委員会	生涯学習・社会教育課	主任	木村　久
森吉町	総務課	主任	木村正彦
仙北町教育委員会		係長	小西秀典
田沢湖町教育委員会	生涯学習課	係長	茂木正道

5　調査対象地域および事業名

No.	事業名	調査期間	調査結果等
1	県営ほ場整備事業内越地区	平成７年４月10日・11月10日	本年度調査区域内に周知の遺跡１箇所を確認
2	県営ほ場整備事業金沢地区	平成７年４月11日・５月26日	本年度調査区域内に新発見の遺跡１箇所を確認
3	県営ほ場整備事業高梨東部地区	平成７年４月17日～18日	本年度調査区内に新発見の遺跡１箇所を確認
4	県営ほ場整備事業茂内地区	平成７年４月21日	本年度調査区内に周知の遺跡１箇所を確認
5	一般国道13号湯沢横手道路建設事業	平成７年４月28日	本年度調査区内に遺跡は確認されなかった
6	県道男鹿公園線バイパス建設事業	平成７年５月15日	本年度調査区内に周知の遺跡１箇所を確認
7	秋田県総合リハビリ医療センター建築事業	平成７年６月５日	本年度調査区内に遺跡は確認されなかった
8	県営農地開発事業小坂地区	平成７年６月８日～９日・９月13日	本年度調査区内に周知の遺跡１箇所を確認
9	県営大規模老朽溜め池等整備事業	平成７年７月31日	事業地区内に周知の遺跡１箇所を確認
10	広域農道男鹿中央地区建設事業	平成７年８月９日	本年度調査区内に遺跡は確認されなかった
11	県営ほ場整備事業北阿気地区	平成７年11月14日	本年度調査区内に周知の遺跡１箇所を確認
12	県営ほ場整備事業下田沢地区	平成７年11月24日	事業地区内に遺跡は確認されなかった
13	県営ほ場整備事業黒倉地区	平成７年11月24日	本年度調査区内に周知の遺跡および新発見の遺跡各１箇所を確認
14	県営ほ場整備事業角間川地区	平成７年11月28日	本年度調査区域に新発見の遺跡１箇所を確認
15	県営ほ場整備事業畑屋地区	平成７年11月30日	本年度調査区内に新発見の遺跡２箇所を確認
16	県立農業試験場再編成事業	平成７年10月11日・12月18日～19日	事業地区内に遺跡は確認されなかった
17	田沢湖オートキャンプ場建設事業	平成７年12月４日・12月11日・平成８年１月19日	事業地区内に周知の遺跡１箇所を確認
18	県営ほ場整備事業東長野地区	平成７年12月７日	事業地区内に遺跡は確認されなかった
19	県道比内大葛鹿角線建設事業	平成７年12月22日	事業地区内に周知の遺跡１箇所を確認
20	日本ジャンボリーアクセス道路整備事業	平成８年１月24日	事業地区内に遺跡は確認されなかった

第２節　遺跡範囲確認調査

１　調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の範囲確認調査を実施して、埋蔵文化財の保護と保存を図る。

２　調査の方法

（１）遺跡の広がり、埋没の度合、時代とその性格を知るために、当該地域で遺物の表面採集および小規模の発掘調査（遺構確認面までの掘り下げ）を行なう。

（２）地形等を考慮し、できるかぎり面的に調査地域を広げて遺構の確認に努める。

（３）現場で確認された遺構・遺物、堆積土の厚さ、遺物包含層などの記録を行なう。その際、遺跡の全景と発掘調査状況、確認された遺構・遺物などは写真撮影をする。

（４）使用する地形図は開発部局で作製した一番大きな縮尺図面とする。

（５）遺跡の立地条件などに即した適切な調査をする。

３　事業主体者

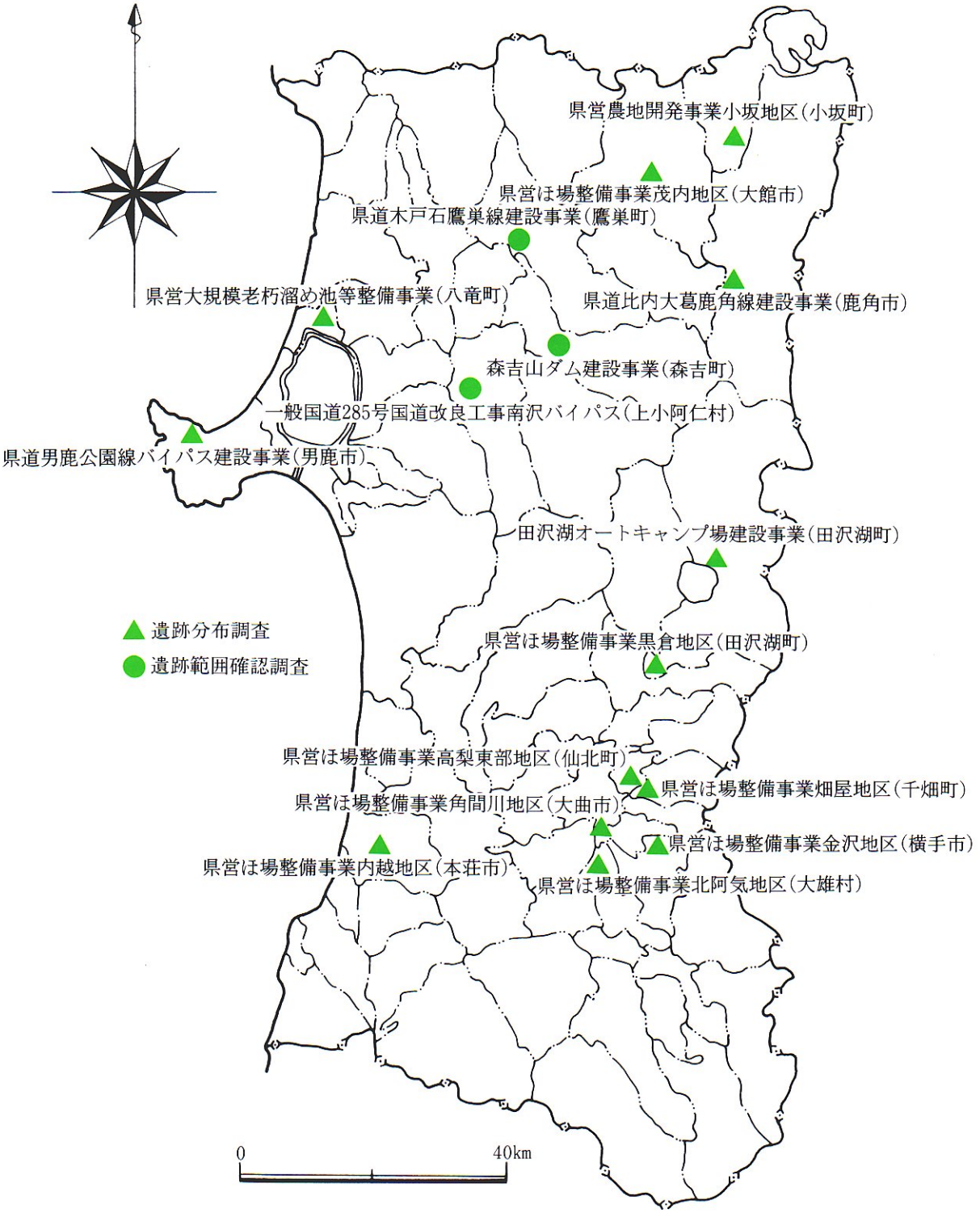
秋田県教育委員会

４　調査担当者

秋田県埋蔵文化財センター	調査課長補佐	庄内昭男
	調査第一科長	高橋忠彦
	学芸主事	藤澤　昌、榮　一郎、利部　修、谷地　薫、本田嘉之、磯村　亨
	非常勤職員	長澤和則、黒澤　尊

5　事業名・調査対象遺跡・調査期間・調査担当者ほか

No.	事　業　名	遺跡名・所在地	調 査 期 間	調査担当者	摘要
1	森吉山ダム建設事業	日廻岱Ａ遺跡(森吉町) 日廻岱Ｂ遺跡(森吉町) 漆下遺跡(森吉町) 上ハ岱Ａ遺跡(森吉町) 上ハ岱Ｂ遺跡(森吉町) 二重鳥Ａ遺跡(森吉町) 二重鳥Ｂ遺跡(森吉町) 二重鳥Ｃ遺跡(森吉町) 二重鳥Ｄ遺跡(森吉町) 二重鳥Ｅ遺跡(森吉町) 二重鳥Ｆ遺跡(森吉町) 二重鳥Ｇ遺跡(森吉町) 二重鳥Ｈ遺跡(森吉町) 水上遺跡(森吉町) 天津場Ａ遺跡(森吉町) 天津場Ｂ遺跡(森吉町) 天津場Ｃ遺跡(森吉町) ネネム沢Ａ遺跡(森吉町) ネネム沢Ｂ遺跡(森吉町) ネネム沢Ｃ遺跡(森吉町) 森吉家ノ前Ａ遺跡(森吉町) 森吉家ノ前Ｂ遺跡(森吉町) 森吉家ノ前Ｃ遺跡(森吉町) 森吉Ａ遺跡(森吉町) 森吉Ｂ遺跡(森吉町)	平成７年５月９日 ～10月31日	庄内昭男 利部　修 黒澤　尊	
2	一般国道285号国道改良工事 南沢バイパス	小袋岱遺跡(上小阿仁村)	平成７年11月１日 ～11月22日	高橋忠彦 榮　一郎 磯村　亨 長澤和則 黒澤　尊	
3	県道木戸石鷹巣線建設事業	脇神館跡(鷹巣町)	平成７年11月６日 ～11月22日	藤澤　昌 谷地　薫 本田嘉之	



第１図　遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査位置図

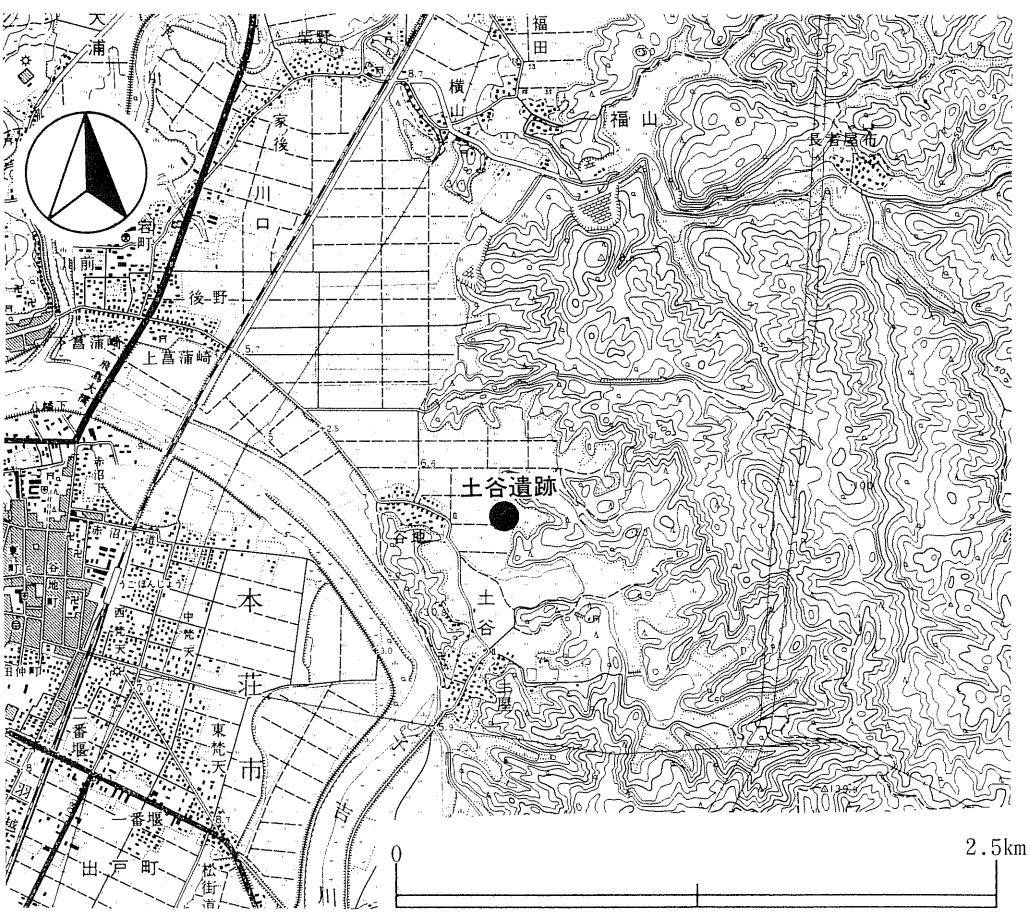
第３章　調査の記録

第１節　遺跡分布調査

１　県営ほ場整備事業内越地区

本荘市内越地区における事業で、計画面積は461haa。本年度はこの内、当面の事業対象区域について調査をおこなった。調査の結果、周知の遺跡１箇所が事業に係わることを確認した。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時代等	現況	備　　考
1	土谷（つちや）遺　跡	本荘市川口字大覚	平安時代	水田	周知の遺跡

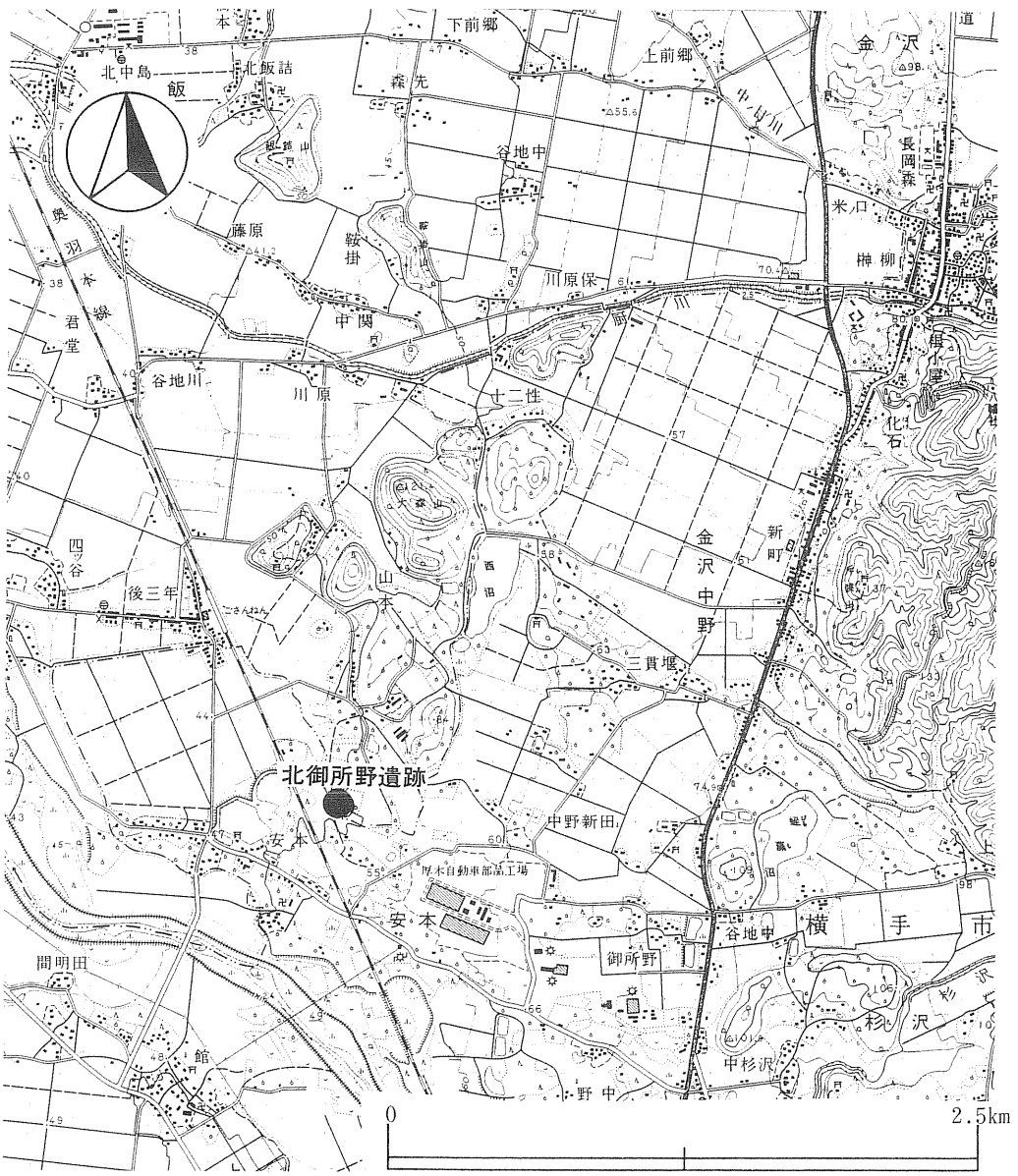


第２図　県営ほ場整備事業内越地区内遺跡位置図

2　県営ほ場整備事業金沢地区

横手市金沢地区における事業で、計画面積は294haa。本年度はこの内、当面の事業対象区域について調査をおこなった。調査の結果、新発見の遺跡１箇所が事業に係わることを確認した。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時代等	現況	備　　考
1	北御所野遺跡	横手市安本字北御所野７外	平安時代	水田	新発見の遺跡

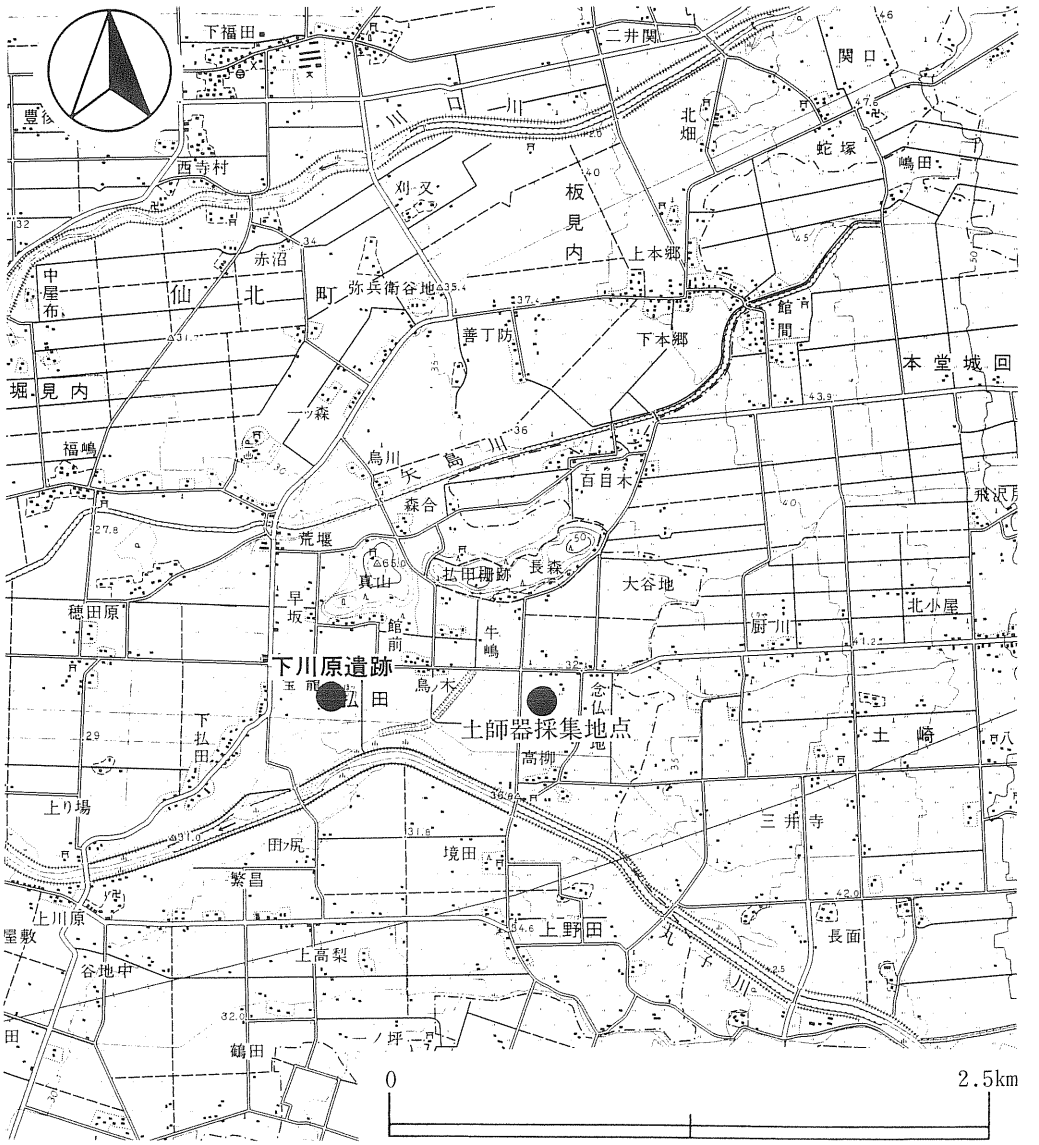


第３図　県営ほ場整備事業金沢地区内遺跡位置図

3　県営ほ場整備事業高梨東部地区

仙北町高梨地区における事業で、計画面積は118.5haa。本年度はこの内、当面の事業対象区域34.7haについて調査をおこなった。調査の結果、新発見の遺跡１箇所が事業に係わることを確認した。なお、この他近接する高柳地区からも少量の土師器が採集された。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時代等	現況	備　考
1	下川原（しもかわら）遺跡	仙北町払田字下川原43-２外	平安時代	水田	新発見の遺跡

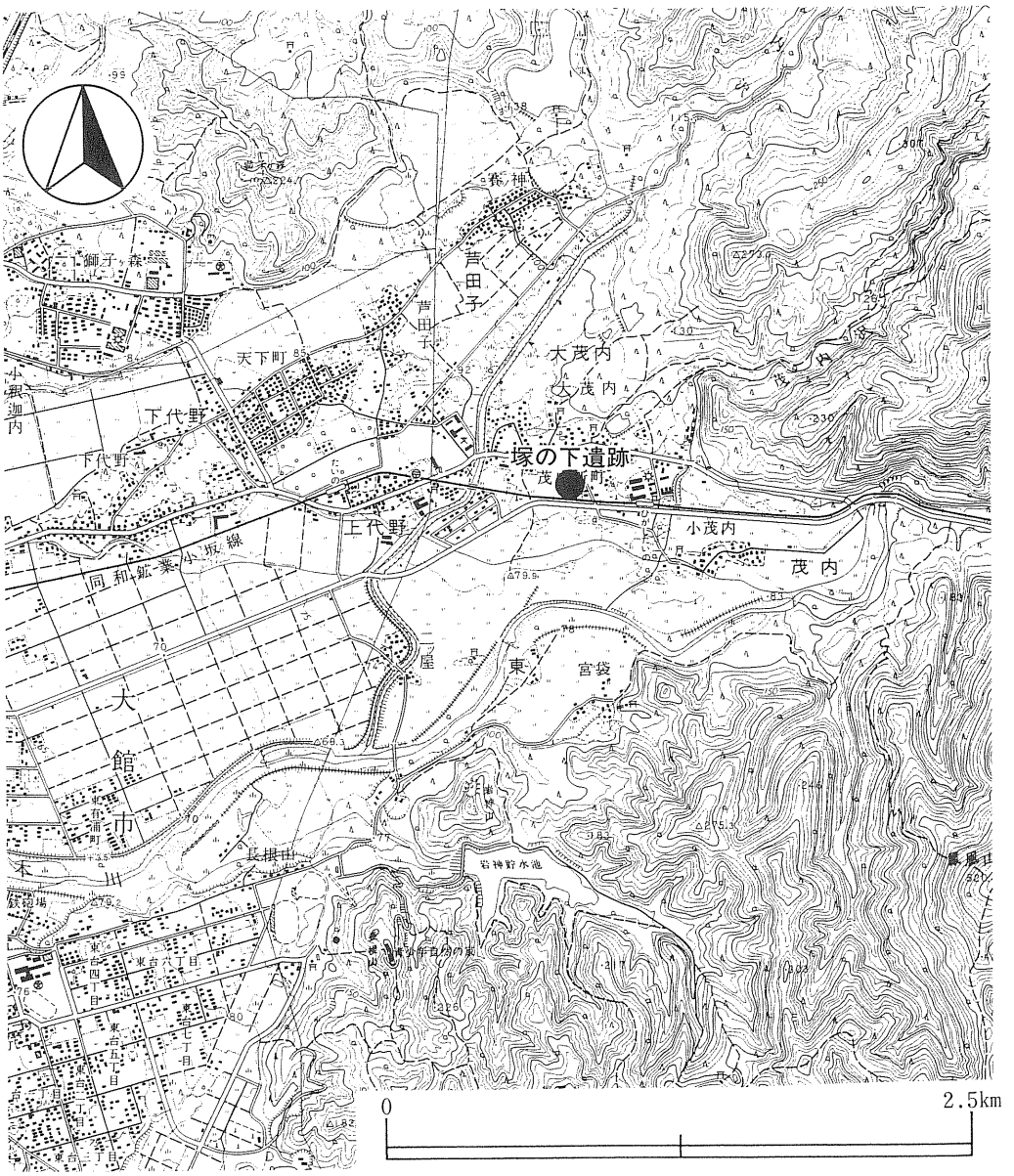


第４図　県営ほ場整備事業高梨東部地区内遺跡位置図

4　県営ほ場整備事業茂内地区

大館市茂内地区における事業で、計画面積は80.2ha。本年度はこの内、当面の事業対象区域について調査をおこなった。調査の結果、周知の遺跡１箇所が事業に係わることを確認した。

No.	遺跡名	所在地	時代等	現況	備考
1	塚の下遺跡	大館市大茂内字塚の下58−１外	縄文時代	水田	周知の遺跡



第５図　県営ほ場整備事業茂内地区内遺跡位置図

5　県道男鹿公園線バイパス建設事業

男鹿市北浦相川を始点に北浦北浦を終点とする延長1.62㎞の計画道路で、路線全区間について踏査、及び始点側の一部について試掘を実施した。調査の結果、周知の遺跡１箇所が路線に係わることを確認した。

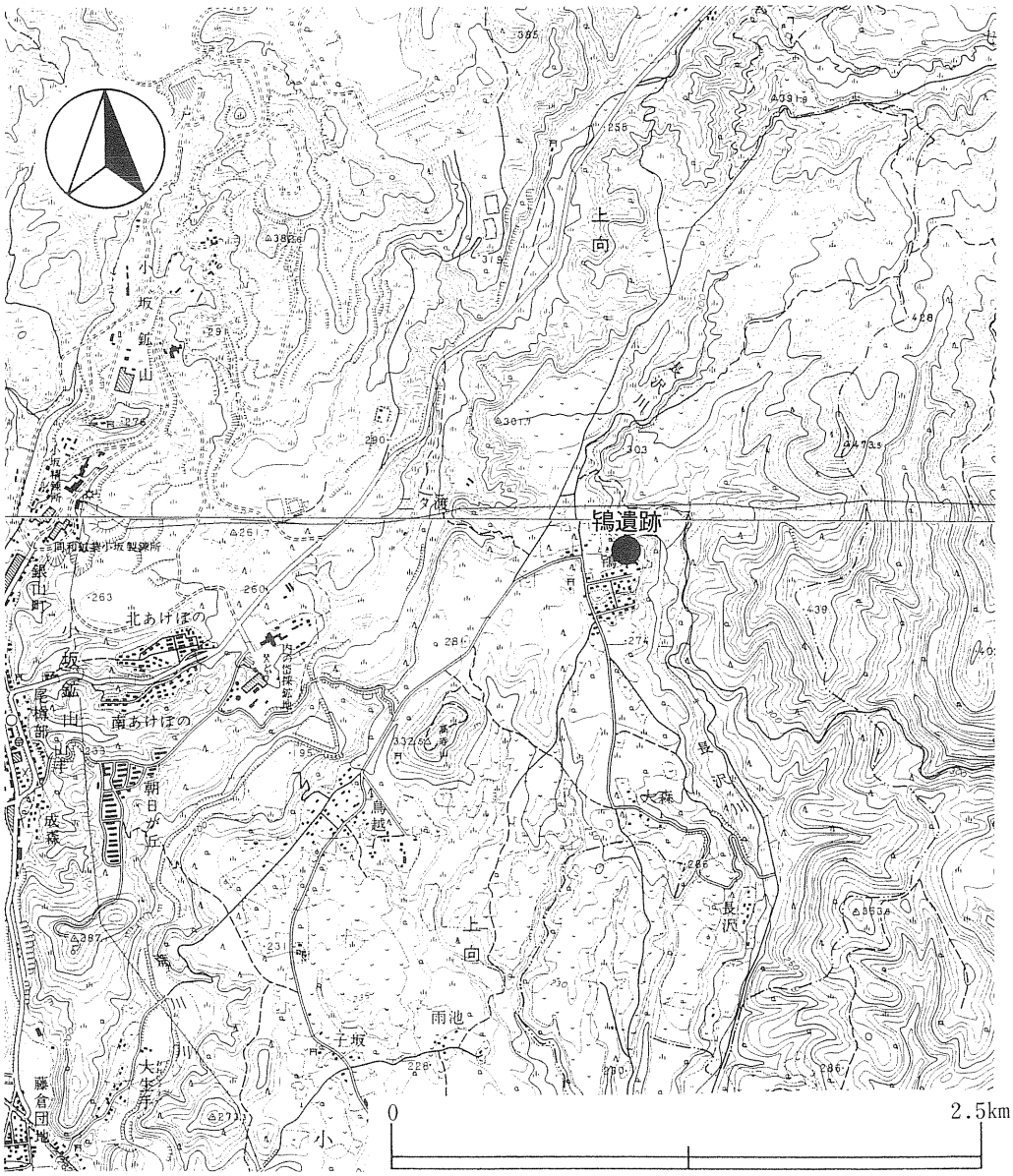
No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時代等	現況	備　　考
1	泉野冷水（いずみのひやみず）遺跡	男鹿市北浦相川字相川沢98外	縄文時代	畑地	周知の遺跡

第６図　県道男鹿公園線バイパス建設事業地内遺跡位置図

6　県営農地開発事業小坂地区

小坂町小坂地区における事業で、計画面積は58ha。本年度は当面の事業面積21haについて調査をおこなった。調査の結果、周知の遺跡１箇所が事業に係わることを確認した。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時代等	現況	備　　考
1	鴇（ときと）　遺　　跡	小坂町上向字上鴇４－１外	縄文時代	畑地	周知の遺跡

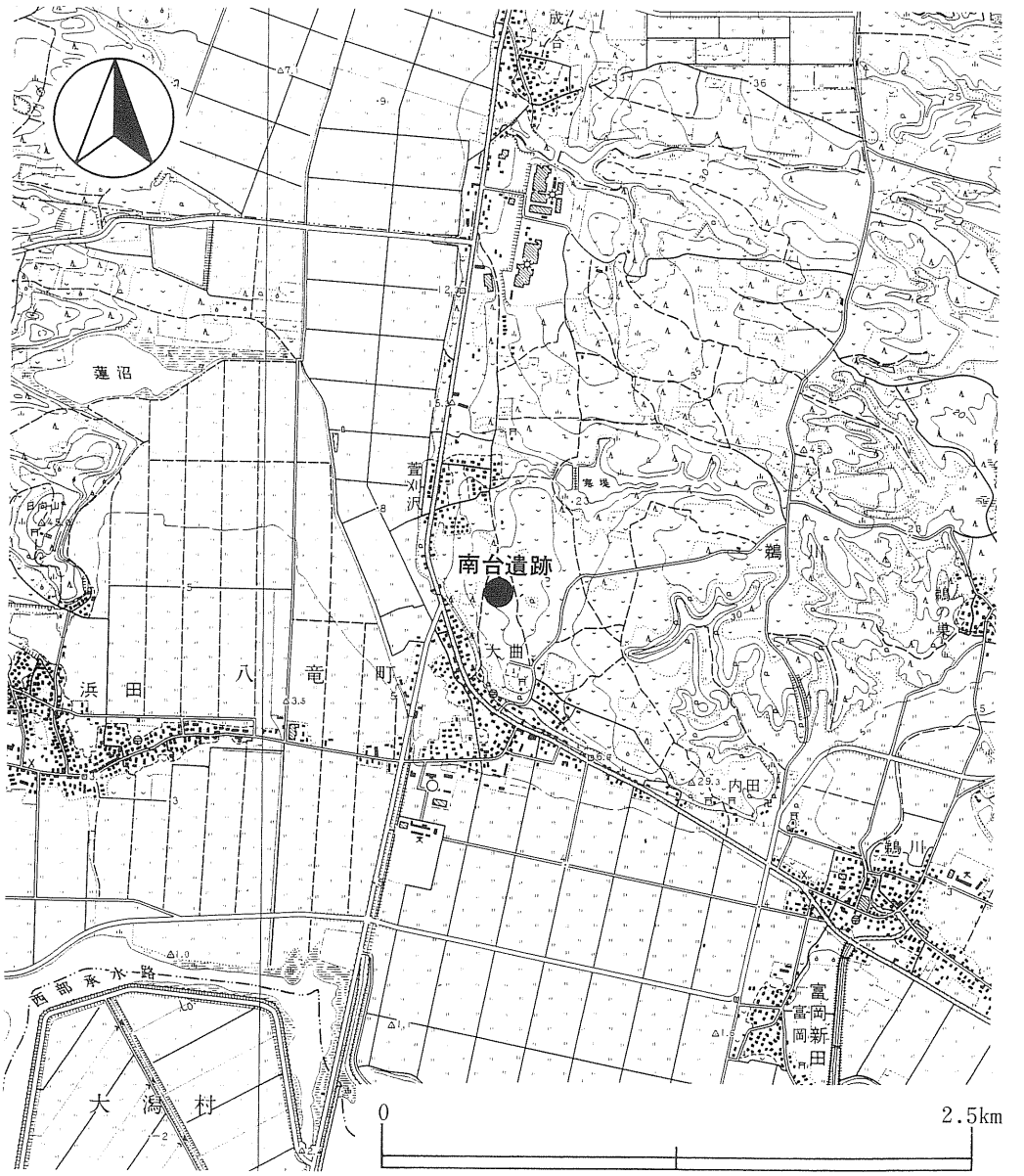


第７図　県営農地開発事業小坂地区内遺跡位置図

7　県営大規模老朽溜め池等整備事業

八竜町鵜川地区で行われる大規模堤の整備事業で、これに係わる土取り区域について調査をおこなった。調査の結果、新発見の遺跡１箇所が確認された。

No.	遺跡名	所在地	時代等	現況	備考
1	南台（みなみだい）遺跡	八竜町鵜川字南台87外	平安時代	畑地	新発見の遺跡

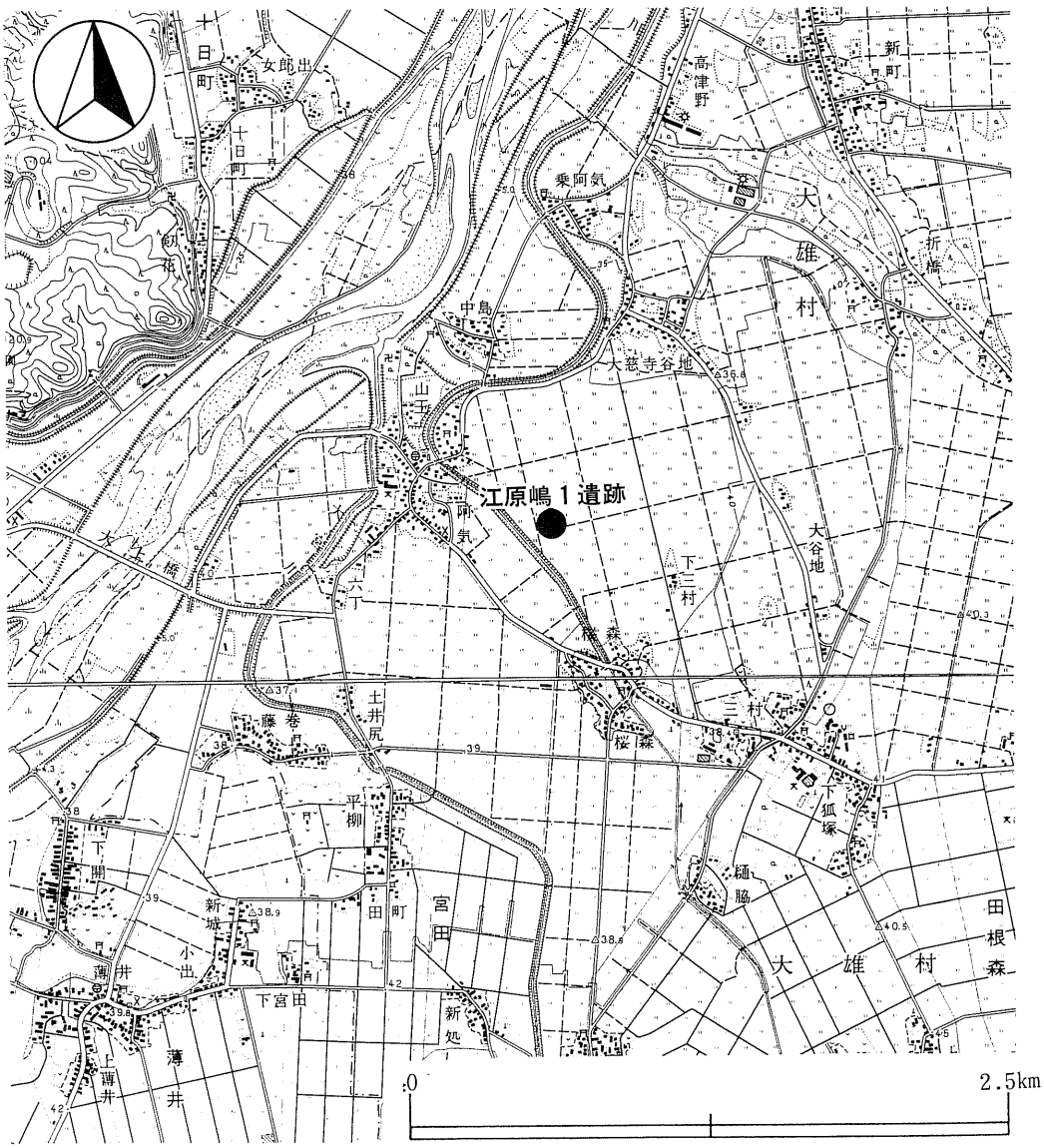


第８図　県営大規模老朽溜め池等整備事業地内遺跡位置図

8　県営ほ場整備事業北阿気地区

大雄村北阿気地区における事業で、計画面積は320haa。本年度はこの内、当面の事業対象区域について調査をおこなった。調査の結果、新発見の遺跡１箇所が事業に係わることを確認した。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時代等	現況	備　　考
1	江原嶋（えばらじま）１遺跡	大雄村字江原嶋40外	縄文時代	水田	周知の遺跡

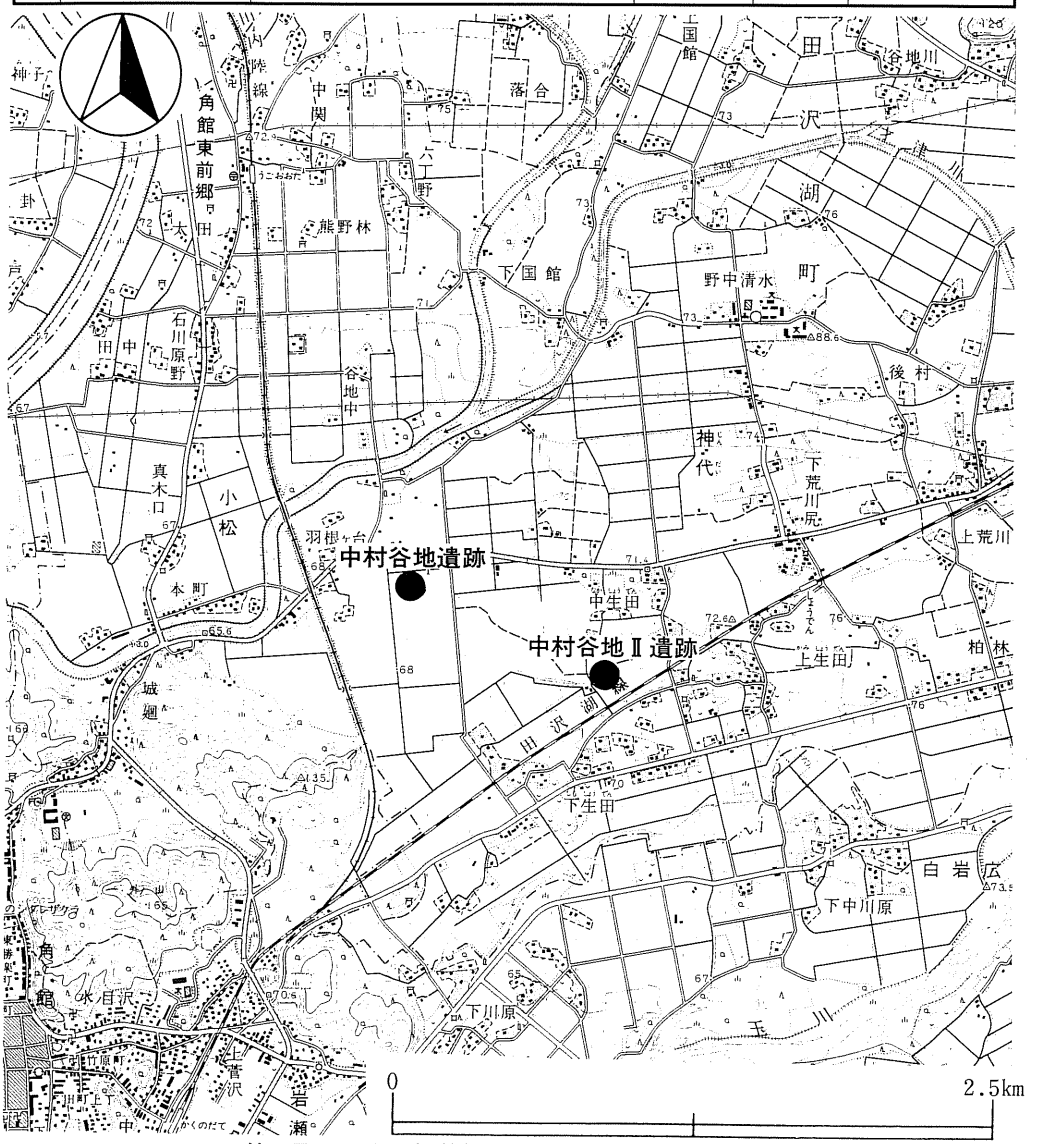


第９図　県営ほ場整備事業北阿気地区内遺跡位置図

9　県営ほ場整備事業黒倉地区

田沢湖町黒倉地区における事業で、計画面積は499haa。本年度はこの内、当面の事業区域について調査をおこなった。調査の結果、周知の遺跡及び新発見の遺跡各１箇所が事業に係わることを確認した。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時代等	現況	備　　考
1	中村谷地（なかむらやち）遺跡	田沢湖町神代字生田中村谷地384外	縄文時代	水田	周知の遺跡
2	中村谷地Ⅱ遺跡	田沢湖町神代字生田中村谷地212外	縄文時代	水田	新発見の遺跡

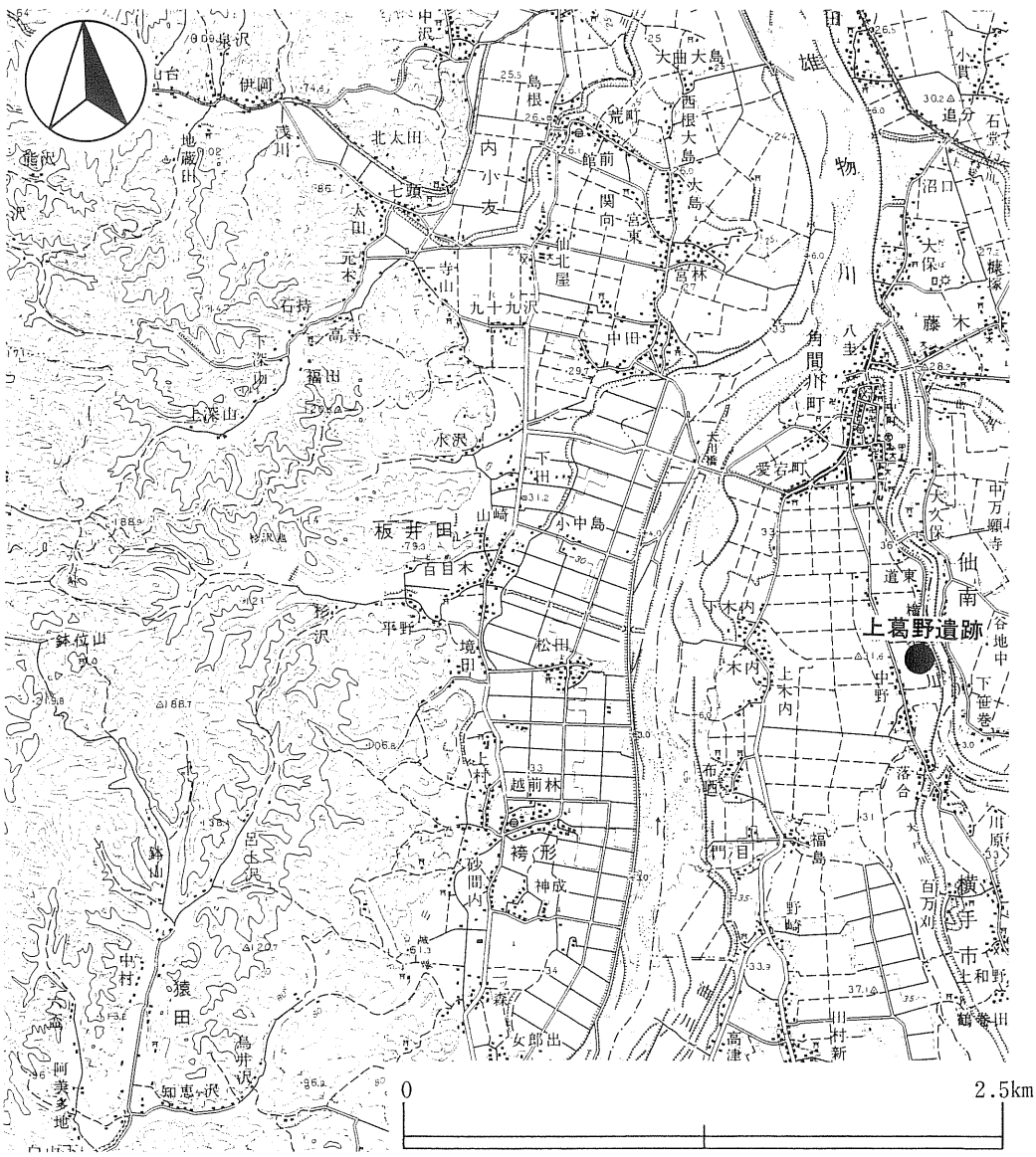


第10図　県営ほ場整備事業黒倉地区内遺跡位置図

10　県営ほ場整備事業角間川地区

大曲市角間川地区における事業で、計画面積は350ha。本年度はこの内、当面の事業対象区域について調査をおこなった。調査の結果、新発見の遺跡１箇所が事業に係わることを確認した。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時代等	現況	備　　考
1	上葛野（かみくずの）遺跡	大曲市角間川字上葛野17−２外	平安時代	山林	新発見の遺跡

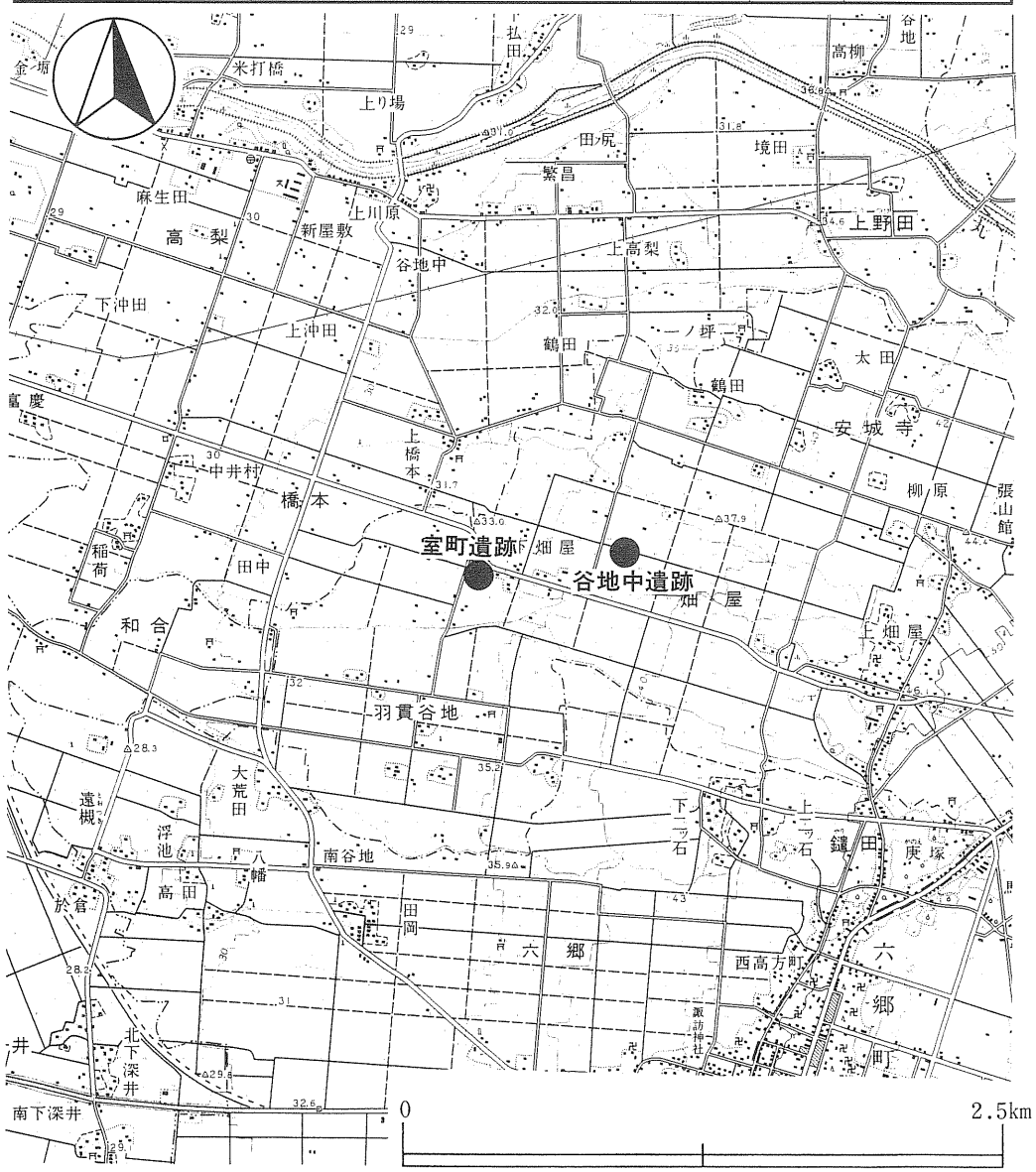


第11図　県営ほ場整備事業角間川地区内遺跡位置図

11　県営ほ場整備事業畑屋地区

千畑町畑屋地区における事業で、計画面積は193ha。本年度はこの内、当面の事業対象区域について調査をおこなった。調査の結果、新発見の遺跡２箇所が事業に係わることを確認した。

No.	遺跡名	所在地	時代等	現況	備考
1	谷地中遺跡（やちなか）	千畑町畑屋字谷地中161	平安時代	水田	新発見の遺跡
2	室町遺跡（むろまち）	千畑町畑屋字室町150－１外	縄文時代 平安時代	水田	新発見の遺跡

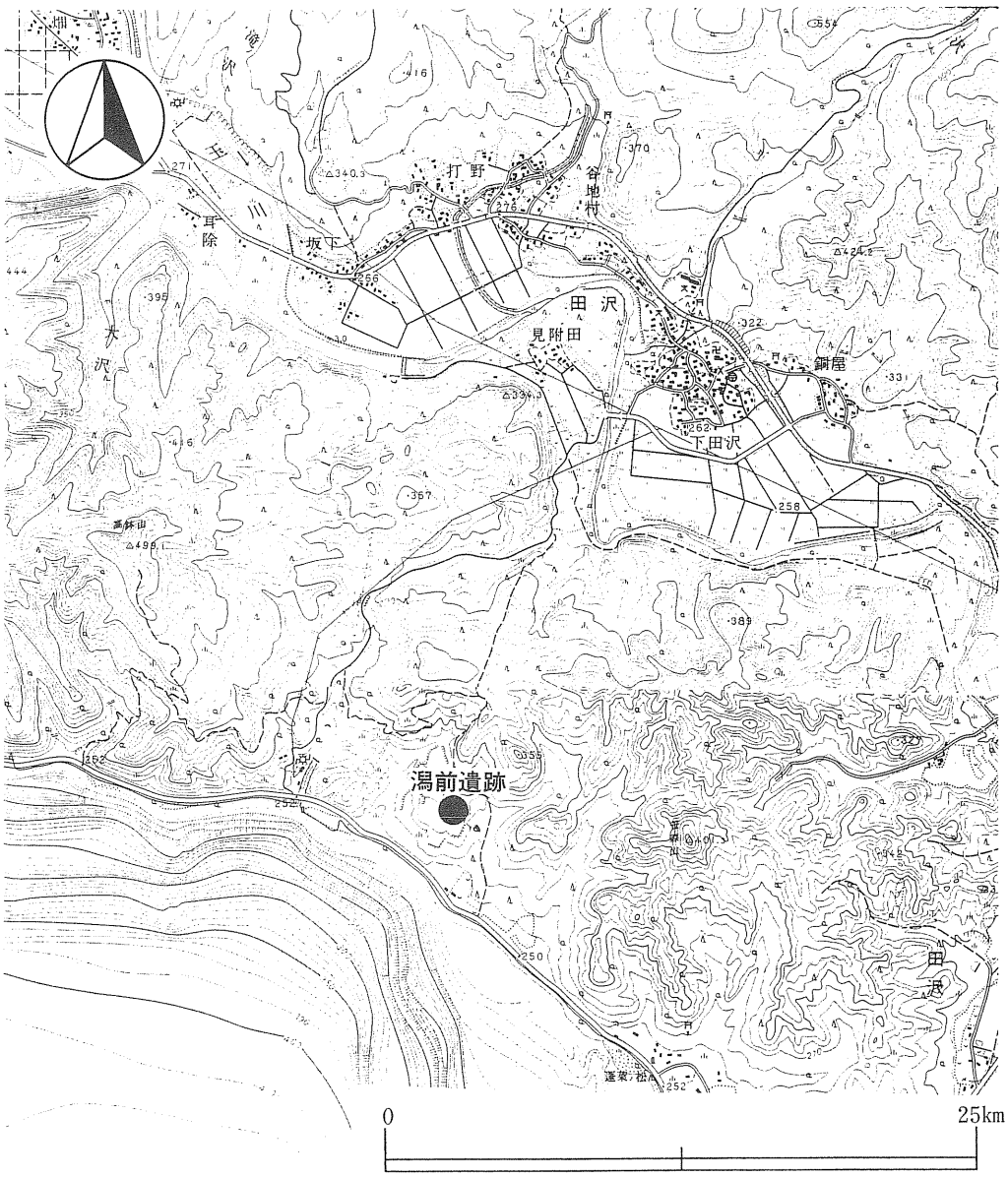


第12図　県営ほ場整備事業畑屋地区内遺跡位置図

12　田沢湖オートキャンプ場建設事業

田沢湖町潟前地区における事業で、計画面積は4.7haｏ。調査の結果、周知の遺跡１箇所が事業に係わることを確認した。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時代等	現況	備　　考
1	潟前（かたまえ）遺　跡	田沢湖町田沢字潟前74－１外	縄文時代	原野	周知の遺跡

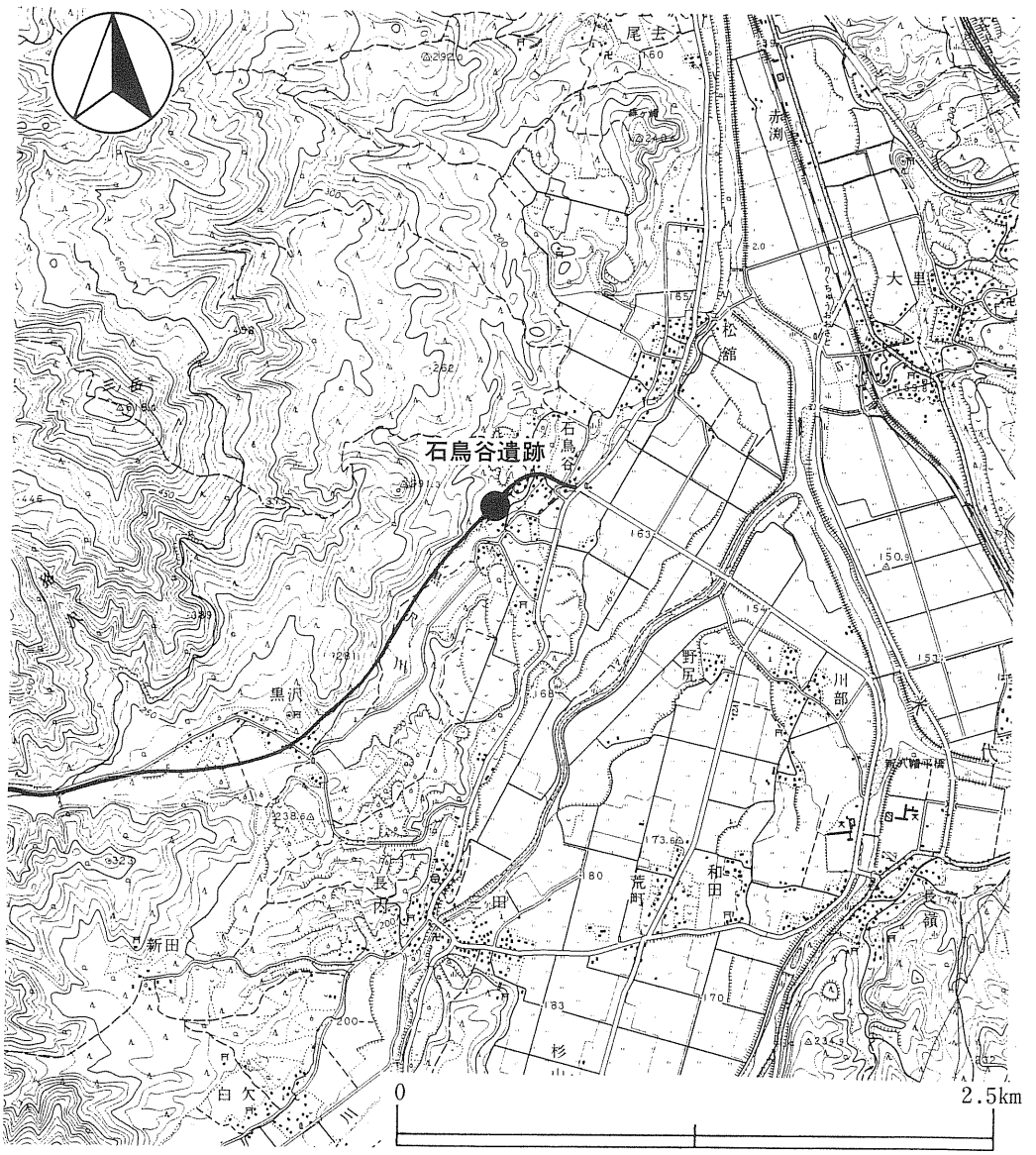


第13図　田沢湖オートキャンプ場建設事業地内遺跡位置図

13　県道比内大葛鹿角線建設事業

鹿角市石鳥谷地区を起点に比内町大葛に至る延長12.66㎞の計画路線である。調査はこの内、鹿角市側約２㎞について実施した。調査の結果、周知の遺跡１箇所が路線に係わることを確認した。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時代等	現況	備　　考
1	石鳥谷館跡（いしどりやかんあと）	鹿角市八幡平字石鳥谷88－１外	中世	果樹園	周知の遺跡



第14図　県道比内大葛鹿角線建設事業地内遺跡位置図

第２節　遺跡範囲確認調査

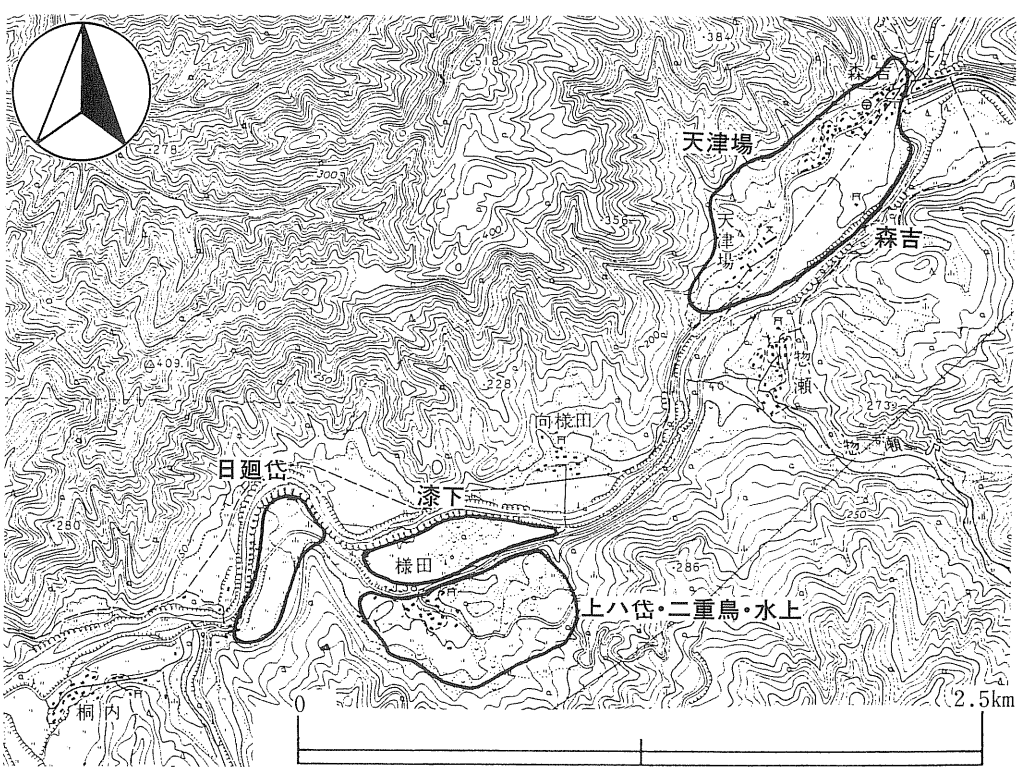
１　森吉山ダム建設事業

森吉山ダム建設事業に係る範囲確認調査について

森吉山ダムは、東西に長い森吉町の南東にそびえる森吉山の北を流れる小又川に建設されることとなり、ダム建設地および貯水池用地、道路用地を対象として広域に範囲確認調査を実施することになった。

ダム建設事業のため、すでに集落の移転は終了しており、かつての集落および耕作地の約1,200,000㎡が調査対象となる。

本年度は、小又川と桐内沢川の合流点にかかる桐内橋より東の日廻岱地区と、かつて様田集落のあった漆下・上ハ岱・二重鳥・水上の各地区と、天津場集落のあった天津場地区では森吉小学校跡地と上の丘陵地を含んでおり、森吉集落のあった森吉地区では西側丘陵地のネネム沢、小又川沿いの森吉家ノ前、東側丘陵地の各地域の調査を行った。



第15図　森吉山ダム建設事業関連遺跡　位置図

（１）日廻岱（ひまわりたい）Ａ遺跡、日廻岱Ｂ遺跡

１　遺跡所在地

日廻岱Ａ遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字日廻岱65、63－１外

日廻岱Ｂ遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字日廻岱86、87、88、89、90、91

２　範囲確認調査期間　　平成７年５月９日～10月31日

３　範囲確認調査対象面積　　86,000㎡

４　工事区域内遺跡面積　　日廻岱Ａ遺跡4,100㎡、日廻岱Ｂ遺跡18,400㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

日廻岱Ａ・Ｂ遺跡は、小又川の南側に広がる河岸段丘上にあり、西流する川が南の丘陵でさえぎられ北折し、さらに南に流れを変える屈曲部に位置している。県道小滝・阿仁前田停車場線を境として南西側を日廻岱Ａ遺跡、北東側を日廻岱Ｂ遺跡とする。日廻岱Ａ遺跡のある段丘面は標高125m前後であり、日廻岱Ｂ遺跡は小又川が北折する屈曲部にあたり、北側で標高130m、南側で標高125mを測り、北から南に傾斜している。

②現況

日廻岱Ａ・Ｂ遺跡では、かつての水田を対象として調査を行った。水田は昭和48年以降の耕地整理によって、現状でみられる６反歩前後の区画に改変されたものである。

６　範囲確認調査の方法

東西20m、南北20mの間隔で４㎡の坪掘り箇所を設定し、粗掘り・精査によって遺物と遺構の有無・層位・深さを確認したのち、坪掘り箇所を南北方向に結ぶトレンチを設定した。トレンチ調査においては重機により表土を除去した後、地山面を精査して遺物の有無、遺構の有無を確認していった。

７　範囲確認調査の結果

Ａ：日廻岱Ａ遺跡

①層位

段丘面では南北に設定したトレンチ調査によって、耕地整理による地形の改変が認められた。高位から低位へ土が移動されたものであり、とくに段丘面上位の標高127mの部分では、削平が１m前後におよぶとみられた。遺跡の所在する標高125m以下の段丘面においては、粘土混じりの１mの盛土の下に遺物包含層とみられる黒褐色土が認められた。第16図に示したＡ１・Ａ２地点における層位と深さを下に記した。

Ａ１－盛土100cm・表土耕作土20cm・黒褐色土40cm・明黄褐色土（遺構確認面）

A２－表土耕作土25cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

土坑が２基確認された。遺物の出土量は少なく段丘北端に散布しており、縄文時代前期と後期の土器・石器・石器素材が出土した。範囲確認調査は遺跡全体の５％を行い、中コンテナで0.5箱程の出土量である。

B：日廻岱B遺跡

①層位

耕地整理によって地表面が削平されている。ただし段差部分に黄褐色土ブロックが混在した黒色土が高く積み上げられており、地山まで深さが１m前後ある。第18図に示したB１・B２地点における層位と深さを下に記した。

B１－表土黒色土20cm・黄褐色土（遺構確認面）

B２－表土黒色土20cm・黒褐色土30cm・黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

段丘高位面の北東側で土坑群を検出した。下位面の西側でも土坑と思われる落ち込みを確認している。遺物は段丘上位面と下位面の広い範囲で、縄文時代前期と後期の土器・石器・石器素材が出土している。後期の土器は上位面中央で比較的まとまってみつかった。なお範囲確認調査は遺跡全体の６％を行い、中コンテナで４箱程の出土量である。

8　所見

A：日廻岱A遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期の小規模な集落遺跡であり、一部で縄文時代前期の遺構と重複していると考えられる。

②遺跡の範囲

南側の標高127mより高い水田部分については、もともと傾斜地であり、水田にするため大きく削平しているものとみられた。したがって遺構・遺物の検出状況から、標高125m前後の川沿い段丘端部が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

段丘面縁辺に縄文時代前期・後期の数軒の住居跡および土坑が検出されると予想される。遺物の出土量はそれほど多くないと予想される。

B：日廻岱B遺跡

①遺跡の種類

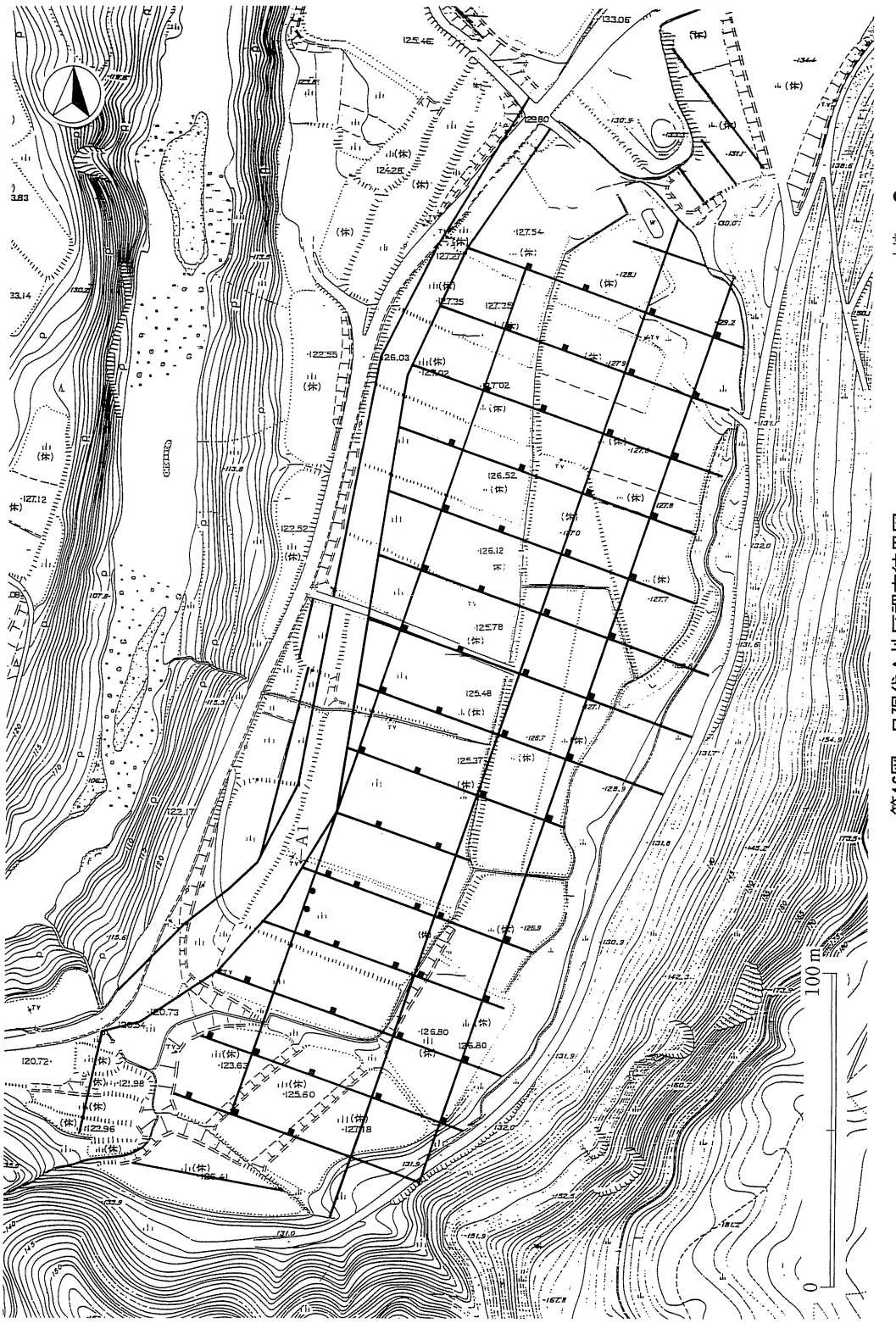
日廻岱B遺跡は、縄文時代前期と後期の集落遺跡であり、後期の集落の広がりが大きい。

②遺跡の範囲

遺構・遺物の検出状況から川の屈曲部に面した上位と下位の段丘面全域が遺跡の範囲と考えられる。

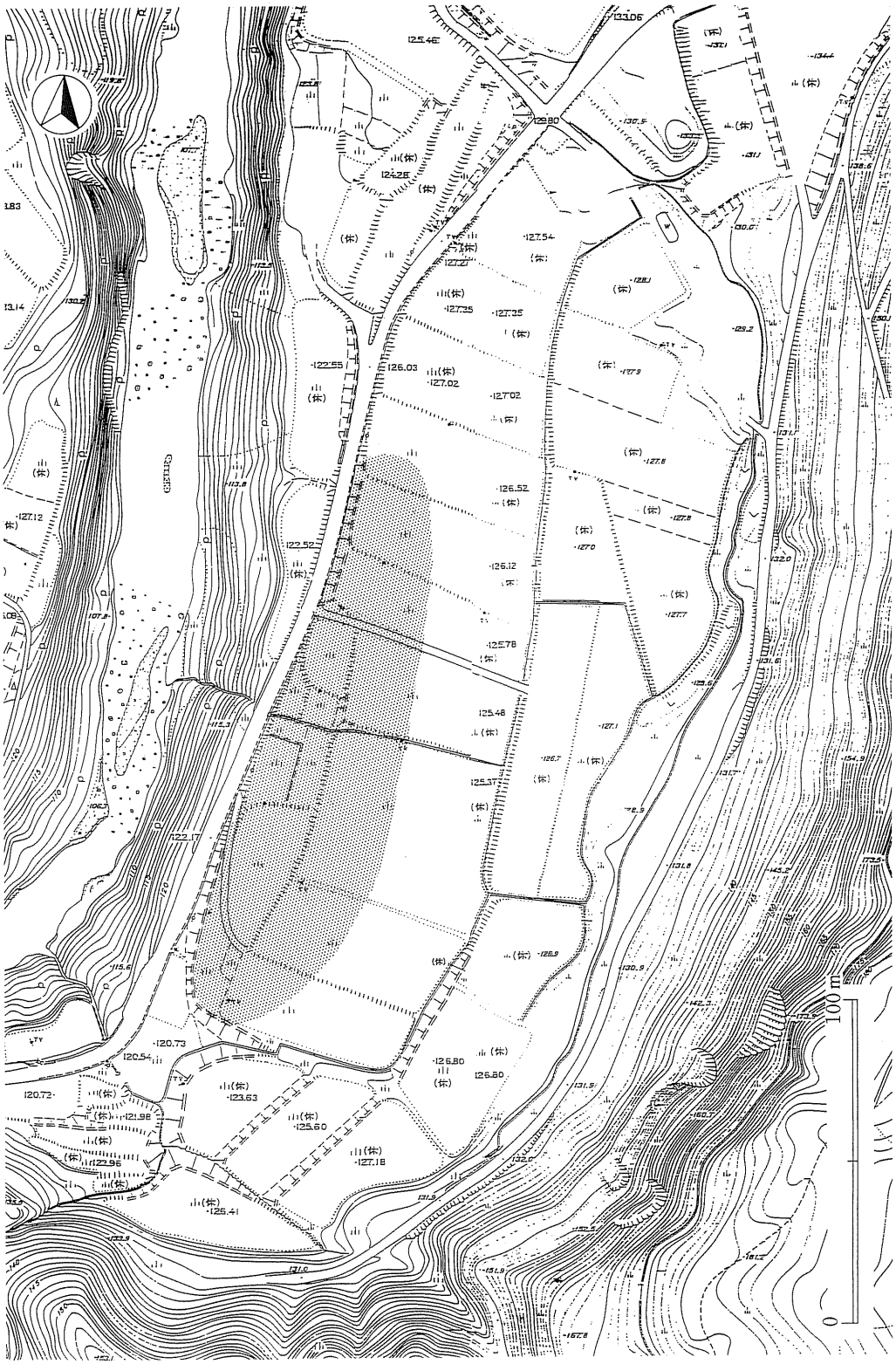
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

段丘面東側に縄文時代後期の住居跡・土坑が多数検出されるものと予想される。また北縁中央には前期の住居跡・土坑がまとまって検出されると予想される。北側の川岸に面した斜面が生活用具の廃棄場所と考えられることから、後期の土器・石器が多量に出土するものと予想される。

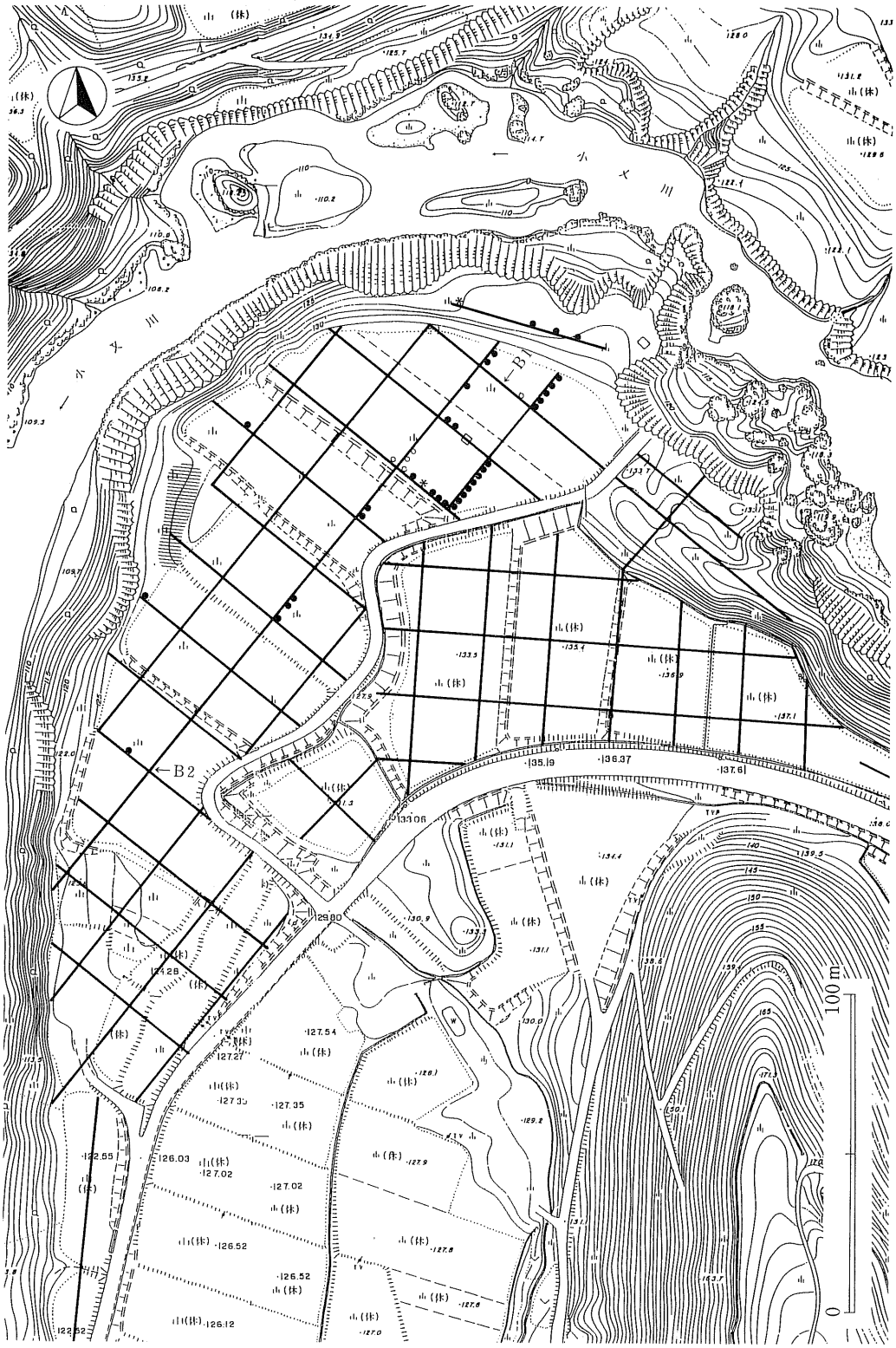


第16図　日廻岱A地区調査結果図

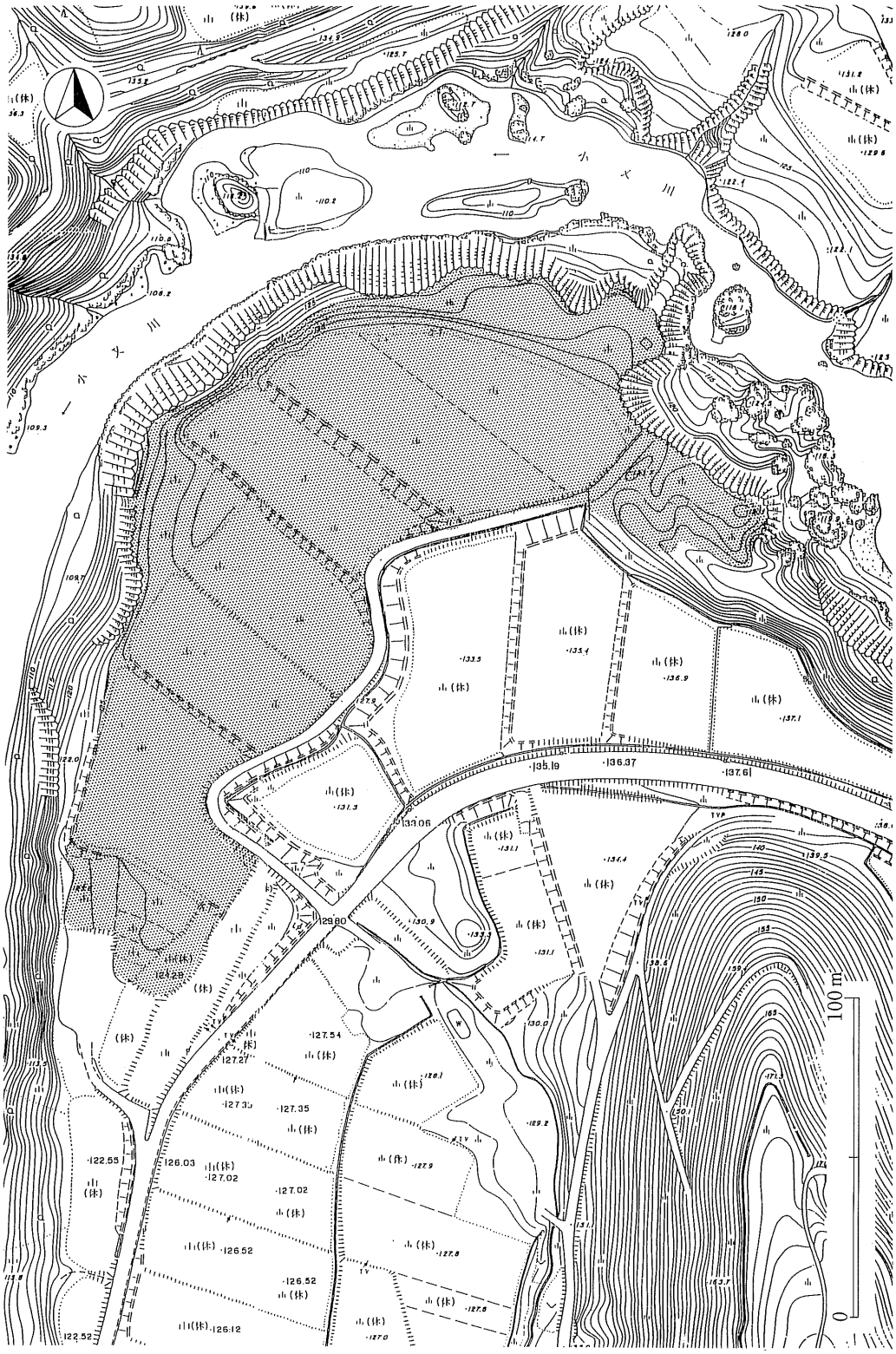
土坑 ●



第17図　日廻岱Ａ地区遺跡範囲図

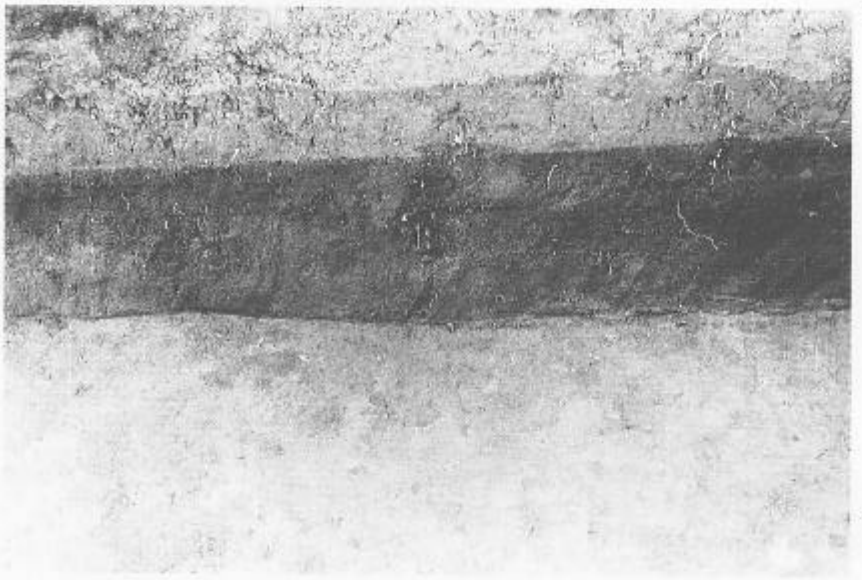


第18図　日廻岱B地区調査結果図

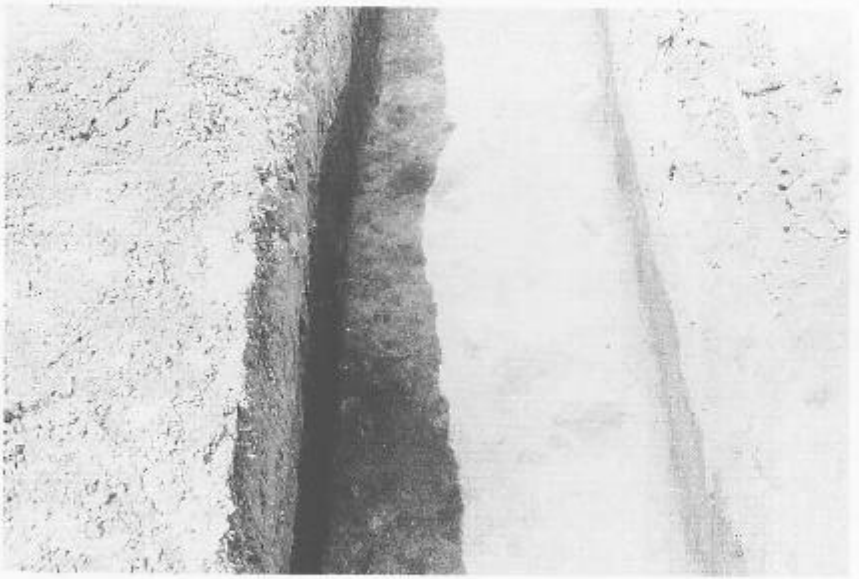


第19図　日廻岱Ｂ地区遺跡範囲図

△日廻岱A・B遺跡
全景(北から)



◁日廻岱A遺跡検出の
土坑



◁日廻岱A遺跡
トレンチ精査状況

（２）漆下（うるしした）遺跡

１　遺跡所在地

秋田県北秋田郡森吉町森吉字漆下２－１、４、５、６、７、８、14－２、37外

２　範囲確認調査期間　　平成７年５月９日～10月31日

３　範囲確認調査対象面積　　90,000㎡

４　工事区域内遺跡面積　　15,700㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

漆下遺跡は、小又川沿いの南側段丘面に残る微高地上に立地している。微高地は東西に長く、中央頂上部の標高は142.8mである。なお南側の二重鳥地区とは、県道小滝・阿仁前田停車場線で区画されている。

②現況

微高地はかつての畑地であり、低位は水田であった。

６　範囲確認調査の方法

水田区画にそって南北方向に結ぶトレンチを設定した。低位の水田部は重機により表土を除去した後、地山面を精査して遺物・遺構の有無を確認していった。高位の畑地は表土が浅いことから手掘りによって調査を進め、遺構・遺物の有無を確認していった。

７　範囲確認調査の結果

①層位

西側平坦部と中央高位部では表土の黒褐色土が浅く、20cm前後で地山の明黄褐色土に達した。東側は緩い傾斜があり、水田に近い南側では60cm前後の黒褐色土の堆積があった。同様に西側でも水田際の堆積土が厚かった。第20図に示したＡ１・Ａ２地点の層位と深さを下に記した。

Ａ１－表土黒褐色土20cm・明黄褐色土（遺構確認面）

Ａ２－表土黒褐色土20cm・黒褐色土40cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

西側平坦部で多数の土坑を検出した。中央高位部の南側で配石遺構を検出したが、地表面に出ていた石の状態から一定の広がりをもつ遺構群の一部であると考えられた。遺物は広い範囲で出土しているが、とくに南側の水田に面した地域で多量に見つかった。縄文時代前期・後期の土器・石器・石器素材が出土している。後期の土器は前半から後半におよんでいる。（第20図参照、配石遺構群、生活用具の廃棄場所とした）。なお範囲確認調査は遺跡全体の９％を行い、中コンテナで15箱程の出土量である。

8　所見

①遺跡の種類

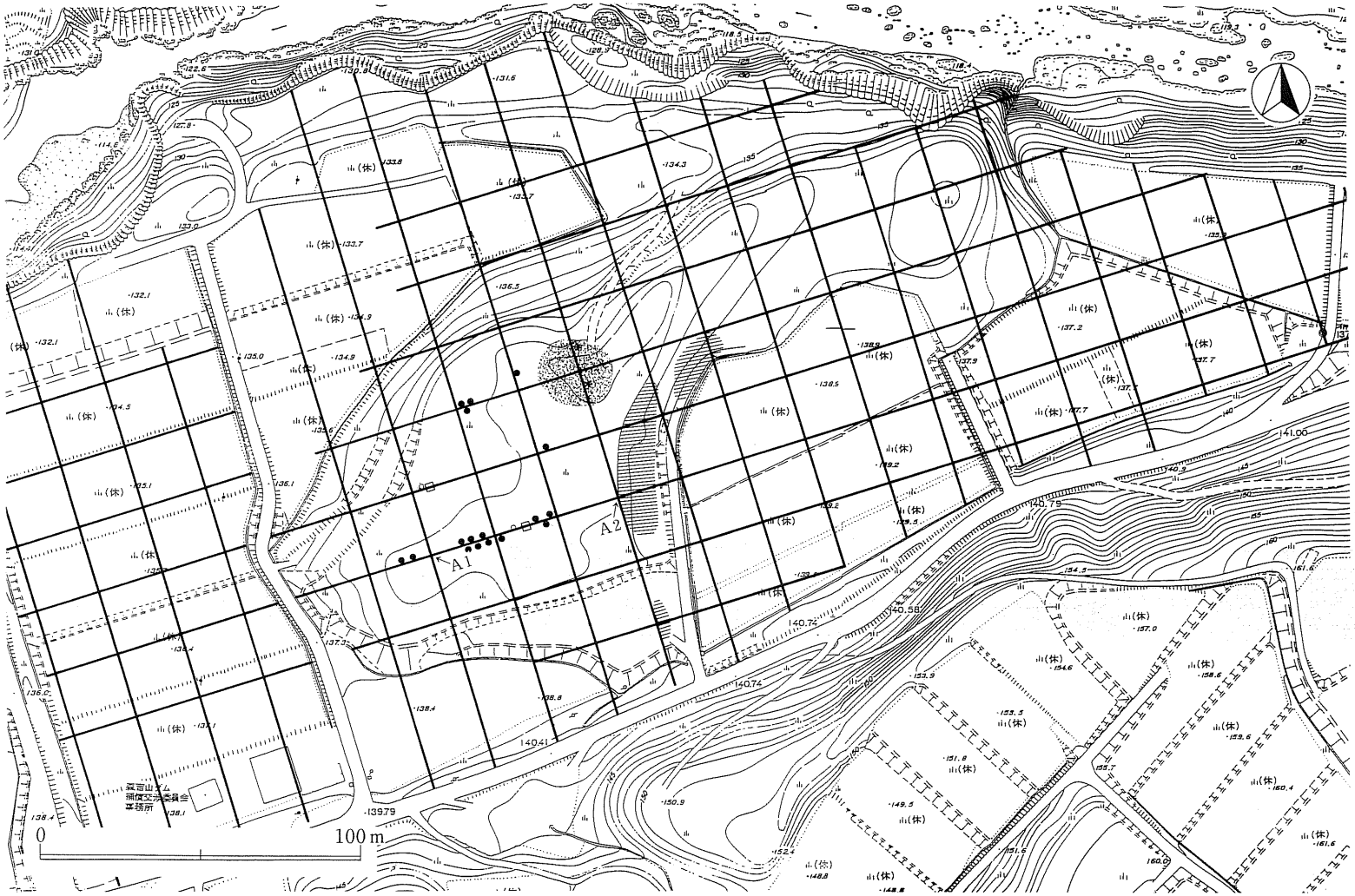
規模の大きな縄文時代後期の集落遺跡であり、配石遺構からなる墓域を伴っていると考えられる。また東側で縄文時代前期の集落遺跡と重複していると考えられる。

②遺跡の範囲

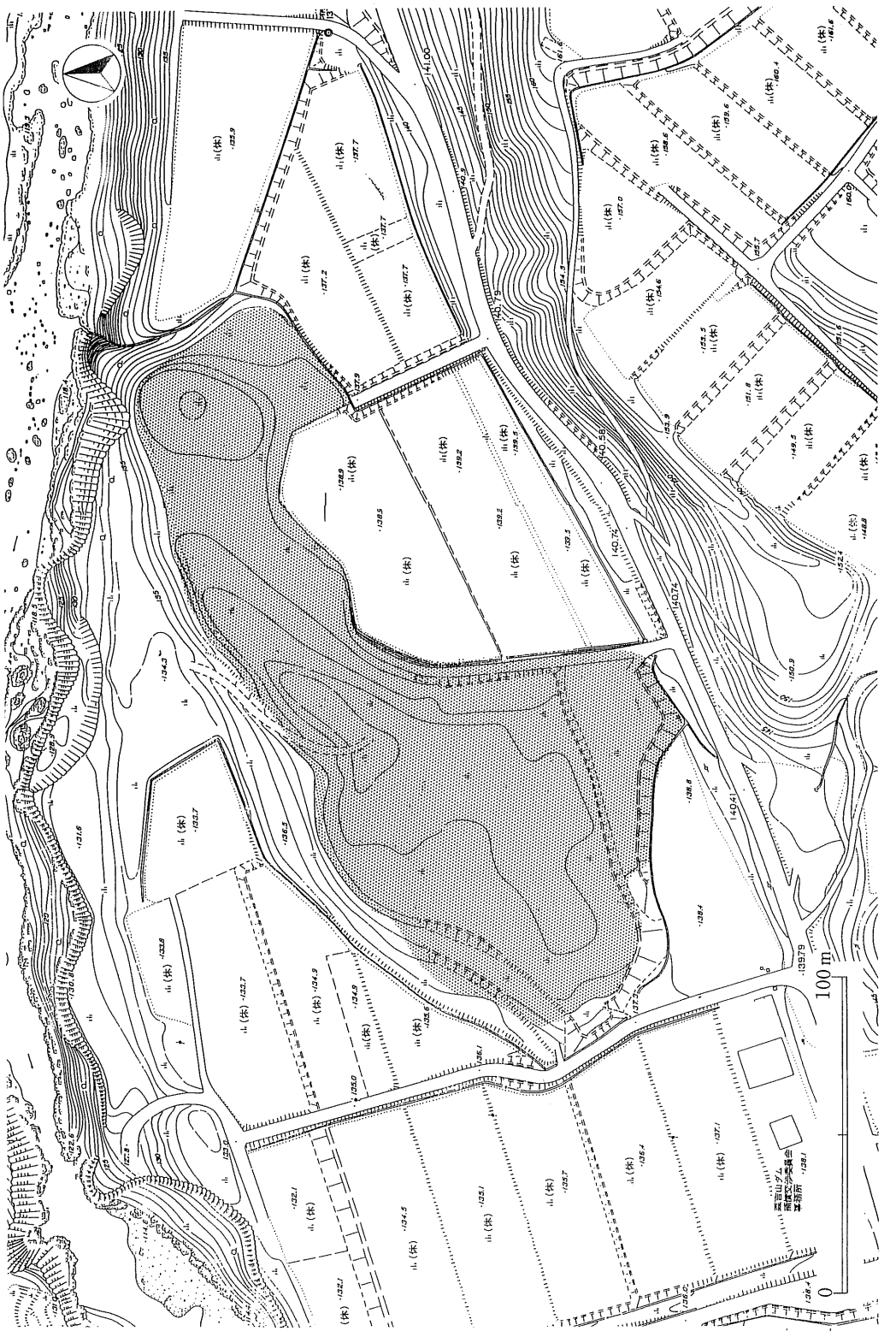
遺構・遺物の検出状況から標高142m前後の微高地上が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

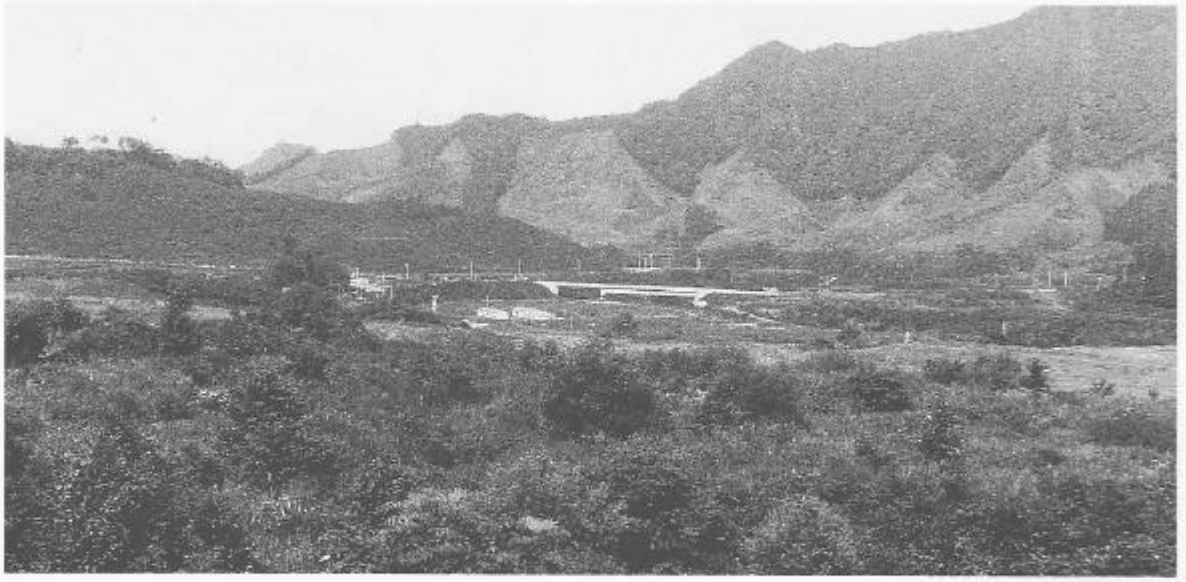
微高地西側に縄文時代後期の住居跡および土坑群が多数検出されると予想される。また頂上部の南側400㎡に配石遺構のまとまりがあり、さらに南東斜面には生活用具の廃棄場所がある。遺物については、縄文時代前期・後期の土器と石器が出土しており、とくに後期を主体とした遺物の出土量がかなり多いと予想される。



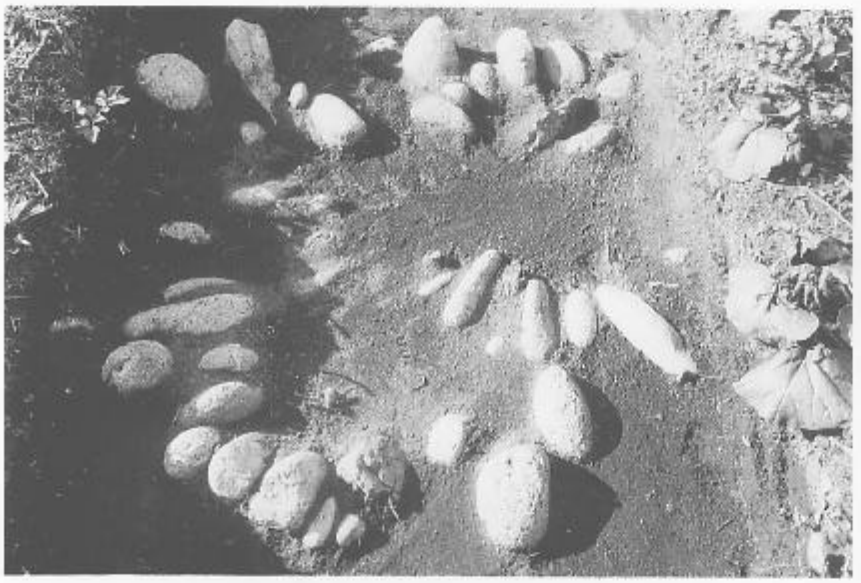
第20図　漆下地区調査結果図



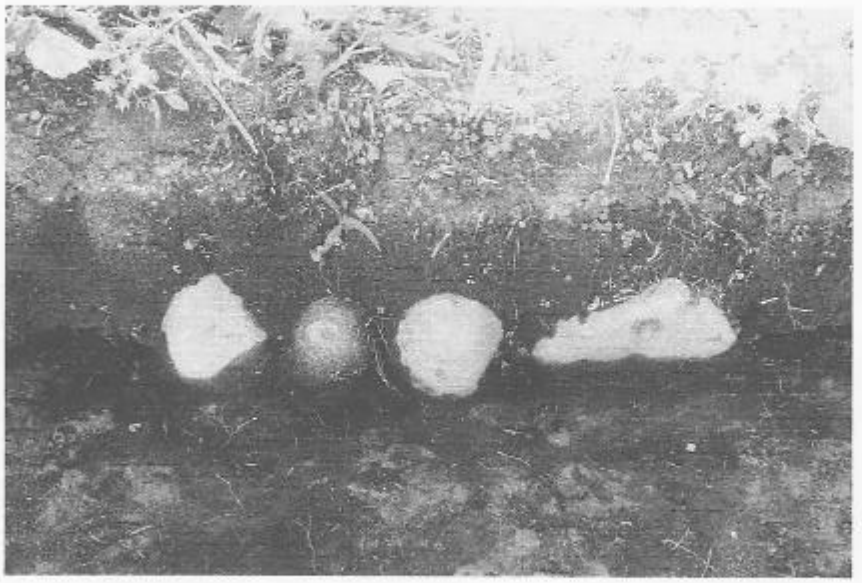
第21図　漆下地区遺跡範囲図



△漆下遺跡
遠景（南から）



◁漆下遺跡検出の
配石遺構



◁漆下遺跡
配石遺構と土層

（3）上ハ岱A遺跡、上ハ岱B遺跡

1　遺跡所在地

上ハ岱A遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字上ハ岱102、104、105、106外

上ハ岱B遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字上ハ岱70、71、72

2　範囲確認調査期間　　平成7年5月9日～10月31日

3　範囲確認調査対象面積　　20,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　上ハ岱A遺跡4,400㎡、上ハ岱B遺跡2,100㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

上ハ岱A・B遺跡は、森吉山麓から北方向に張り出た丘陵先端部に立地している。南北に走る沢によって分かれ、西側を上ハ岱A遺跡、東側を上ハ岱B遺跡とする。上ハ岱A遺跡は西側が狭まり独立丘の様相を呈する。いずれも標高は150m前後である。

②現況

上ハ岱A遺跡はかつて畑地であり、西側では土取りによる削平が大きく行われていた。上ハ岱B遺跡は、5反歩前後の区画からなる水田である。上ハ岱Bの水田については、最近土取りが行われた痕跡がある。

6　範囲確認調査の方法

地形を考慮して任意にトレンチ箇所を設定し、重機により表土を除去した後、地山面を精査して遺構の有無を確認していった。

7　範囲確認調査の結果

A：上ハ岱A遺跡

①層位

表土が削られ、東側の一角に盛土されていた。削平が20cm前後におよぶとみられた。東側の先端部と丘下の斜面においては、表土耕作土の下に遺物包含層の黒褐色土が認められた。第22図に示したA1・A2地点における層位と深さを下に記した。

A1－表土黒色土20cm・明黄褐色土（遺構確認面）

A2－盛土50cm・黒褐色土40cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

上ハ岱A遺跡では東端部で土坑・炉跡が確認された。遺物は調査区の東側と北側斜面から出土している。また斜面下方の農道からも多量の遺物が出土している。大部分が縄文時代晩期の土器・石器・石器素材であり、中期・後期の土器が少量混じっていた。範囲確認調査は遺跡全

体の５％を行い、中コンテナで1.5箱程の出土量である。

Ｂ：上ハ岱Ｂ遺跡

①層位

耕地整理により削平されており、さらに最近の土取りで表土が除去されていた。第22図に示したＢ１・Ｂ２地点における層位と深さを下に記した。

Ｂ１－暗褐色土20cm・浅黄褐色土（遺構確認面）

Ｂ２－暗褐色土17cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

黒色土が残る南東側で遺物が見つかった。遺物は縄文時代後期の土器および石器・石器素材が出土している。なお範囲確認調査は遺跡全体の５％を行い、中コンテナで0.5箱程の出土量である。

8　所見

Ａ：上ハ岱Ａ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代晩期を中心とする小規模の集落遺跡である。

②遺跡の範囲

西側は削平されているが、東側に検出された遺構状況から、標高150m前後の丘が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

丘陵東側縁辺に縄文時代の住居跡および土坑群がまとまって検出されると予想される。

Ｂ.上ハ岱Ｂ遺跡

①遺跡の種類

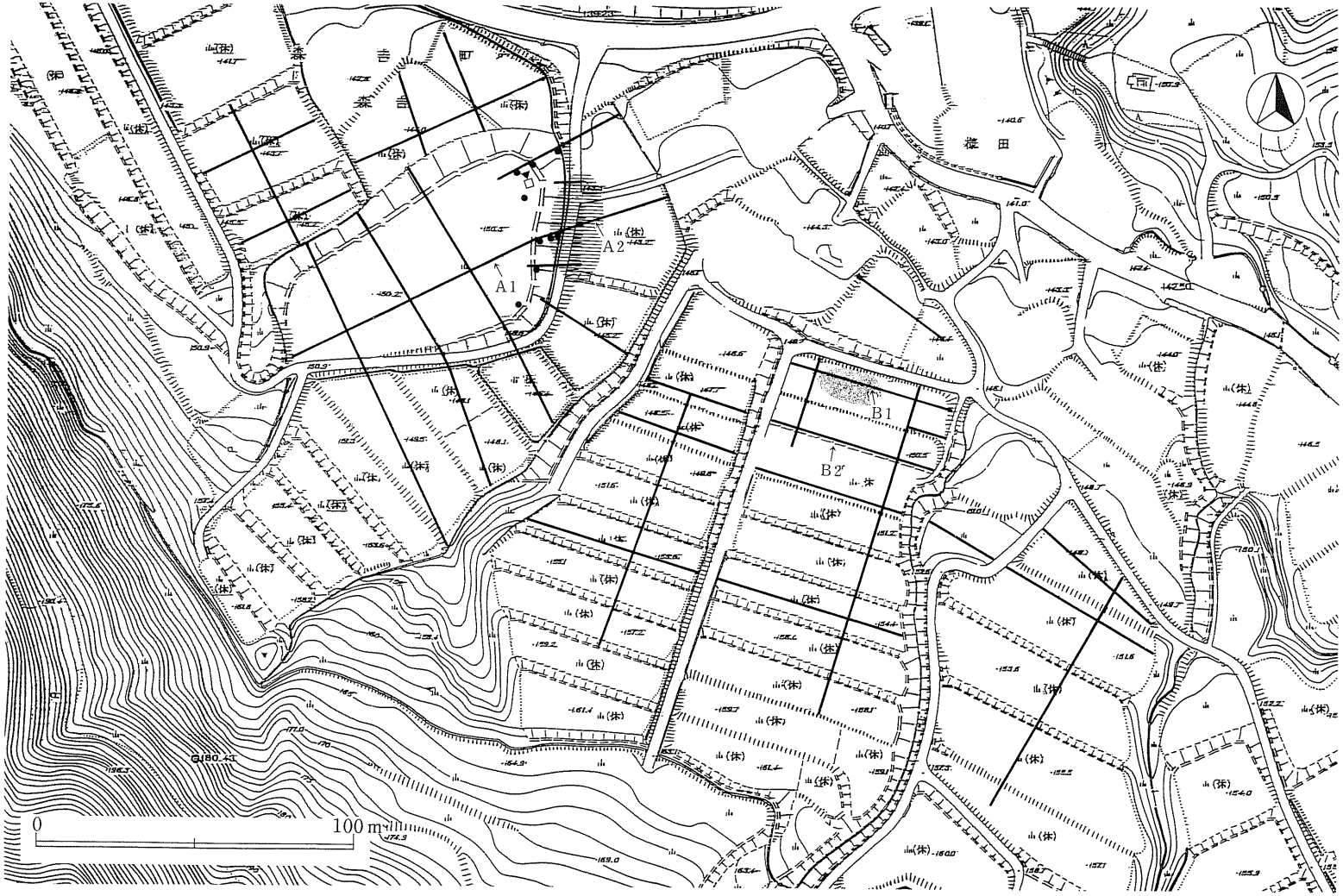
縄文時代晩期の小規模な集落遺跡である。地山の状況から旧石器の包含層がある可能性もある。

②遺跡の範囲

標高150mの丘陵裾部が遺跡の範囲で、東側と西側はＶ字状に入る沢によって画されていると考えられる。

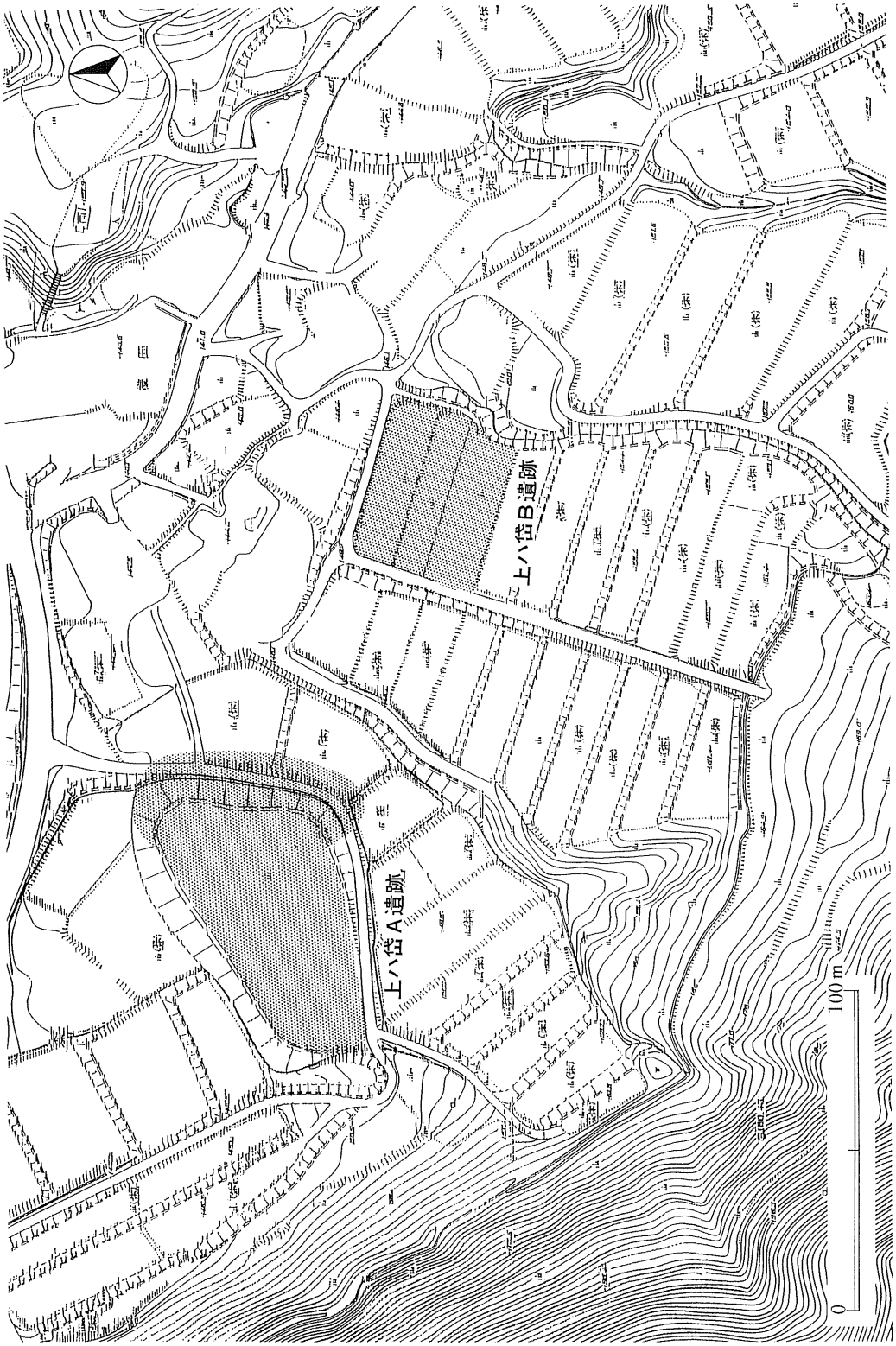
③発掘時に予想される遺構・遺物

丘陵先端部に土坑がまとまって検出される可能性が高い。旧石器の遺跡面積はおよそ200㎡とみられる。



第22図　上ハ岱地区調査結果図

住居跡　炉をともなう　　生活用具廃棄場所
土坑　　旧石器包含層推定範囲



第23図　上ハ岱地区遺跡範囲図

△上ハ岱A遺跡　調査状況　（南から）

△上ハ岱B遺跡　調査状況　（西から）

（４）二重鳥（ふたえどり）Ａ遺跡、二重鳥Ｂ遺跡、二重鳥Ｃ遺跡、二重鳥Ｄ遺跡 二重鳥Ｅ遺跡、二重鳥Ｆ遺跡、二重鳥Ｇ遺跡、二重鳥Ｈ遺跡

１　遺跡所在地

二重鳥Ａ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字二重鳥31－１、32－２、47－１、106－１、134、135

二重鳥Ｂ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字二重鳥11、99、100外

二重鳥Ｃ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字二重鳥93、94、95、96、97、110

二重鳥Ｄ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字二重鳥39

二重鳥Ｅ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字二重鳥65、66－１、69、70－２、70－３

二重鳥Ｆ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字二重鳥124－１

二重鳥Ｇ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字二重鳥80、81－１、84－１

二重鳥Ｈ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字二重鳥６、14、15

２　範囲確認調査期間　平成７年５月９日～10月31日

３　範囲確認調査対象面積　97,000㎡

４　工事区域内遺跡面積

二重鳥Ａ：4,100㎡、二重鳥Ｂ：2,500㎡、二重鳥Ｃ：3,200㎡、二重鳥Ｄ：1,800㎡

二重鳥Ｅ：3,900㎡、二重鳥Ｆ：　500㎡、二重鳥Ｇ：3,200㎡、二重鳥Ｈ：7,700㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

二重鳥地区は、旧様田集落の東側の丘陵部にある。上ハ岱地区とは東側がスキー場に登る道路で、漆下地区とは南側の丘陵裾部を通る県道小滝・阿仁前田停車場線で区画されている。

二重鳥Ａ～Ｈ遺跡は、森吉山の山麓から連なる北方向に張り出す丘陵地の先端にそれぞれの遺跡が立地している。西には上ハ岱地区と二重鳥地区を区画する大きな沢（大沢と仮称）が入っており、現状はスキー場に登る道路となっている。東は向様田橋に向かって下る狭く深い沢（深沢と仮称）で区画されている。その中位には二重鳥Ｈ遺跡からＡ遺跡にかけて南から北にそして東から西へと屈曲しながら下る沢（中沢と仮称）が入り、それぞれの遺跡が沢に面している。Ａ遺跡は南側が中沢に、Ｂ・Ｃ遺跡は西側が大沢に東側が中沢に、Ｄ・Ｅ遺跡は北側が大沢に、Ｆ・Ｇ遺跡は東側が中沢に、Ｈ遺跡は東側が深沢に西側が中沢に面している。

②現況

Ａ遺跡はかつての畑地と水田を対象として調査を行ったが、西側の水田は傾斜地の低い部分を削り水田化したものである。Ｂ遺跡は神社地と隣接しており、山林および畑地である。神社

地区は未調査である。C遺跡も原野および山林・畑地であり、北東部分が未調査である。D遺跡も畑地である。G遺跡の東側が畑地であるが、その外の遺跡は昭和48年以降の耕地整理によって、現状でみられる5反歩前後の水田区画に改変されたものである。

6　範囲確認調査の方法

畑地部分は地形に応じてトレンチを設定し、水田部分はあらかじめ2m四方の坪掘り箇所を設定し、遺物と遺構の有無・層位・深さを確認した。結果として耕地整理により地形の改変が大きく行われていたことが判明したことから、重機によって盛土および表土を除去し、遺物の有無、地山面における遺構の存在を確認していった。

7　範囲確認調査の結果

A：二重鳥A遺跡

①層位

高位部の畑地は開墾され、表土が軟らかく薄い。低位の水田部分での地山は灰褐色の粘土層であり、上に粘土混じりの黒色土を1m前後盛った状態であった。表土耕作土の下に遺物包含層とみられる黒褐色土が認められた。第24図に示したA1、A2、A3地点における層位と深さを下に記した。

A1－表土黒褐色土20cm・明黄褐色土（遺構確認面）

A2－表土黒褐色土20cm・明黄褐色土（遺構確認面）

A3－表土黒褐色土25cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

高位部の畑地で住居跡と考えられる広い落ち込みを2カ所、土坑の落ち込み4カ所が確認された。遺物は広い範囲で確認され、とくに南西斜面で多量に出土した。大部分が縄文時代晩期の土器であり、前期と後期の土器片がわずかに含まれる。その外石器および石器素材があり、中から旧石器時代の掻器が1点見つかっている。低位部の水田でも住居跡とみられる落ち込み3カ所を確認した。周辺からの出土遺物は縄文晩期の土器および石器・石器素材である。範囲確認調査は遺跡全体の12%を行い、中コンテナで4.5箱程の出土量である。

B：二重鳥B遺跡

①層位

北側が畑地で開墾され、表土が軟らかく薄い。南側は杉林で切り株が残っている。表土の厚さは25cm前後であり、その下が明黄褐色の地山となる。第24図に示したB1・B2地点における層位と深さを下に記した。

B1－表土黒褐色土25cm・明黄褐色土（遺構確認面）

B2－表土暗褐色土20cm・黒褐色土20cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

北東側で住居跡と思われる落ち込み・土坑・焼土遺構を検出した。縄文時代前期・中期・後期・晩期の土器・石器・石器素材が出土している。後期の土器が北東側で比較的まとまってみつかった。石器の中に旧石器時代のナイフ形石器が１点確認された。範囲確認調査は遺跡全体の６％を行い、中コンテナで1.5箱程の出土量である。

Ｃ：二重鳥Ｃ遺跡

①層位

畑地で開墾され、表土が軟らかく薄い。第24図に示したＣ１・Ｃ２地点における層位と深さを下に記した。

Ｃ１－表土黒褐色土15cm・明黄褐色土（遺構確認面）

Ｃ２－表土黒褐色土60cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

丘陵中央部で住居跡と思われる落ち込みと焼土遺構を確認した。南西側でも土器埋設炉が確認された。土坑は住居跡の周辺から８基を検出した。北縁の土坑のそばに80cmの長い石が横たわっていた。遺物は広い範囲で縄文時代前期・中期・後期の土器・石器・石器素材が出土している。北西側の一角が浅い沢となっており、遺物がまとまって出土している。なお範囲確認調査は遺跡全体の７％を行い、中コンテナで1.5箱程の出土量である。

Ｄ：二重鳥Ｄ遺跡

①層位

畑地で開墾され、南東側で表土が薄く、北西側に向かって深くなる。第24図に示したＤ１・Ｄ２地点における層位と深さを下に記した。

Ｄ１－表土暗褐色土10cm・黒褐色土15cm・黄褐色土（遺構確認面）

Ｄ２－表土黒褐色土45cm・黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

中央部と北側で住居跡と思われる落ち込みと土坑を確認している。遺物は住居跡の埋土上面と丘陵先端で多量に出土しており、縄文時代後期の土器・石器・石器素材である。なお範囲確認調査は遺跡全体の４％を行い、中コンテナで２箱程の出土量である。

Ｅ：二重鳥Ｅ遺跡

①層位

耕地整理で南側が削平されており、地表面は削平により移動した土が覆う。低位面中間に浅い沢が入り、かつての表土の上に盛土されていて１ｍ前後の厚さがある。第24図に示したＥ１・Ｅ２・Ｅ３・Ｅ４地点における層位と深さを下に記した。

E１－表土にぶい黄褐色土20cm・黄褐色土（遺構確認面）

E２－表土にぶい黄褐色土50cm・にぶい黄褐色土20cm（旧水田面）・黄褐色土（遺構確認面）

E３－表土黒褐色土15cm・暗褐色土15cm・黄褐色土（遺構確認面）

E４－表土黒褐色土30cm・褐色土70cm・黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

北側で１基の土坑、南側で住居跡と思われる落ち込みを２カ所、土坑４基を確認した。確認した土坑のうち１基は上面に配石を伴う特殊な遺構である。縄文土器が遺構周辺に散布していたが、南北で時期の違いがあり、北側では前期の土器、南側で後期・晩期の土器・石器・石器素材が出土した。なお範囲確認調査は遺跡全体の５％を行い、中コンテナで1.5箱程の出土量である。

F：二重鳥F遺跡

①層位

地表面の状態から南側は緩斜面を深く削り取っているとみられた。遺跡は水田の北縁にあたるが、表土が薄かった。第24図に示したF１地点における層位と深さを下に記した。

F１－表土黒褐色土20cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

土坑が１基と小さいピットを検出した。遺物は確認されなかった。

G：二重鳥G遺跡

①層位

下位は畑地で開墾され、表土が軟らかく薄い。上位との段差部分だけが盛土され深い。南側の一部が土取りされている。第24図に示したG１・G２地点における層位と深さを下に記した。

G１－表土黒褐色土45cm・暗褐色土40cm・黒褐色土35cm・明黄褐色土（遺構確認面）

G２－表土暗褐色土15cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

東側で住居跡と思われる落ち込みと土坑を検出した。遺物は遺構埋土上面にまとまっており、縄文時代晩期の土器・石器・石器素材が出土している。周辺で中期の土器が１点だけ確認している。なお範囲確認調査は遺跡全体の５％を行い、中コンテナ１箱程の出土量である。

H：二重鳥H遺跡

①層位

耕地整理で高位部が削平され、低い部分に盛土されている。特に北端では１m以上の盛土の厚さがあった。第24図に示したH１地点における層位と深さを下に記した。

H１－表土黒褐色土80cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

北側で土坑らしい落ち込みを確認した。出土遺物は少なく、縄文土器片・石器素材が散布していた。土器は縄文時代晩期のものである。なお範囲確認調査は遺跡全体の5％を行い、中コンテナで0.3箱程の出土量である。

8　所見

A：二重鳥A遺跡

①遺跡の種類

縄文時代晩期を中心とする集落遺跡であり、南西斜面が生活用具の廃棄場所となっている。また旧石器時代の包含層が高位部の東側にあると考えられる。

②遺跡の範囲

高位部の畑地と低位部の水田が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

高位部と低位部で縄文時代晩期の住居跡数軒と土坑がまとまっていると予想される。遺物については、縄文時代晩期の土器と石器が多量に出土すると予想される。旧石器の包含層は400㎡とみられる。

B：二重鳥B遺跡

①遺跡の種類

北東側が縄文時代後期を中心とする集落遺跡である。周辺の一部で縄文時代前期・中期の遺構と重複していると考えられる。また旧石器時代の包含層が南西側にあると考えられる。

②遺跡の範囲

南東側と北西側が未調査区域であるが、丘陵平坦面全域が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代後期の住居跡および土坑群がまとまって検出されると予想される。遺物については、縄文時代後期の土器を主として石器および石器素材が多く出土すると予想される。旧石器の包含層は400㎡とみられる。

C：二重鳥C遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期を中心とする集落遺跡であり、北と南東斜面に生活用具の廃棄場所をともなっている。

②遺跡の範囲

北西側が未調査区域であるが、遺構・遺物の検出状況から丘陵高位部と南東の斜面が遺跡の範囲と考えられる。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代後期の住居跡・土坑群がまとまって検出されるものと予想される。遺物の出土量も比較的多く、石器および石器素材の割合が高いと予想される。

D：二重鳥D遺跡：

①遺跡の種類

縄文時代後期の小規模な集落遺跡であり、北側斜面が生活用具の廃棄場所である。

②遺跡の範囲

遺物・遺構の検出状況から丘陵先端が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

狭い範囲に縄文時代の住居跡および土坑群がまとまって検出されると予想される。遺構内と北側斜面から多量の出土遺物があると予想される。

E：二重鳥E遺跡

①遺跡の種類

縄文時代前期と後期・晩期の集落遺跡である。

②遺跡の範囲

北側が沢に面した南北に幅が広い丘陵端部が遺跡の範囲と考えた。

③発掘時に予想される遺構・遺物

北側で縄文時代前期の住居跡と土坑群が、南側でも縄文時代後期・晩期の住居跡・土坑が検出されると予想される。南側のほうが遺構密度が高いと思われる。遺物の出土量は比較的多いと予想される。

F：二重鳥F遺跡

①遺跡の種類

縄文時代の小規模な遺跡である。

②遺跡の範囲

丘陵先端部が遺跡の範囲である。

③発掘時に予想される遺構・遺物

縄文時代の土坑が数基検出されるが、遺物の出土量は少ないものと予想される。

G：二重鳥G遺跡

①遺跡の種類

縄文時代晩期の集落遺跡である。

②遺跡の範囲

丘陵先端部が遺跡の範囲である。

③発掘時に予想される遺構・遺物

東側縁辺に縄文時代晩期の住居跡と土坑群がまとまって検出されると予想される。

H：二重鳥H遺跡

①遺跡の種類

縄文時代晩期の集落遺跡である。

②遺跡の範囲

北側に面する丘陵裾部が遺跡の範囲である。

③発掘時に予想される遺構・遺物

北側縁辺に縄文時代の土坑群がまとまって検出されるものと予想される。遺物の出土量は少ないと思われる。

（5）水上遺跡

1　遺跡所在地　秋田県北秋田郡森吉町森吉字水上42−1、43−1、44、113−6外

2　範囲確認調査期間　平成7年5月9日～10月31日

3　範囲確認調査対象面積　10,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　4,000㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡は、森吉山山麓からつらなる丘陵地の高位部にある。東から西に傾斜しており、標高が最も高いところで172mである。西側は森吉山にのぼる町道が通っており、二重鳥地区と区画されている。

②現況

かつての水田および畑地を対象として調査を行った。

6　範囲確認調査の方法

地形を考慮して任意にトレンチ箇所を設定し、重機により表土を除去した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認していった。

7　範囲確認調査の結果

①層位

遺跡の所在する標高170mの丘陵部においては、表土の下に遺物包含層とみられる黒褐色土

が認められた。第24図に示したA′1・A′2地点における層位と深さを下に記した。

A′1－表土暗褐色土20cm・黒色土25cm・明黄褐色土（遺構確認面）

A′2－表土黒褐色土35cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

東側の高位部と西側の低位部で時期の違いがあり、上位で縄文時代中期の土器が、下位で縄文時代晩期の土器が出土している。いずれにおいても土坑の落ち込みを検出した。土器の他に石器・石器素材が出土している。上位・下位のいずれも西側で遺物が多く出土した。なお範囲確認調査は遺跡全体の5％を行い、中コンテナで2箱程の出土量である。

8　所見

①遺跡の種類

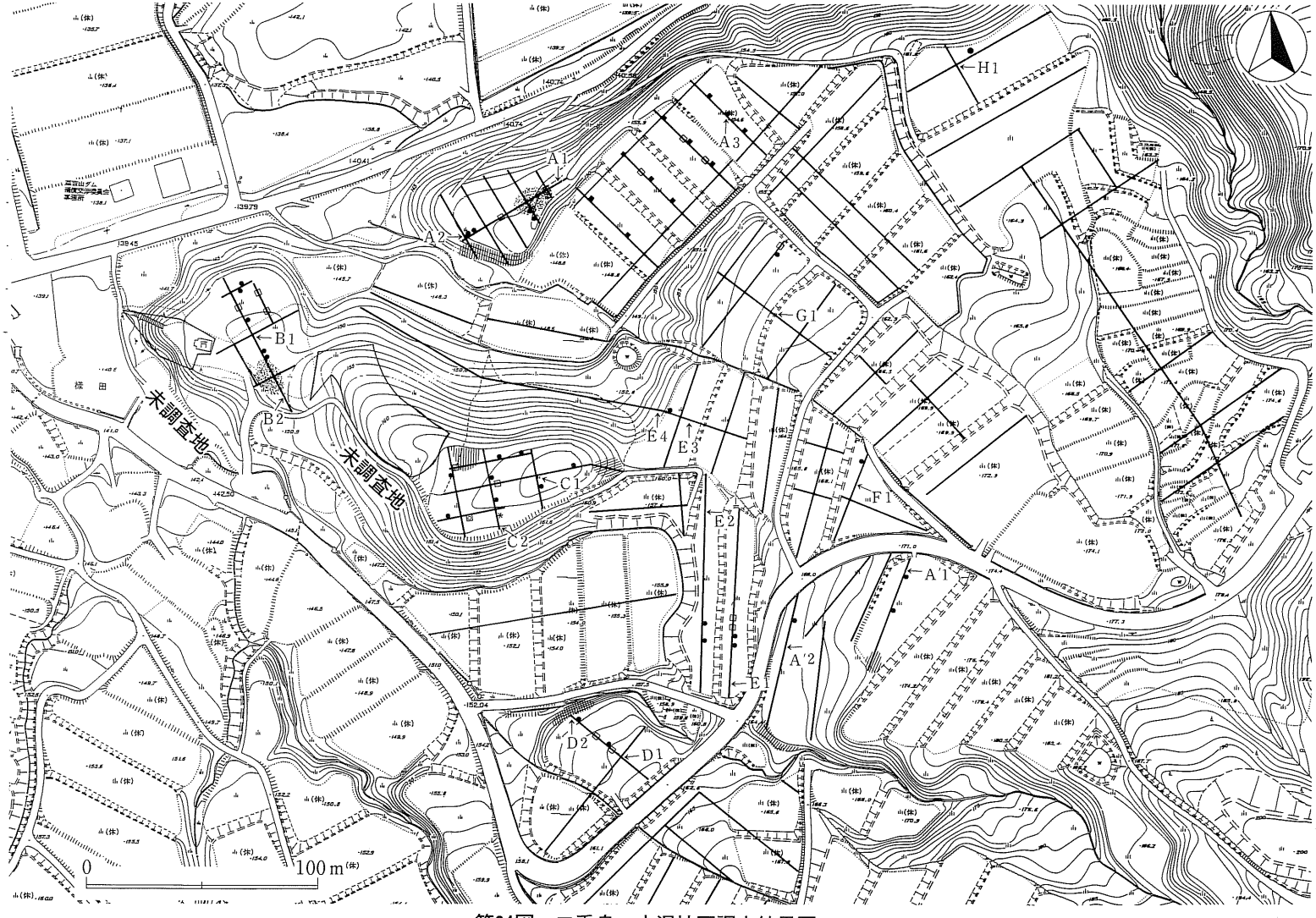
縄文時代中期と晩期の集落遺跡である。

②遺跡の範囲

遺構・遺物の検出状況から標高168mから172mの丘陵部が遺跡の範囲であると判断した。

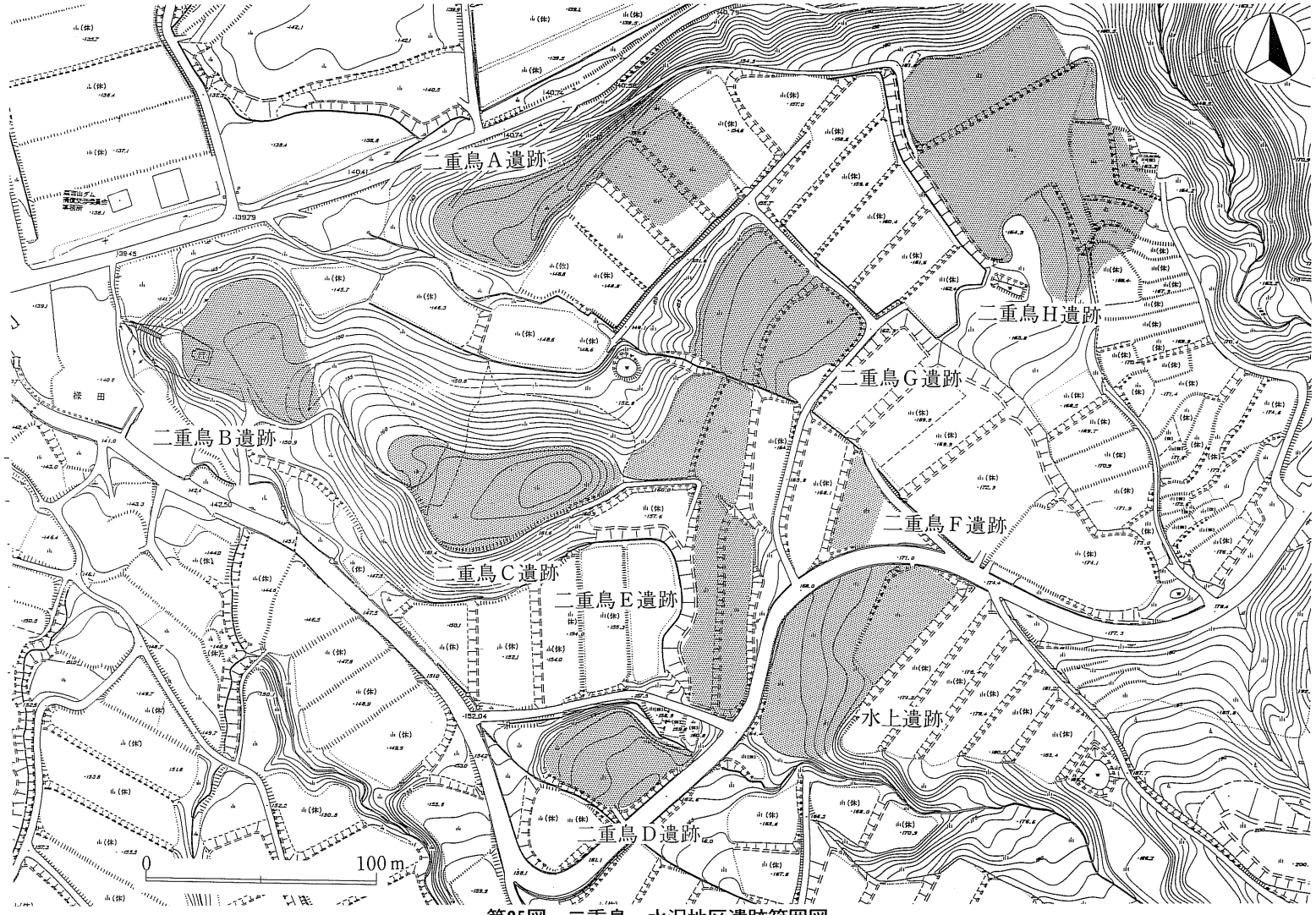
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

上位の丘陵縁辺では縄文時代中期の住居跡および土坑が、下位では縄文時代晩期の住居跡および土坑がまとまって検出されると予想される。遺物廃棄場所は西斜面にあり、遺物の出土量が比較的多いものと予想される。



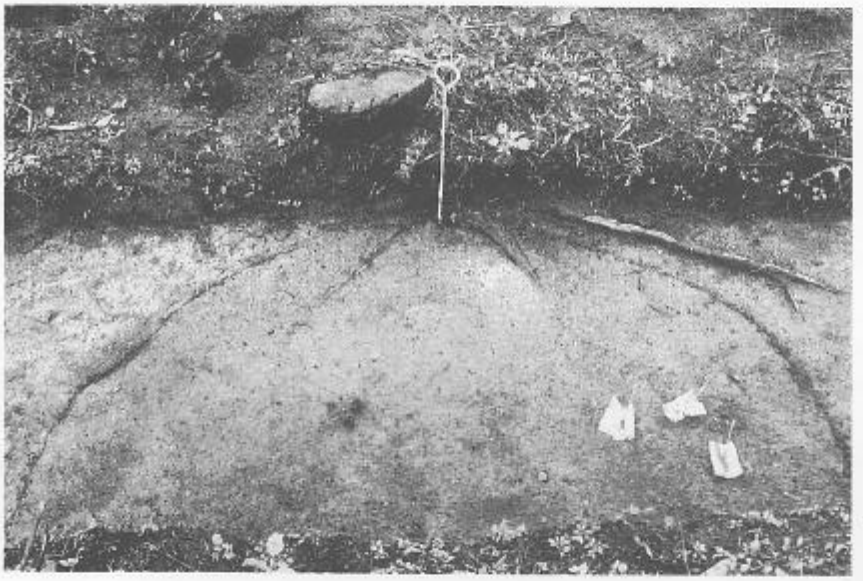
第24図　二重鳥・水沢地区調査結果図

住居跡　□
土坑　●
石組み　＊
土器埋設炉をともなう住居跡　◎
生活用具廃棄場所
旧石器包含層堆定範囲

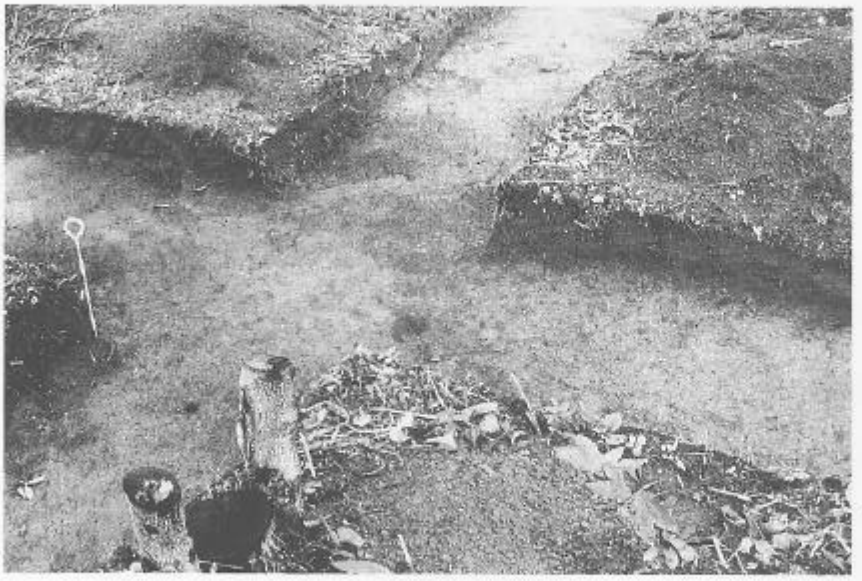


第25図　二重鳥・水沢地区遺跡範囲図

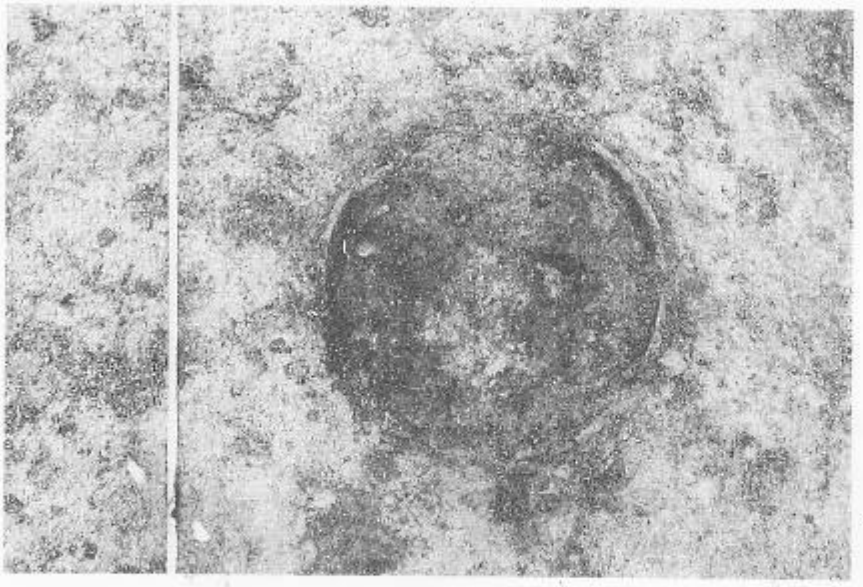
△二重鳥Ａ遺跡
東西トレンチ(東から)



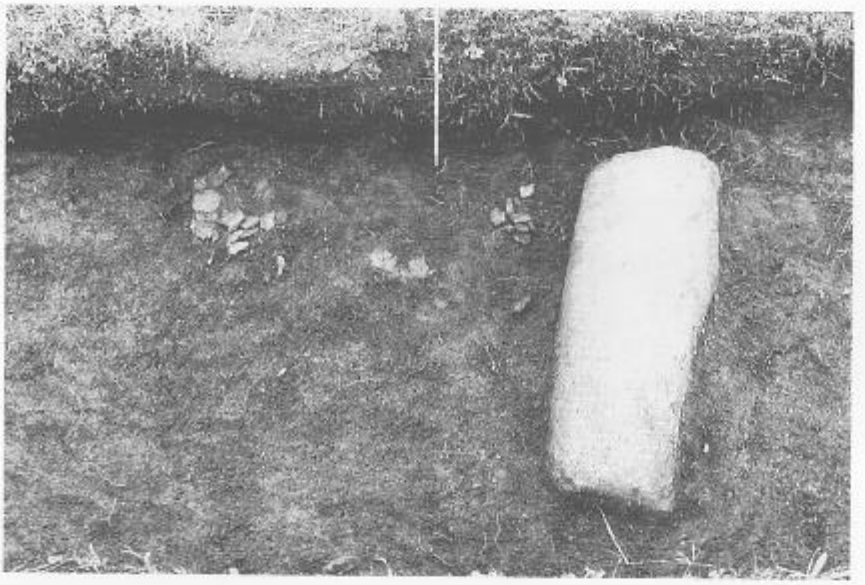
◁二重鳥Ａ遺跡検出の
土坑



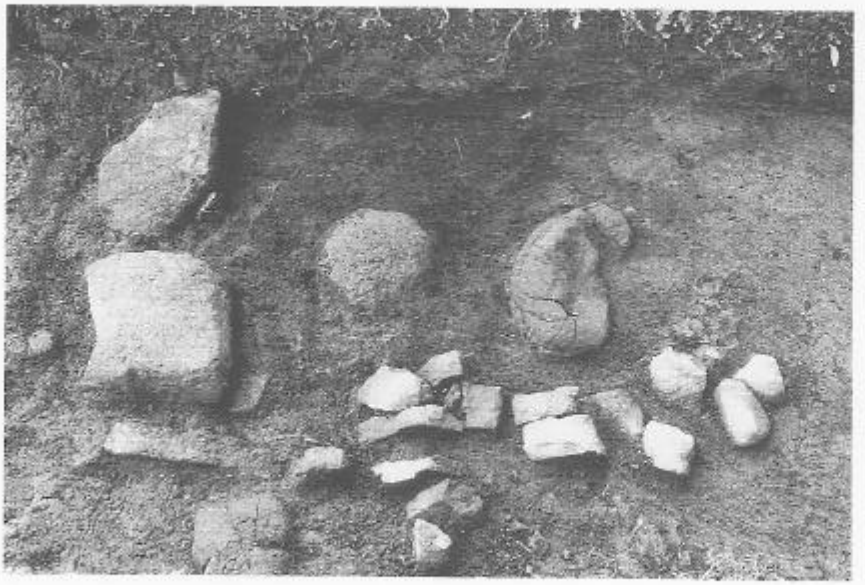
◁二重鳥Ａ遺跡検出の
住居跡の落ち込み



◁二重鳥C遺跡検出の
土器埋設炉



◁二重鳥C遺跡検出の
土坑および大石



◁二重鳥E遺跡検出の
石組をともなう土坑

（６）天津場（あまつば）Ａ遺跡、天津場Ｂ遺跡、天津場Ｃ遺跡

１　遺跡所在地

天津場Ａ遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字天津場15－３

天津場Ｂ遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字天津場16－１

天津場Ｃ遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字天津場87－１、87－３、88－２

２　範囲確認調査期間　　平成７年５月９日～10月31日

３　範囲確認調査対象面積　　50,000㎡

４　工事区域内遺跡面積

天津場Ａ遺跡1,900㎡、天津場Ｂ遺跡900㎡、天津場Ｃ遺跡1,300㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

天津場Ａ・Ｂ遺跡は、小又川の北側にそびえる源五郎岳の山裾から南に張り出す丘陵先端に立地している。ネネム沢地区の西に位置し、東に深く入る沢で区画されている。天津場Ａ遺跡の最も高いところで標高182ｍであり、天津場Ｂ遺跡は10ｍ下の丘陵中腹の張り出し部にある。天津場Ｃ遺跡は南に向いた中位河岸段丘の端部にあり、西に傾斜している。高位部の標高は148ｍ前後である。

②現況

Ａ遺跡はかつて山林であり、Ｂ遺跡はかつての原野を対象として調査を行った。Ｃ遺跡は西側が畑地で東側は墓地であった。

６　範囲確認調査の方法

地形を考慮して任意にトレンチ箇所を設定し、重機により表土を除去した後、地山面を精査して遺構の有無を確認していった。

７　範囲確認調査の結果

Ａ：天津場Ａ遺跡

①層位

上位の表土は軟質で薄く、深さ20㎝前後掘り下げると地山の明黄褐色土に達したが、西は緩い斜面で表土が深くなっている。第26図に示した２地点における層位と深さを下に記した。

Ａ１－表土黒褐色土35㎝・明黄褐色土（遺構確認面）

Ａ２－表土黒褐色土35㎝・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

遺構は住居跡２軒と土坑が４基検出された。遺物は調査区の広い範囲で出土しており、縄文

時代後期の土器・石器・石器素材、古代の須恵器である。範囲確認調査は遺跡全体の６％を行い、中コンテナで１箱程の出土量である。

Ｂ：天津場Ｂ遺跡

①層位

上位では表土は軟質で薄く、深さ35cm前後掘り下げると地山の明黄褐色土に達したが、遺構の確認された丘陵中位は斜面から平坦面に変わる部分で斜面から流れた土の堆積が厚かった。第26図に示したＢ１・Ｂ２地点における層位と深さを下に記した。

Ｂ１－表土黒褐色土35cm・黄褐色土（遺構確認面）

Ｂ２－表土黒褐色土35cm・黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

丘陵先端の付け根部分で石囲い炉と土坑が確認され、周辺で縄文時代後期の土器・石器・石器素材が出土した。なお範囲確認調査は遺跡全体の６％を行い、中コンテナで１箱程の出土量である。

Ｃ：天津場Ｃ遺跡

①層位

東側は墓地造成で削平されている。西側における上位の表土は畑の耕作で軟らかく、深さ30cm前後掘り下げると地山の明黄褐色土に達した。第26図に示したＣ１地点における層位と深さを下に記した。

Ｃ１－表土黒色土30cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

遺構は確認されなかった。遺物は縄文時代後期の土器・石器が出土しており、中コンテナで0.5箱程の出土量である。

８　所見

Ａ：天津場Ａ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期と古代が複合した集落遺跡である。

②遺跡の範囲

遺構・遺物の検出状況から南に張り出す丘陵先端部が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

古代の住居跡および縄文時代の土坑群がまとまって検出されると予想される。遺物の出土量は比較的多いと予想される。

B：天津場B遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期の小規模な遺跡である。

②遺跡の範囲

丘陵中腹の張り出し部が遺跡の範囲である。

③発掘時に予想される遺構・遺物

縄文時代後期の住居跡が数軒と土坑群が検出されると予想される。遺物は遺構内にまとまって検出されると思われる。

C：天津場C遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期の小規模な遺跡である。

②遺跡の範囲

遺構・遺物の検出状況から南に面した段丘端部が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代後期の土坑が検出されると予想される。遺物の出土量は少ないと思われる。

（7）ネネム沢A遺跡、ネネム沢B遺跡、ネネム沢C遺跡

1　遺跡所在地

ネネム沢A遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字ネネム沢26、27、28、29、30、31、32、33、34、35

ネネム沢B遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字ネネム沢17、19、22

ネネム沢C遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字ネネム沢6－1

2　範囲確認調査期間　平成7年5月9日～10月31日

3　範囲確認調査対象面積　20,000㎡

4　工事区域内遺跡面積

ネネム沢A遺跡6,100㎡、ネネム沢B遺跡1,000㎡、ネネム沢C遺跡700㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

ネネム沢A・B・C遺跡は、小又川の北にそびえる源五郎岳の山麓から南東方向に連なる丘陵地の先端に立地している。

ネネム沢A遺跡が最も高位部にあり、標高が180mである。丘陵の付け根は北から南に緩やかな傾斜をもっているが、南西に張り出した部分が馬の背状の高まりとなっている。ネネム沢B遺跡はA遺跡の中腹に張り出した舌状部にあり、A遺跡との比高差は14mである。ネネム沢C遺跡も丘陵端部の舌状部にあり、B遺跡とほぼ同じ高さである。B遺跡とは東に入る沢によって区画されている。

②現況

ネネム沢A遺跡はかつて畑地であり、東丘陵裾部が伐採木を運搬するため削平されている。ネネム沢B遺跡は、原野である西側の斜面を調査した。東側は墓地移転が終了しておらず、未調査である。ネネム沢C遺跡は原野を対象として調査を行った。

6　範囲確認調査の方法

地形を考慮して任意にトレンチ箇所を設定し、重機により表土を除去した後、地山面を精査して遺物・遺構の有無を確認していった。

7　範囲確認調査の結果

A：ネネム沢A遺跡

①層位

表土が薄い場所が多い。重機を使用して畑にしたようで、北側の高位部が削平され、下の沢に盛られている状態であった。第26図に示したA′1・A′2・A′3地点における層位と深さ

を下に記した。

A′1－表土にぶい黄褐色土10cm・明黄褐色土（遺構確認面）

A′2－表土暗褐色土50cm・黒褐色土40cm・明黄褐色土（遺構確認面）

A′3－表土褐色土15cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

南西部の尾根状の高い部分と北西の平坦部で住居跡が確認された。北東部では焼土遺構および土坑が確認された。遺物は調査区の広い範囲で出土しており、南西斜面で旧石器と縄文土器が確認されている。古代の土器は広い範囲で出土した。範囲確認調査は遺跡全体の8％を行い、中コンテナで3箱程の出土量である。

B：ネネム沢B遺跡

①層位

墓地造成のため南側の斜面が削られている。第26図に示した西斜面におけるB′1地点における層位と深さを下に記した。

B′1－表土黒褐色土25cm・黒色土35cm・黒褐色土35cm・明黄褐色土（遺構確認面）

なお北側では明黄褐色土（遺構確認面）まで1m30cmの深さがあった。

②遺構と遺物

木材の運搬路のため削られた斜面際で、焼土遺構が1基確認された。斜面に平行していれたトレンチで縄文時代後期の土器・石器・石器素材が多量に出土している。長さ50mのトレンチで、中コンテナ5箱程の出土量である。

C：ネネム沢C遺跡

①層位

表土が薄く、深さ30cmで黄褐色土の地山に達する。第26図に示したC′1・C′2地点における層位と深さを下に記した。

C′1－表土黒褐色土35cm・黄褐色土（遺構確認面）

C′2－表土黒褐色土20cm・黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

土坑が1基検出され、埋土上面で縄文時代晩期の土器が出土している。範囲確認調査は遺跡全体の12％を行い、中コンテナで0.3箱程の出土量である。

8　所見

A：ネネム沢A遺跡

①遺跡の種類

丘陵地全体に古代の遺構が広がり、南西の高位部は住居跡がまとまった集落と考えられる。

南西斜面で旧石器が採集され、高位部に粘土質の浅黄橙色の地山土が厚く堆積していることから、旧石器の包含層である可能性が高い。したがって南西の高い部分は旧石器時代、縄文時代後期、古代の複合遺跡と考えられる。

②遺跡の範囲

遺構・遺物の検出状況から標高180m前後の丘陵地が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

南西の高い部分に古代の住居跡、土坑群がまとまって検出されると予想される。また焼土遺構があることから土器生産あるいは鉄生産に関係する遺構の検出される可能性もある。高位部の旧石器の包含層の範囲は400㎡前後とみられる。

B：ネネム沢B遺跡

①遺跡の種類

遺物が密に出土することから縄文時代後期の生活用具の廃棄場所とみられる。

②遺跡の範囲

東側が未調査であるが、丘陵中腹の張り出し部が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

西に生活用具の廃棄場所があることから、遺構は東側の未調査区域にあるものと予想される。

C：ネネム沢C遺跡

①遺跡の種類

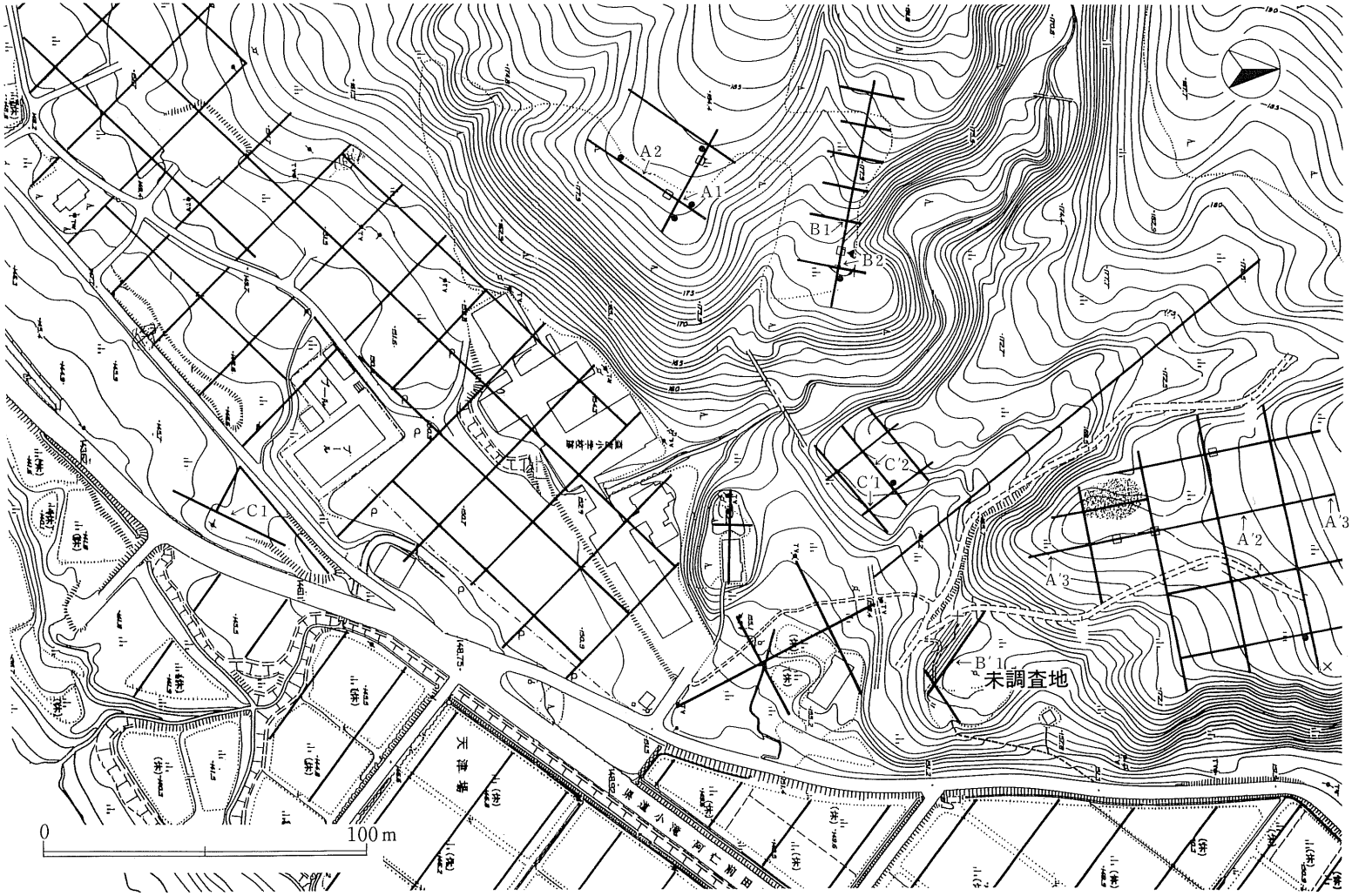
縄文時代晩期の小規模な遺跡である。

②遺跡の範囲

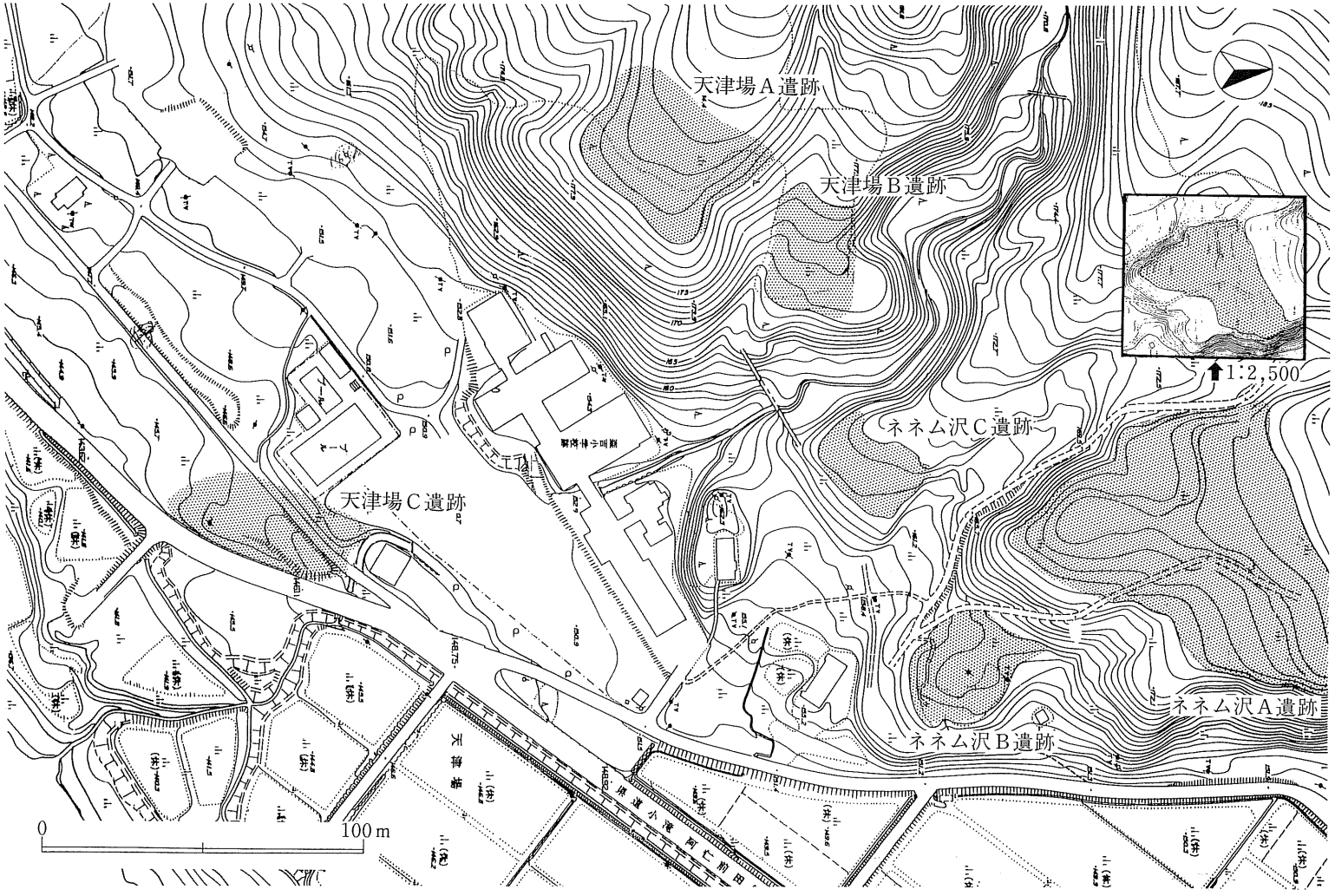
遺物・遺構の検出状況から丘陵端部が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

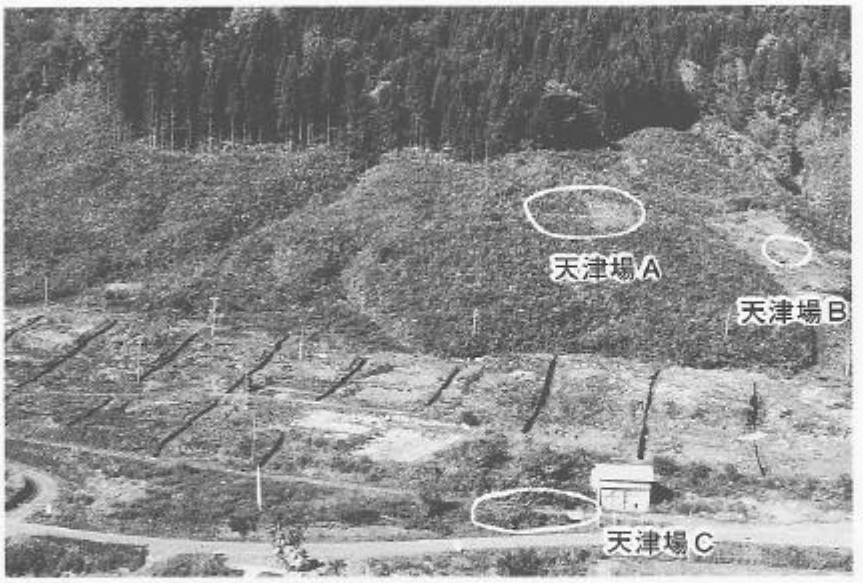
縄文時代晩期の土坑が数基検出されると予想される。遺物の出土量は少ないものと思われる。



第26図　天津場・ネネム沢地区調査結果図



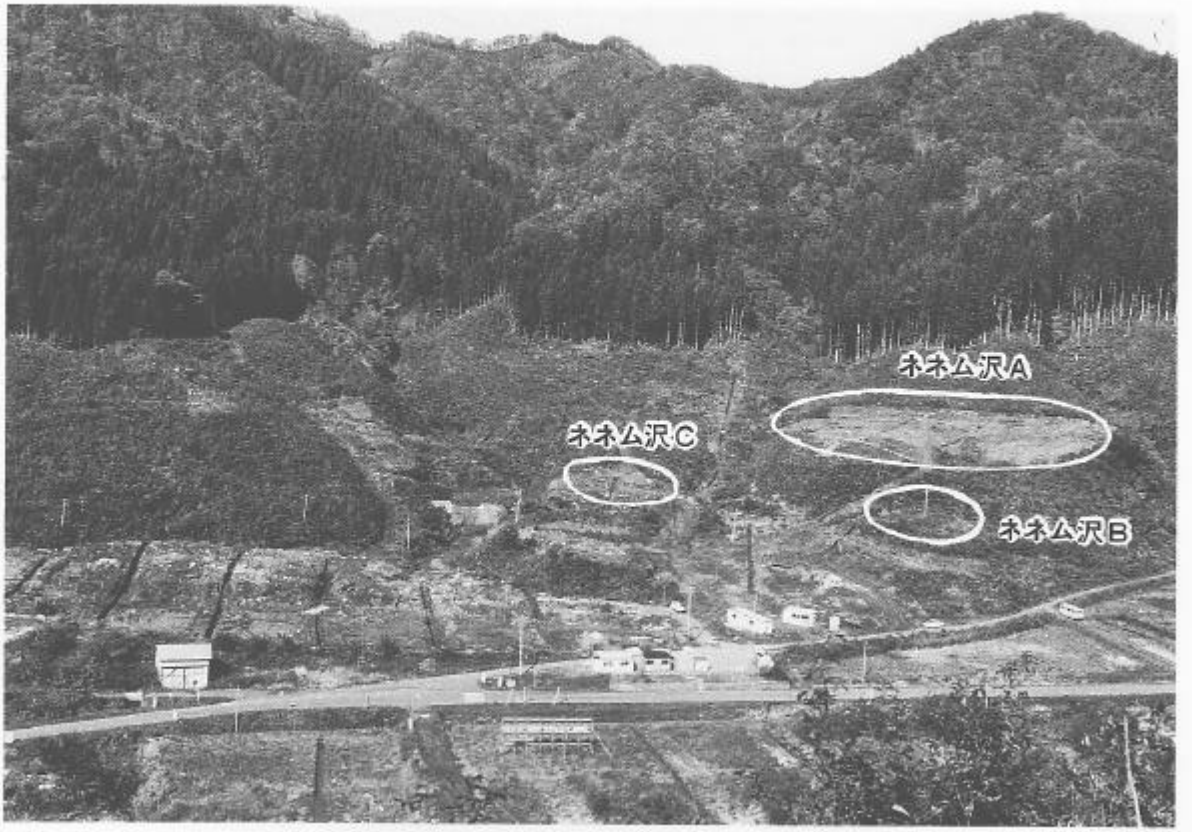
第27図　天津場・ネネム沢地区遺跡範囲図



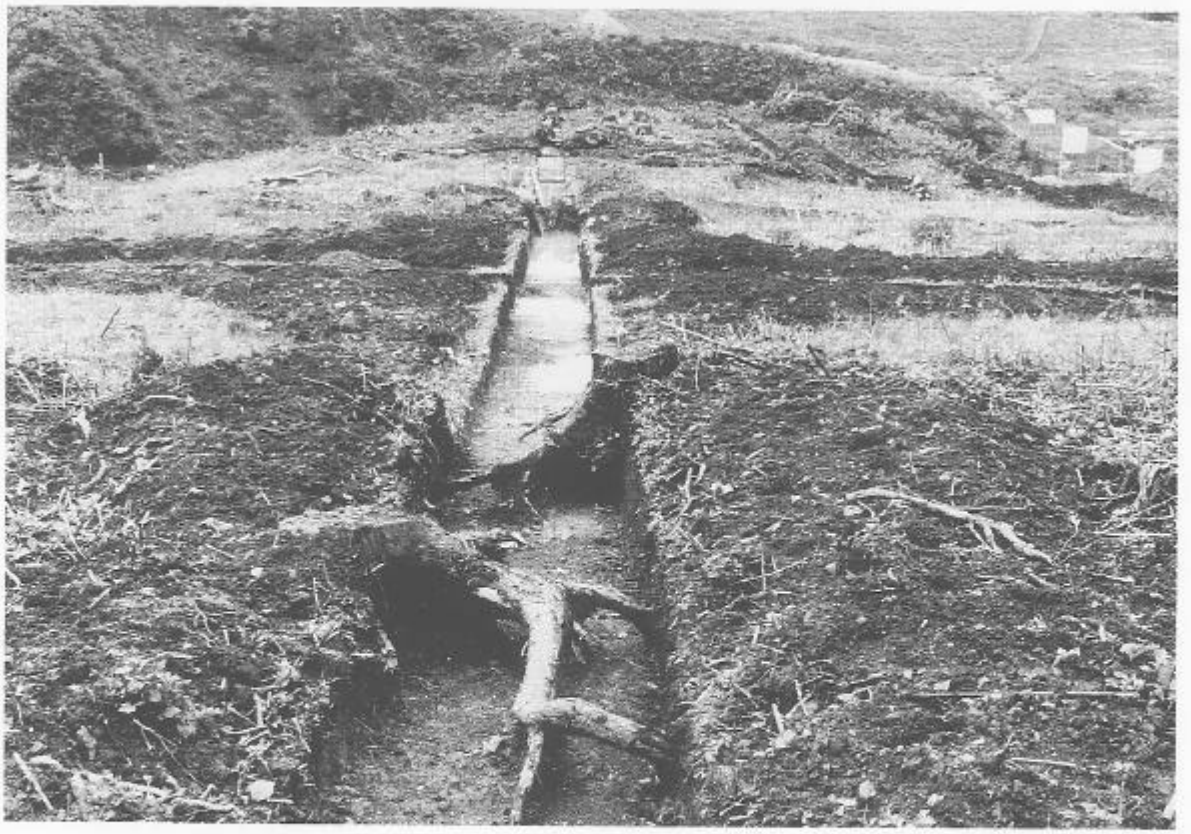
◁天津場A・B・C遺跡遠景(南から)

◁天津場A遺跡検出の土坑

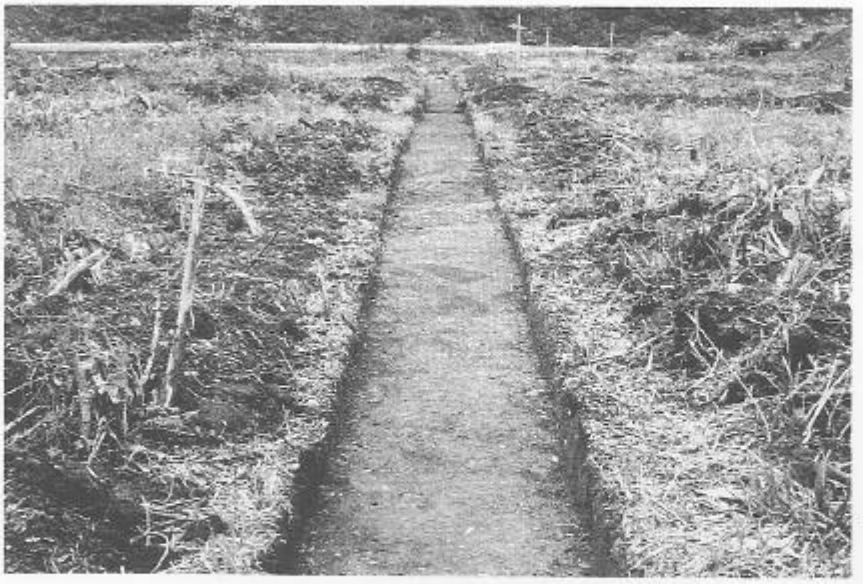
◁天津場B遺跡検出の石囲い炉



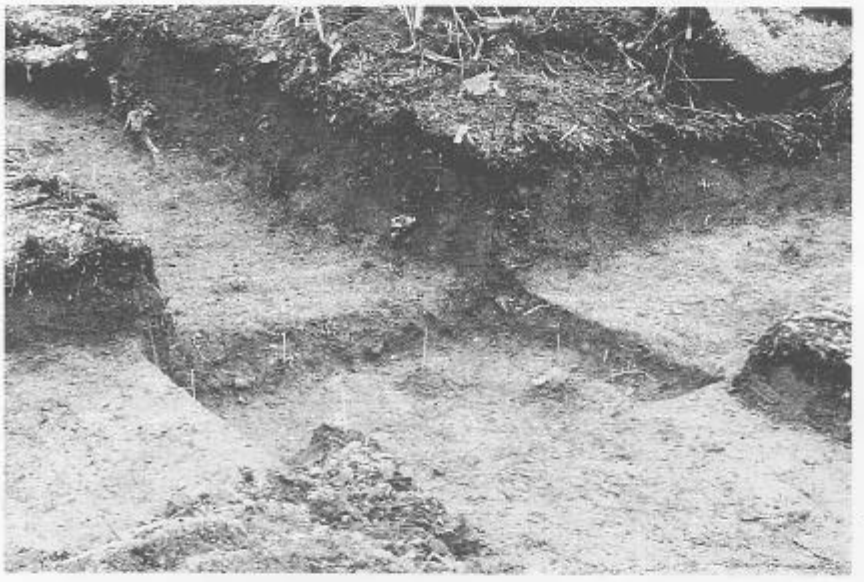
△ネネム沢A・B・C遺跡　遠景　（南から）



△ネネム沢A遺跡　調査状況　（北から）



◁ネネム沢A遺跡
トレンチ精査状況



◁ネネム沢A遺跡検出の
住居跡

◁ネネム沢B遺跡
トレンチ北端

（8）森吉家ノ前A遺跡、森吉家ノ前B遺跡、森吉家ノ前C遺跡

1　遺跡所在地

森吉家ノ前A遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字森吉家ノ前50、145、174、175、176、177、178

森吉家ノ前B遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字森吉家ノ前138、139、140、141、142

森吉家ノ前C遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字森吉家ノ前101－1、103、114、115、116

2　範囲確認調査期間　平成7年5月9日～10月31日

3　範囲確認調査対象面積　180,000㎡

4　工事区域内遺跡面積

森吉家ノ前A遺跡16,600㎡、森吉家ノ前B遺跡1,500㎡、森吉家ノ前C遺跡6,000㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

森吉地区において、上流部で蛇行していた小又川が南西方向に直線的な流れとなっており、川の北側には広い河岸段丘が形成されている。森吉家ノ前A・B・C遺跡は、いずれもその河岸段丘上に立地している。A・B遺跡は南側が川に面しており、Cは川岸から幾分離れている。いずれも標高は150m前後である。

②現況

昭和48年頃の耕地整理で区画された水田を対象として調査を行った。削平や盛土による地形の改変が全域におよんでおり、かっての地表面を残しているのは旧神社地だけである。

6　範囲確認調査の方法

20m間隔で南北方向に長いトレンチを設定し、調査を進めた。北側では水田区画に合わせたが、南側はジャンボリー道路計画のセンター杭に合わせた。重機により表土を除去した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認していった。

7　範囲確認調査の結果

A：森吉家の前A遺跡

①層位

旧生駒神社周辺の微高地、すぐ西側の水田（高位）とさらに西側の水田（低位）が遺跡の範囲である。旧神社周辺微高地は削平されており、表土は人為的に盛られた暗褐色土が覆っていた。下の明黄褐色土の地山まで深さが25cm前後である。高位水田では西縁から北縁にかけて盛

土が覆っている。かつての表土は削平されており、盛土を除去した下に遺物包含層である黒褐色土が認められた。低位水田も東側が削平されているが、北縁では厚い盛土の下に遺物包含層の黒褐色土が堆積していた。第28図に示したＡ１・Ａ２・Ａ３・Ａ４地点における層位と深さを下に記した。

Ａ１－表土暗褐色土25cm・明黄褐色土（遺構確認面）

Ａ２－表土暗褐色土20cm・黒褐色土25cmただし上位攪乱・明黄褐色土（遺構確認面）

Ａ３－表土暗褐色土40cm・黒褐色土45cmただし上位攪乱・明黄褐色土（遺構確認面）

Ａ４－表土暗褐色土15cm・黒褐色土10cm：明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

高位水田の西側に楕円形を呈する土壙墓と思われる土坑が10基前後まとまっており、そのうちの１基の埋土に骨片が混在していた。また石囲い炉が２基確認され、住居跡とみられる落ち込みも１カ所で確認された。低位水田でも石囲い炉が１基確認された。遺物は調査区の広い範囲で出土しているが、北西側の斜面に集中する場所がある。神社北側の高い部分では古代の土師器・須恵器・フイゴの羽口が出土し、水田部分では縄文時代前期と後期の土器・石器・石器素材が出土している。縄文土器は後期のものが大部分である。なお範囲確認調査は遺跡全体の５％を行い、中コンテナで６箱程の出土量である。

Ｂ：森吉家の前Ｂ遺跡

①層位

表土は黒色土が堆積していた。下の地山まで深さが50cm前後である。第28図に示したＢ１・Ｂ２地点における層位と深さを下に記した。

Ｂ１－表土黒色土35cm・黒褐色土25cm・砂質黄褐色土（遺構確認面）

Ｂ２－表土黒色土45cm・砂質黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

石囲い炉と土坑が検出された。広い範囲で縄文時代後期の土器・石器・石器素材が出土している。特殊な遺物として石冠が出土した。なお範囲確認調査は遺跡全体の10％を行い、中コンテナで2.5箱の出土量である。

Ｃ：森吉家の前Ｃ遺跡

①層位

表土が削平されており、暗褐色土が盛られていた。明黄褐色土の地山まで深さが40cm前後である。第30図に示したＣ１地点における層位と深さを下に記した。

Ｃ１－表土暗褐色土40cm・明黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

方形を呈する建物跡の柱穴が検出された。遺物がわずかに出土しており、中世の陶磁器が数片あり、中に中国産の青磁椀の破片が1片あった。なお範囲確認調査は遺跡全体の5％を行い、中コンテナで0.3箱程の出土量である。

8　所見

A：森吉家の前A遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期および古代の複合遺跡と考えられる。遺物の出土状況から旧生駒神社北側の微高地部分に古代の遺跡があり、西側の高位水田と低位水田には縄文時代後期の集落遺跡が広がっているとみられる。

②遺跡の範囲

遺跡の耕地整理前の地形は、トレンチ調査における地山面の状況から判断して、旧生駒神社北側を頂上として西に傾斜する微高地であって、東側には沢が入り、北側と西側は広い範囲の湿地が広がっていたものとみられる。したがって遺構・遺物の検出状況から標高150m前後の段丘平坦部が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代後期の土壙墓群が高位水田西側にまとまって検出され、その墓域の範囲は500㎡前後と予想される。住居跡は高位水田の東縁と中央および北西縁に広がりをもっていると予想される。北西側の傾斜地は生活用具の廃棄場所とみられ、縄文時代後期の土器・石器が多量に出土するものと予想される。したがって縄文時代後期の居住域と墓域、遺物廃棄場所が段丘面に一体として検出される可能性が高い。

B：森吉家の前B遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期の小規模な集落遺跡と考えられる。

②遺跡の範囲

遺物の出土範囲や地山の状況から、川に面した段丘面の先端が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

石囲い炉をもつ住居跡および土坑が検出されるものと予想される。遺物の出土量は比較的多いと予想される。

C：森吉家の前C遺跡

①遺跡の種類

中世の集落か館跡と考えられる。

②遺跡の範囲

遺物・遺構の検出状況から標高152m前後の段丘平坦部が遺跡の範囲であると判断した。

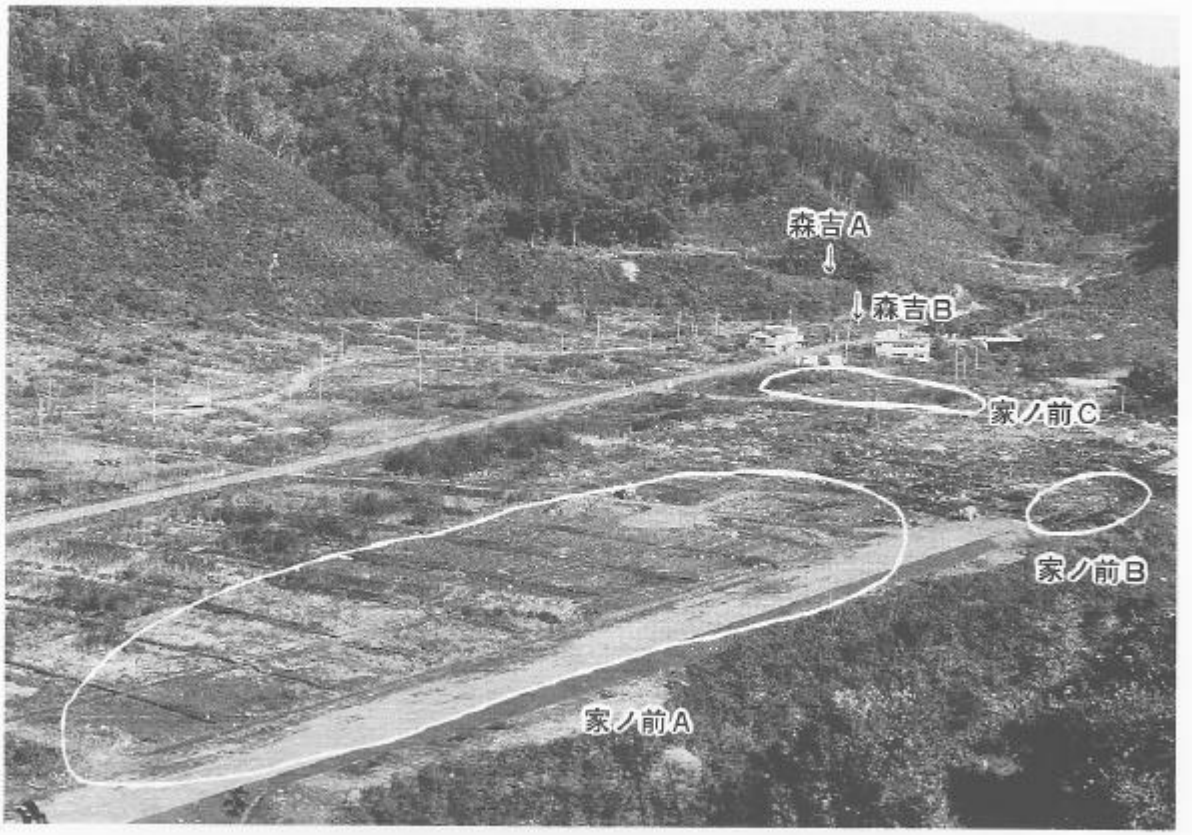
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

建物跡がまとまって検出されると予想される。遺物の出土量は少ないものと思われる。

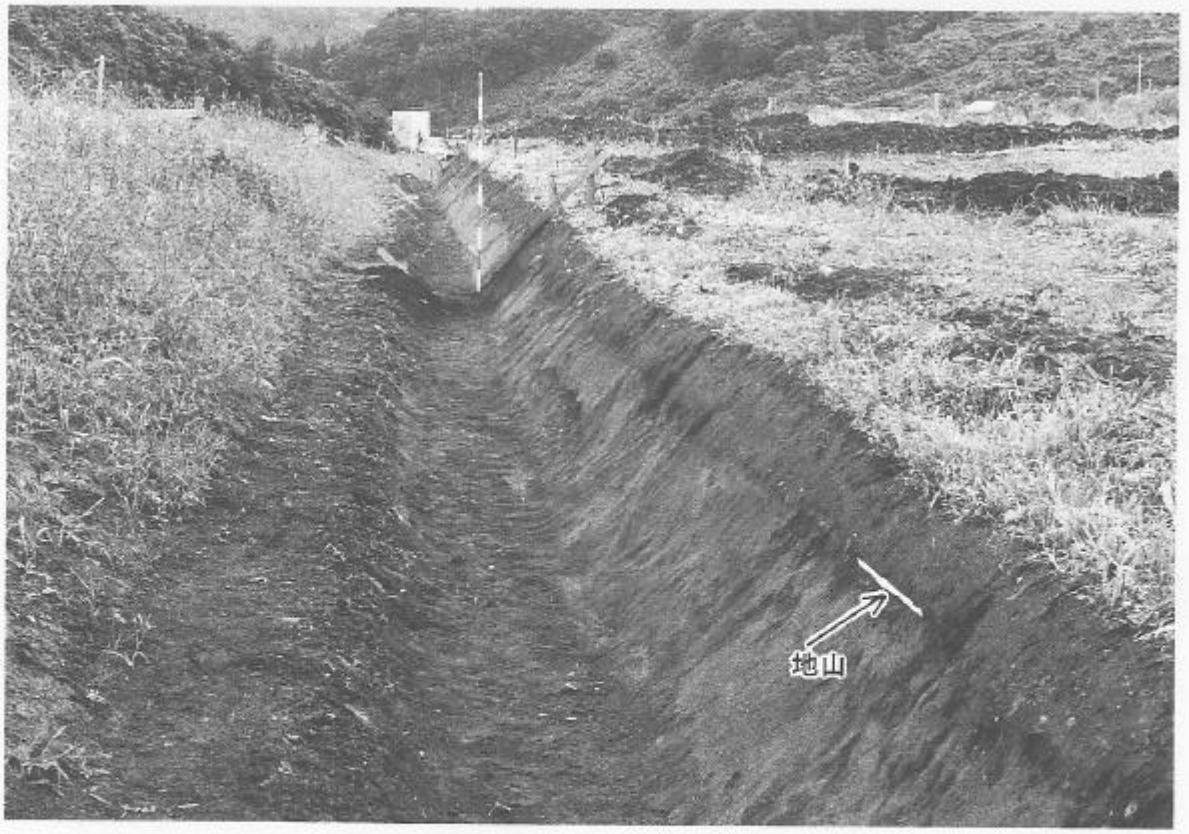
第28図　森吉家ノ前地区調査結果図

住居跡 □　石囲い炉をともなう住居跡
土坑 ●　生活用具廃棄場所

第29図　森吉家ノ前地区遺跡範囲図

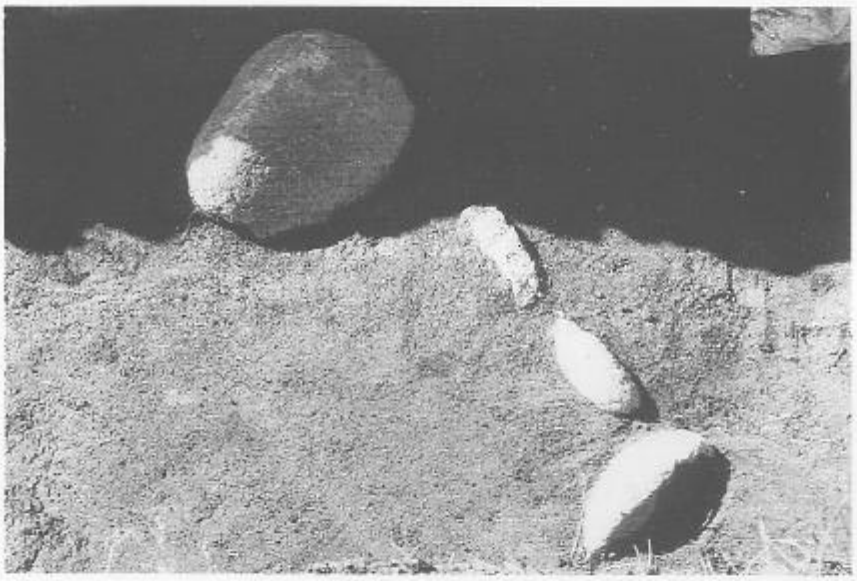


△森吉家ノ前A・B・C遺跡　森吉A・B遺跡　遠景　（南西から）

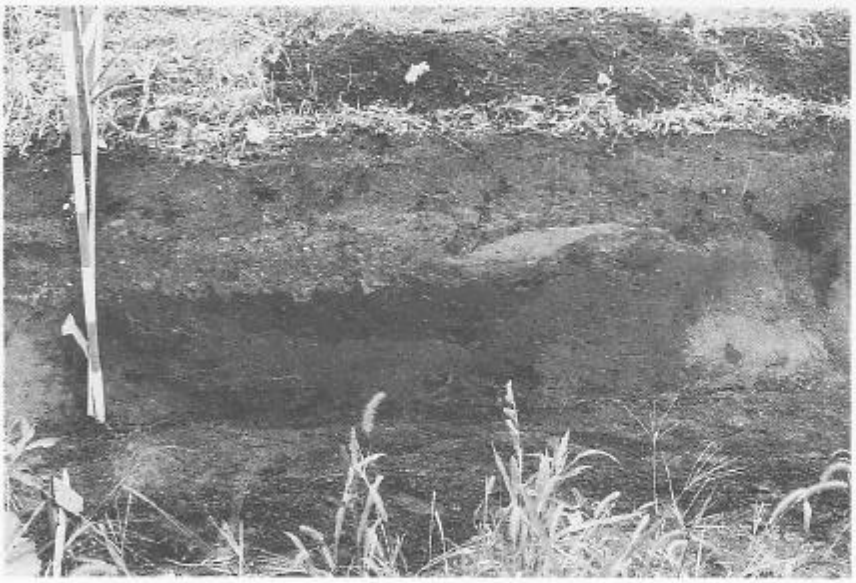


△森吉家ノ前A遺跡　土層断面　（東から）

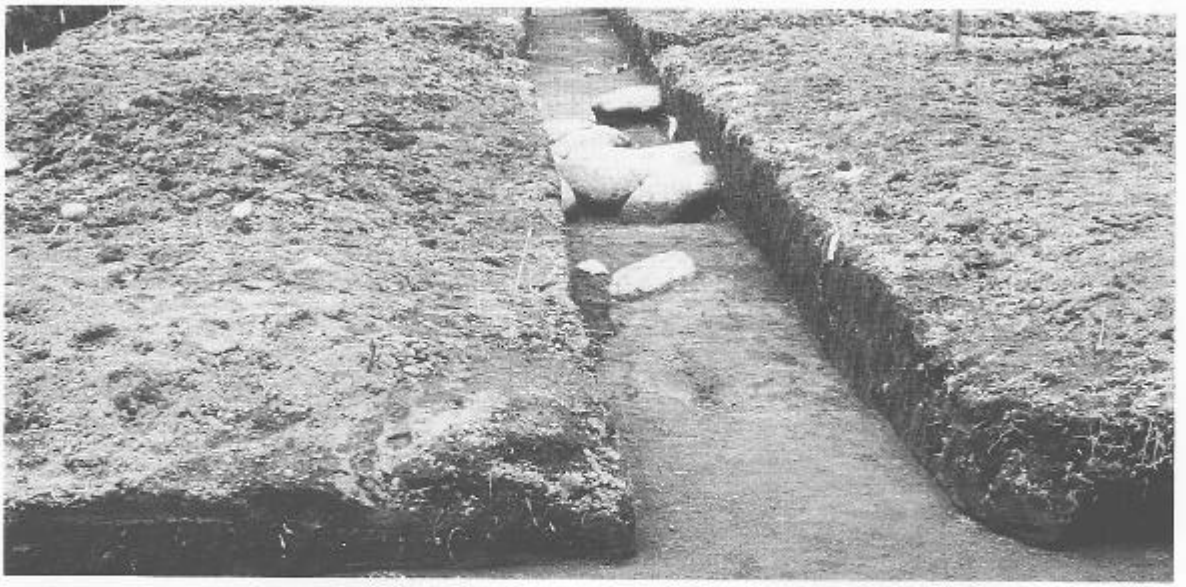
◁森吉家ノ前Ａ遺跡
検出の土坑



◁森吉家ノ前Ａ遺跡
検出の石囲い炉



◁森吉家ノ前Ａ遺跡
検出の土坑



△森吉家ノ前B遺跡
調査状況(東から)

◁森吉家ノ前B遺跡
検出の石囲い炉

◁森吉家ノ前C遺跡
調査状況(北から)

（９）森吉（もりよし）Ａ遺跡、森吉Ｂ遺跡

１　遺跡所在地

森吉Ａ遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字森吉95

森吉Ｂ遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字森吉69

２　範囲確認調査期間　　平成７年５月９日～10月31日

３　範囲確認調査対象面積　　5,000㎡

４　工事区域内遺跡面積　　森吉Ａ遺跡1,500㎡、森吉Ｂ遺跡400㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

森吉Ａ・Ｂ遺跡は、源五郎岳の山麓からのびた南東方向に張り出す丘陵地にあり、東は深い火ケ沢に面し、西にも小さい沢が入っていることから舌状を呈している。北側の高位部を森吉Ａ遺跡、南側の低位部を森吉Ｂ遺跡とした。Ａ遺跡のある丘陵地は標高172ｍであり、尾根状の高まりをもって南東に張り出し、Ｂ遺跡は15ｍ下の中腹部に立地している。

②現況

森吉Ａ遺跡はかつて畑地・山林であり、木は伐採されていた。森吉Ｂ遺跡はかつての宅地の一部である。

６　範囲確認調査の方法

地形を考慮して任意にトレンチ箇所を設定し、重機により表土を除去した後、地山面を精査して遺物・遺構の有無を確認していった。

７　範囲確認調査の結果

Ａ：森吉Ａ遺跡

①層位

高位部は黒色土を30㎝掘り下げて明黄褐色土の地山に達した。斜面は黒褐色土が厚く堆積しており、地山まで深さが１ｍ前後ある。第30図に示したＡ１・Ａ２・Ａ３地点における層位と深さを下に記した。

Ａ１－表土黒色土30㎝・明黄褐色土（遺構確認面）

Ａ２－表土黒褐色土30㎝・黒色土25㎝・褐色土15㎝・明黄褐色土（遺構確認面）

Ａ３－表土黒色土20㎝・褐色土25㎝・浅黄橙色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

縄文時代の土坑と石組み、古代以降の火葬墓が確認された。遺物は調査区の広い範囲で出土しており、縄文時代後期の土器・石器・石器素材がある。とくに南東の斜面と丘陵付け根の南

側にまとまる傾向が見られた。範囲確認調査は遺跡全体の７％を行い、コンテナ1.5箱程の出土量である。

Ｂ：森吉Ｂ遺跡

①層位

沢の落ち込み部分に遺物包含層が確認された。包含層は黒褐色土下層であり、第30図に示したＢ１地点における層位と深さを下に記した。

Ｂ１－盛土15cm・黒色土55cm中位に火山灰層あり・黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

遺構は検出されなかった。縄文時代後期の土器・石器・石器素材がまとまって出土している。なお範囲確認調査は遺跡全体の６％を行い、中コンテナで0.5箱程の出土量である。

8　所見

Ａ：森吉Ａ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期の小規模な集落遺跡である。

②遺跡の範囲

南東に張り出す丘陵地が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代後期の住居跡および土坑群がまとまって検出されると予想される。古代以降の火葬墓が南斜面に数基まとまっている可能性もある。生活用具の遺物廃棄場所が丘陵先端と丘陵付け根にあり、遺物の出土量は比較的多いと予想される。

Ｂ：森吉Ｂ遺跡

①遺跡の種類

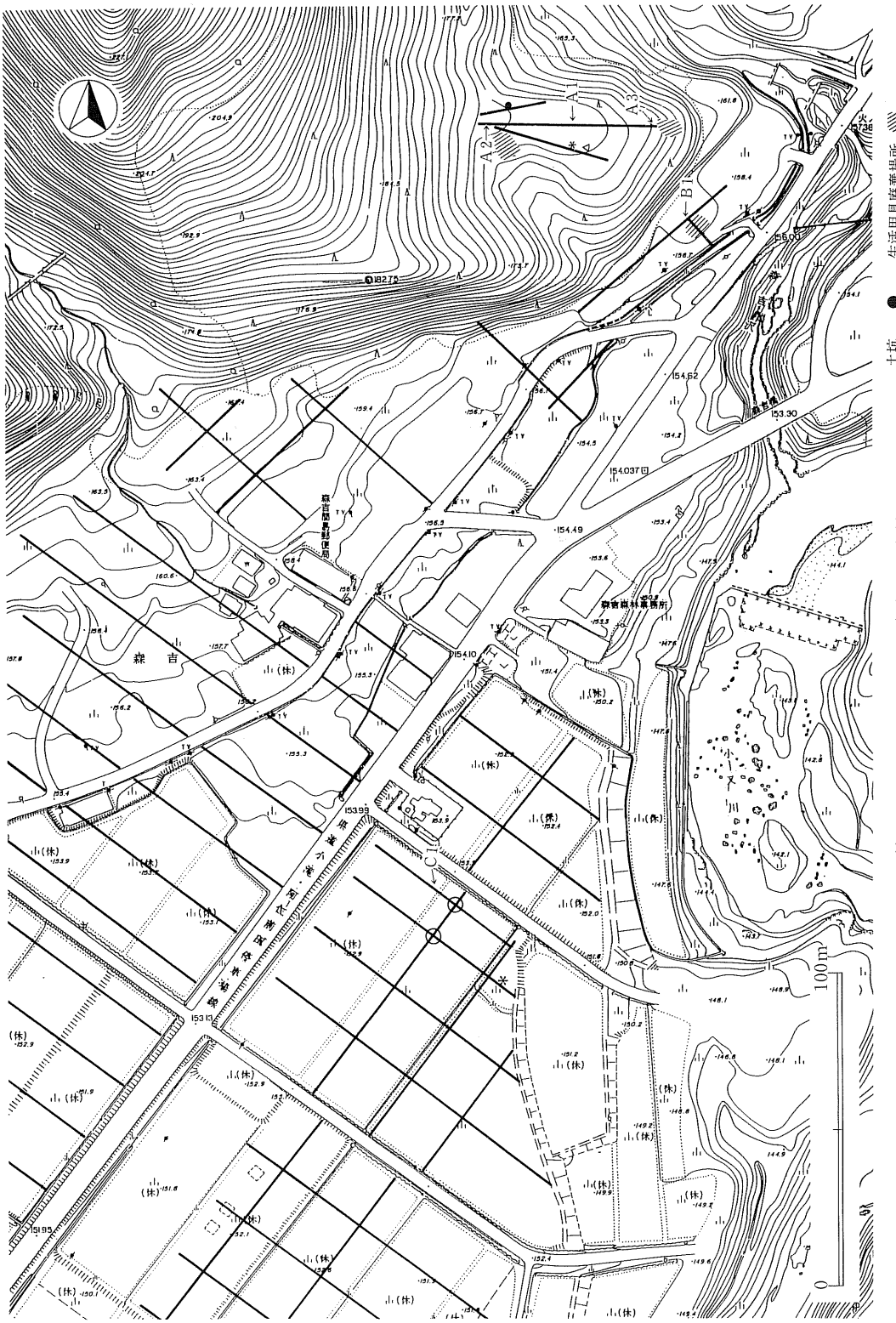
縄文時代後期の遺物包含地である。

②遺跡の範囲

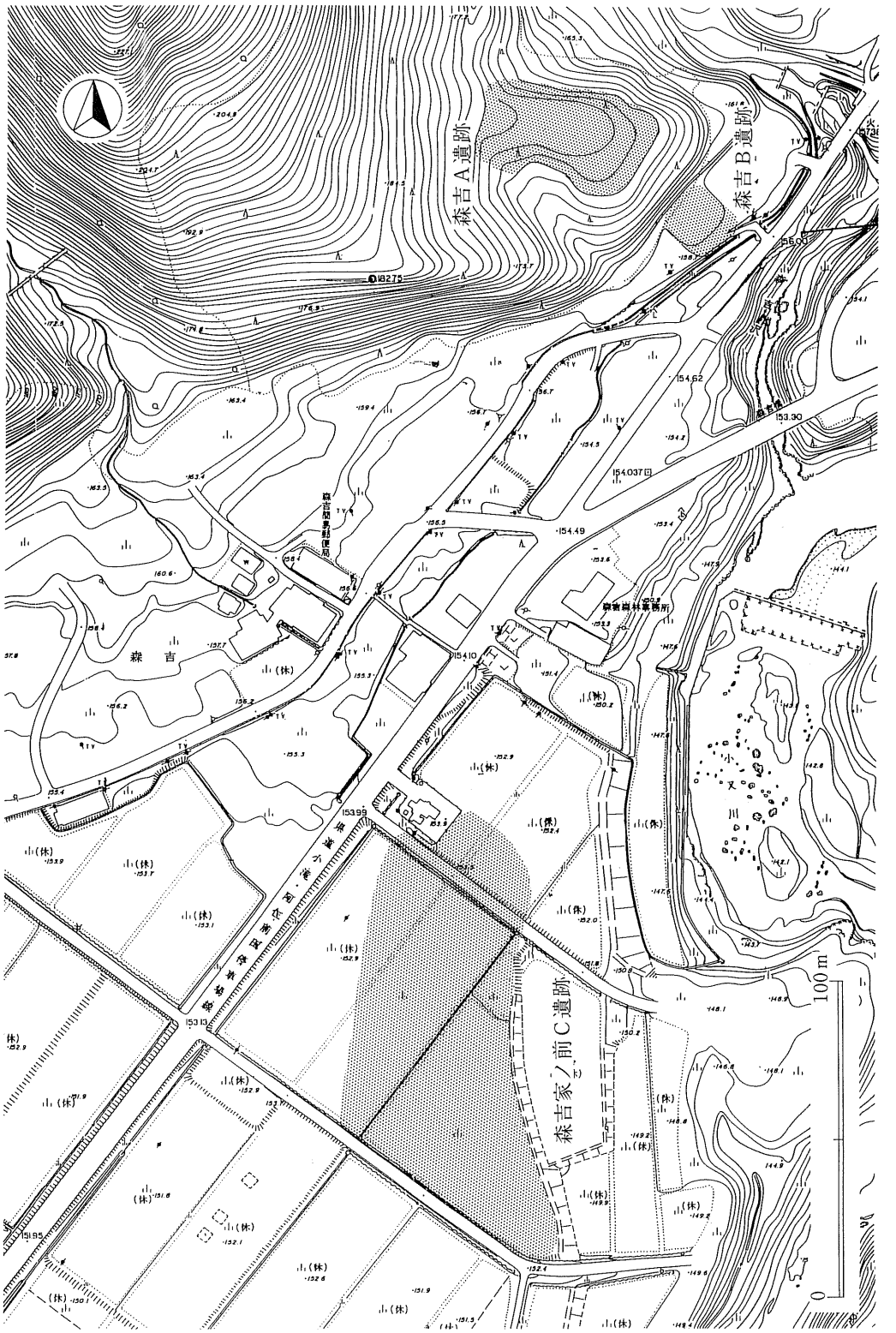
周辺が宅地造成で削平されており、Ｖ字状に浅く入る沢の部分を範囲とした。

③発掘時に予想される遺構・遺物

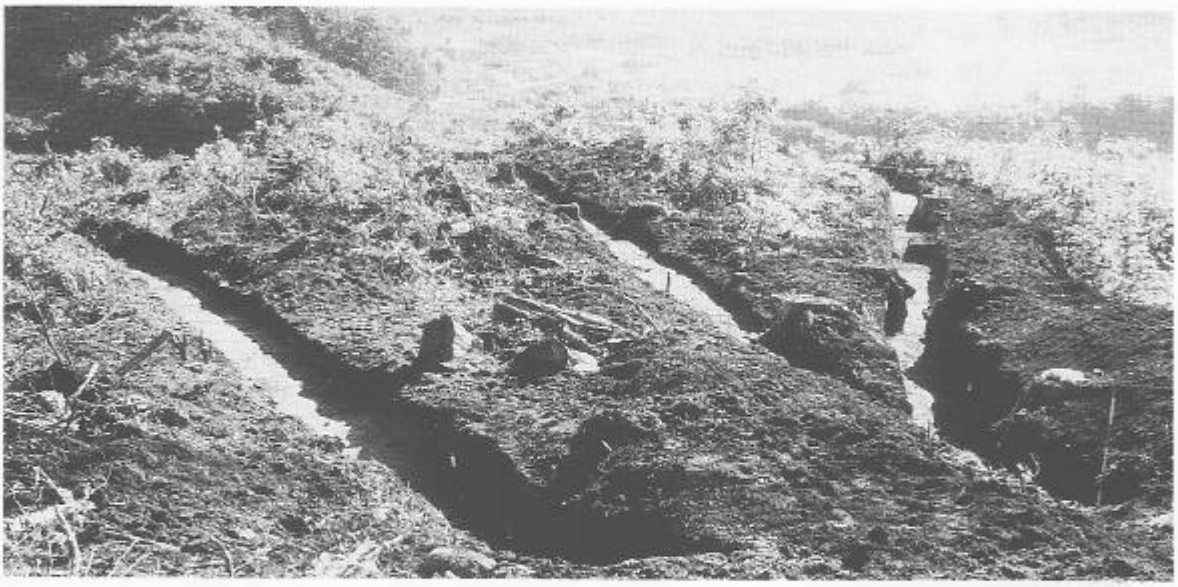
プライマリーな堆積層が厚いことから、遺物の出土量も比較的多いと予想される。



第30図　森吉・森吉家ノ前地区調査結果図



第31図　森吉・森吉家ノ前地区遺跡範囲図



△森吉Ａ遺跡
調査状況（西から）

◁森吉Ａ遺跡検出の
土坑

◁森吉Ｂ遺跡
調査状況（東から）

2　一般国道285号国道改良工事南沢バイパス

小袋岱（こぶくろたい）遺跡

1　遺跡所在地　　北秋田郡上小阿仁村大林字菊桜岱27他

2　範囲確認調査期間　　平成７年11月１日～11月22日

3　範囲確認調査対象面積　　17,500㎡

4　工事区域内遺跡面積　　15,200㎡

内訳は水田4,600㎡、下位段丘面6,100㎡、上位段丘面4,500㎡

※上位段丘面4,500㎡のうち、4,200㎡では縄文時代の文化層が２面確認された。

5　遺跡の立地と現況

①立地

小袋岱遺跡は、南北に長い上小阿仁村の北西部に位置する。北流する小阿仁川沿いに国道285号線を北上すると小田瀬集落に至る。遺跡は小田瀬集落の東側を蛇行しながら北流する小阿仁川東側の河岸段丘上に立地している。遺跡の立地する段丘は、標高83ｍ前後の上位段丘面、71ｍ前後の下位段丘面に区分される。さらに、下位段丘面の西側は標高69ｍ前後の谷底平野になっており水田が広がっている。

②現況

水田、山林、畑地である。山林部分の伐採は完了している。

6　範囲確認調査の方法

道路中心杭と幅杭を基準に設定した幅１～２ｍのトレンチ調査により遺物の有無、地山面における遺構の存在を確認していった。区画整理が行われた水田部分については重機により表土を除去したのち、地山面を精査して遺構の有無を確認していった。トレンチの総延長は1,190ｍ、面積に換算すると1,421㎡で調査対象面積の約8.1％にあたる。

7　範囲確認調査の結果

①層序

遺跡内の基本層序は以下のとおりである。

〈上位段丘面・下位段丘面〉

Ⅰ層　黒～暗褐色土（10～25cm）　表土層

Ⅱ層　赤褐色土（10～20cm）　遺物包含層・遺構確認面

Ⅲ層　黒色土（10～40cm）　遺物包含層

Ⅳ層　黄褐色土　地山土　遺構確認面

現地表面から地山までの深さの平均が40cmを測り、表土層としたⅠ層の厚さは平均で20cmある。遺物包含層はⅡおよびⅢ層である。ほとんどの遺構はⅣ層上面で確認されているが、上位段丘面ではⅡ層上面でプラン確認できる焼土遺構が存在している。

〈水田〉

Ⅰ層　褐色土（10～30cm）　　表土層

Ⅱ層　黄褐色土　地山土　　遺構確認面

遺物包含層は水田区画整理の際失われている。遺構確認面はⅡ層とした地山面である。

②検出遺構と遺物

（1）検出遺構

検出した遺構は以下の通りである。

縄文時代

	竪穴住居跡	土　坑	焼土遺構	配石遺構
上位段丘面	11	3	10	1
下位段丘面	3	3	－	－
水　田　面	1	3	2	－

縄文時代以外の遺構としては上位段丘面で確認された幅3～5ｍの溝跡がある。この溝跡の埋土中には径10cm前後の礫が詰め込まれた状態であった。時期は不明であるが、縄文時代の遺物包含層を壊しており、さらに埋土がかなり撹乱された状態であることから縄文時代よりも新しい時期の遺構である可能性が高い。

（2）出土遺物

出土した遺物は、以下のとおりである。

・縄文時代

土器（前期・中期・後期）、石器（石鏃・石匙・石槍・篦状石器・磨製石斧・打製石斧・磨石）・剥片

上位段丘面では、溝跡部分を除いたほぼ全域から縄文時代前期・中期・後期の土器と石匙などの石器類、剥片が出土している。また、下位段丘面の㋕トレンチ付近からは大形打製石斧が、水田の㋬トレンチからは石鏃が見つかっている。出土した遺物の量はコンテナで3箱である。

8　所見

①遺跡の種類

小袋岱遺跡は、縄文時代前期・中期・後期の集落遺跡である。

②遺跡の範囲と工事区域

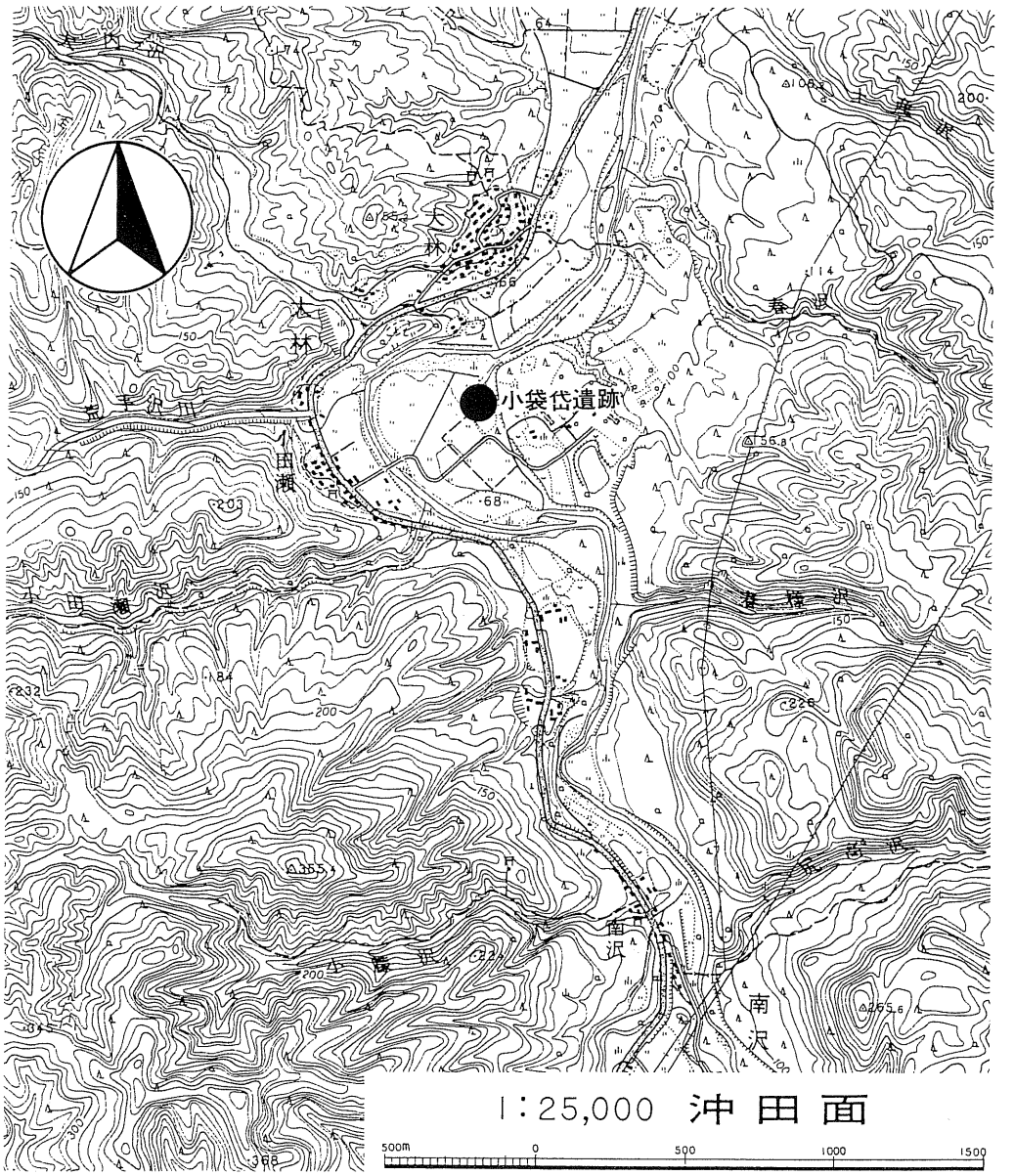
遺跡の範囲は標高82～83ｍの上位段丘面全体とその東側斜面、さらに斜面下の標高71～73ｍ

の下位段丘面全体および標高69ｍ前後の水田の一部である。

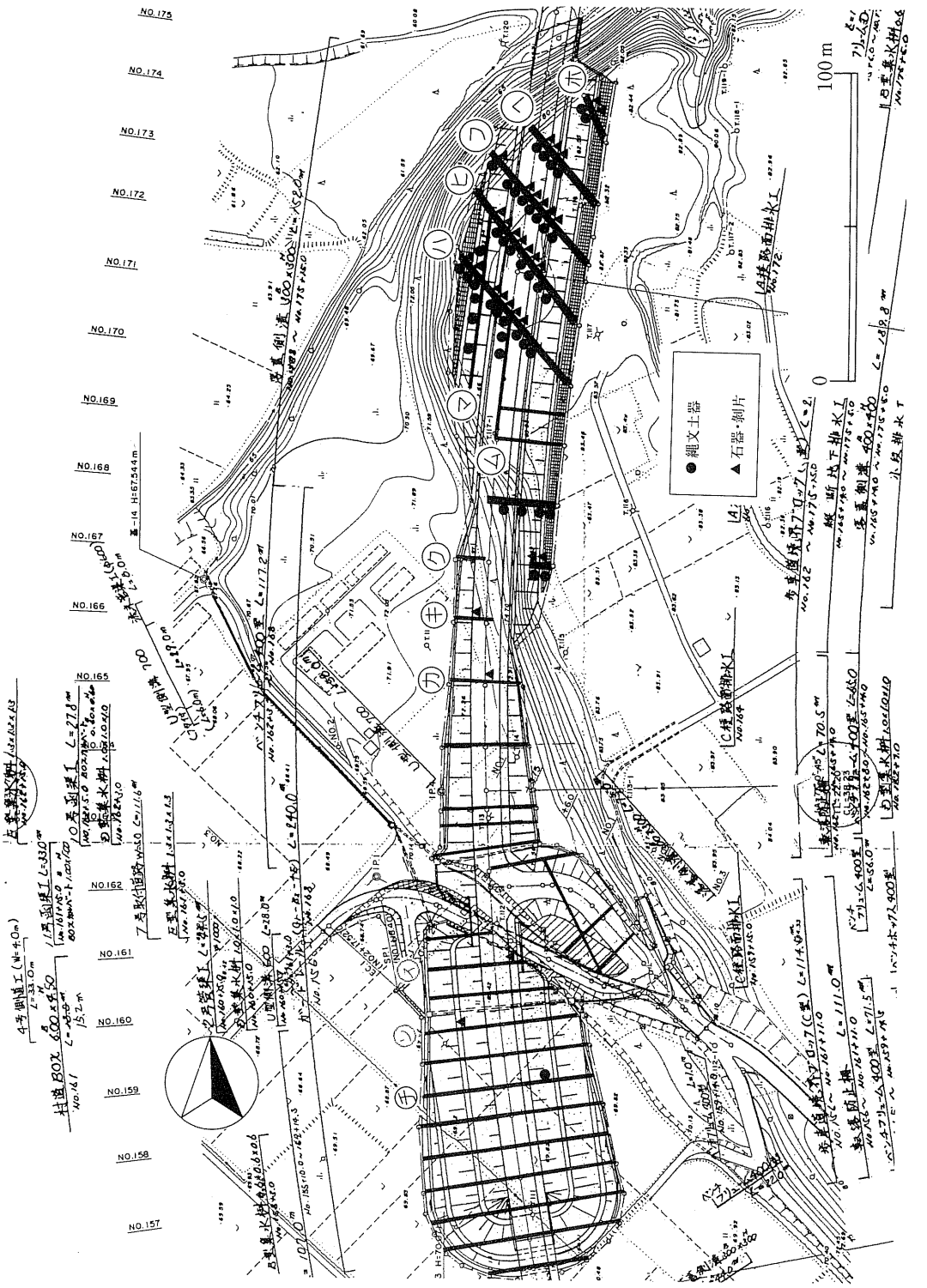
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

上位段丘面では縄文時代前期から後期にかけての住居跡と土坑群が密に切り合って検出される可能性が高く、遺物も相当量出土することが予想される。また、㋒トレンチ東寄りに配石遺構が位置することから、この付近に同様の遺構が複数存在することも考慮する必要がある。

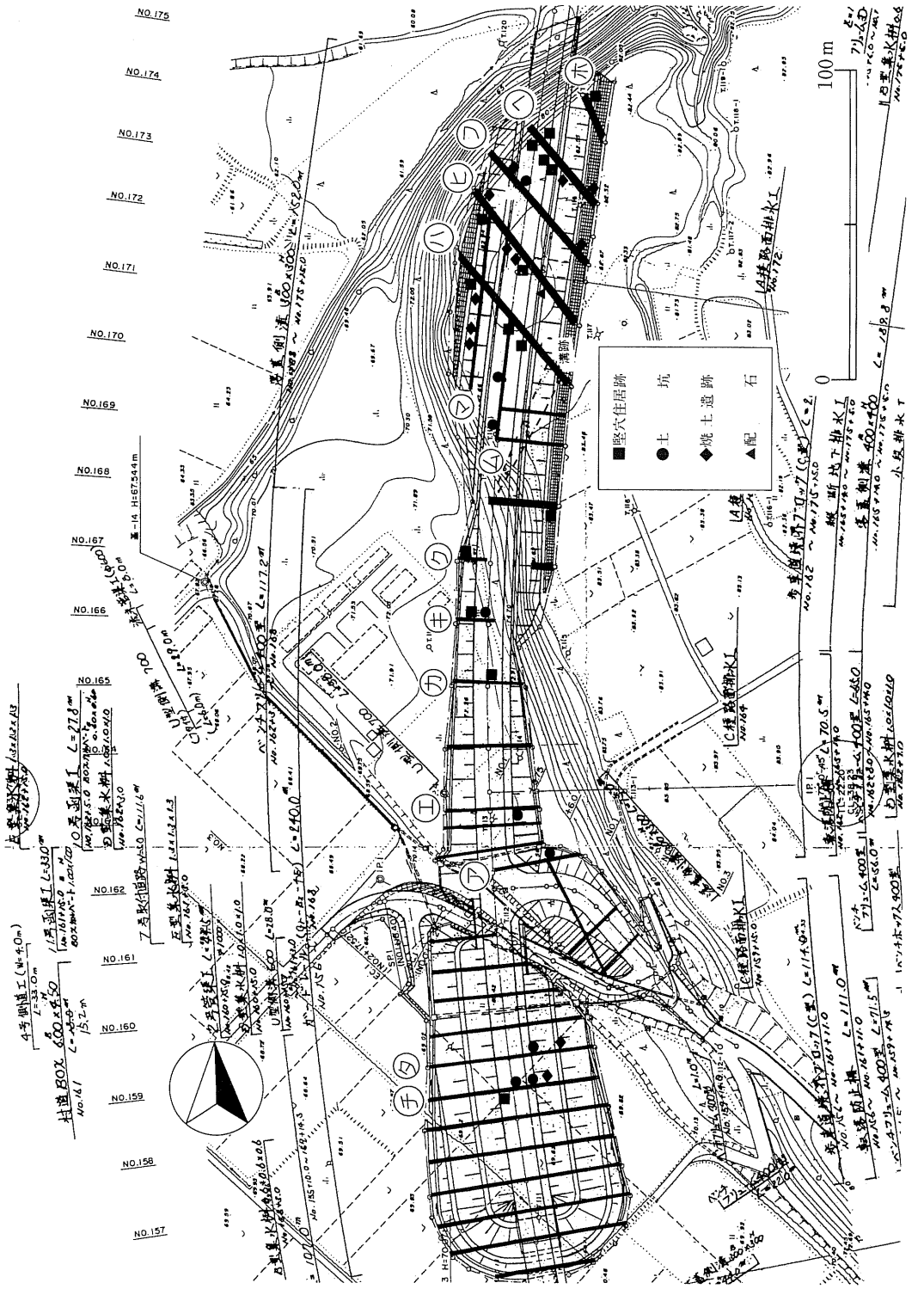
下位段丘面、水田では住居跡と土坑が検出されることが予想される。



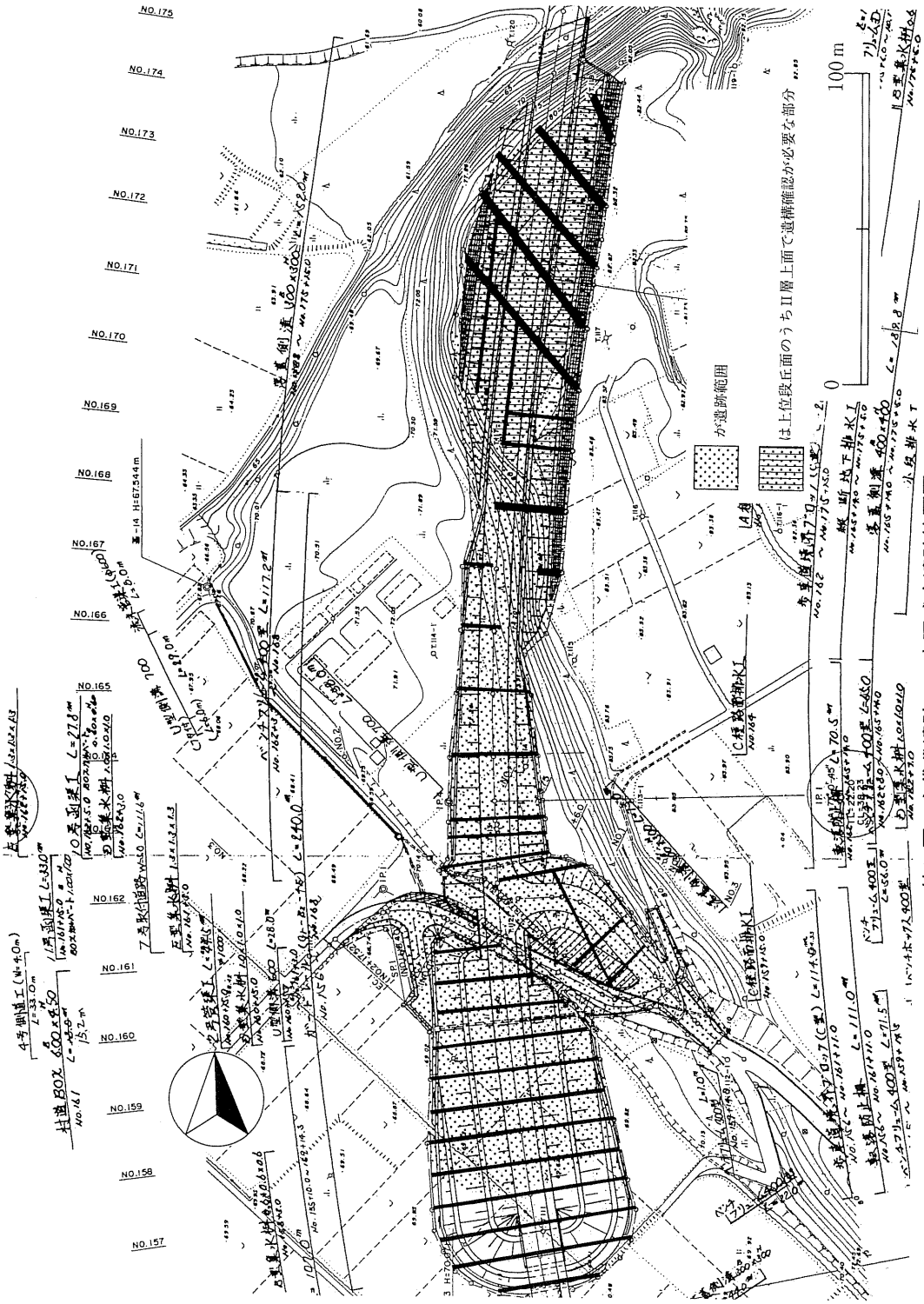
第32図　小袋岱遺跡　位置図



第33図　小袋岱遺跡　範囲確認調査結果図（遺物出土地点）



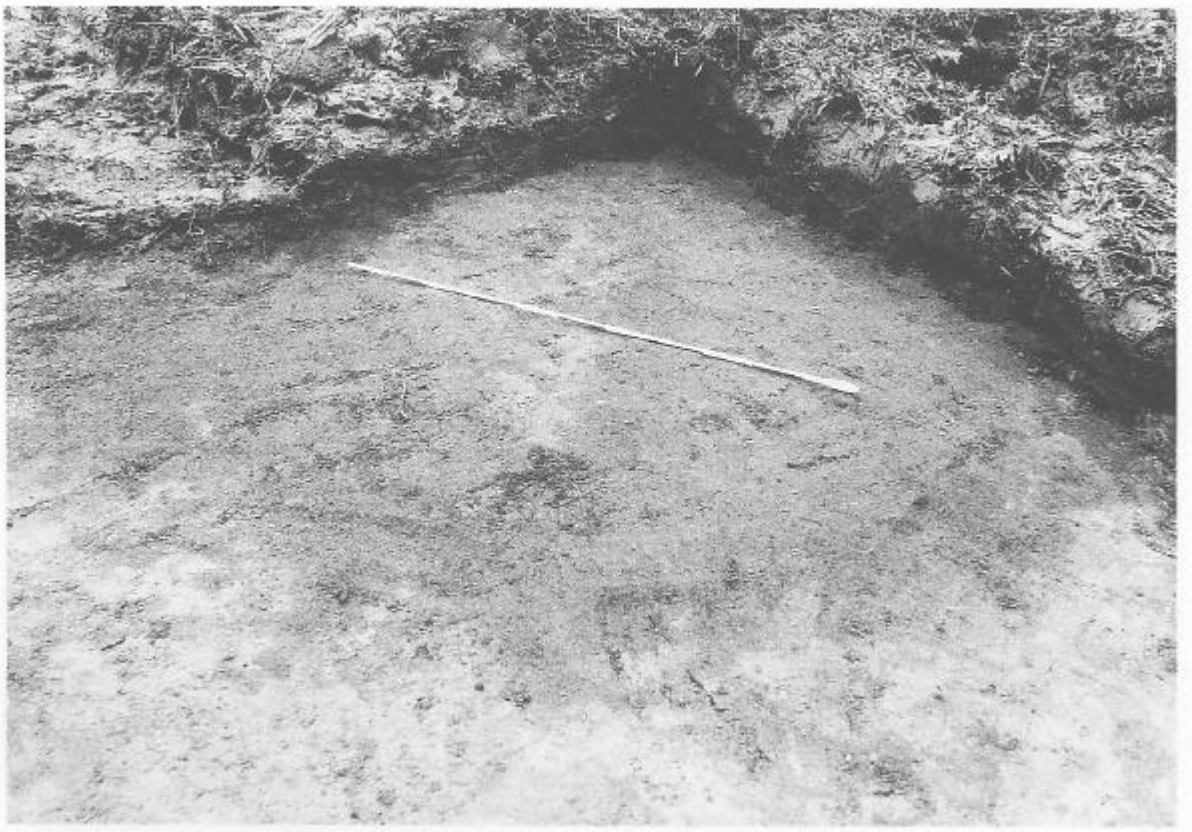
第34図　小袋岱遺跡　範囲確認調査結果図（遺構検出地点）



第35図　小袋谷遺跡　工事区域内遺跡範囲図

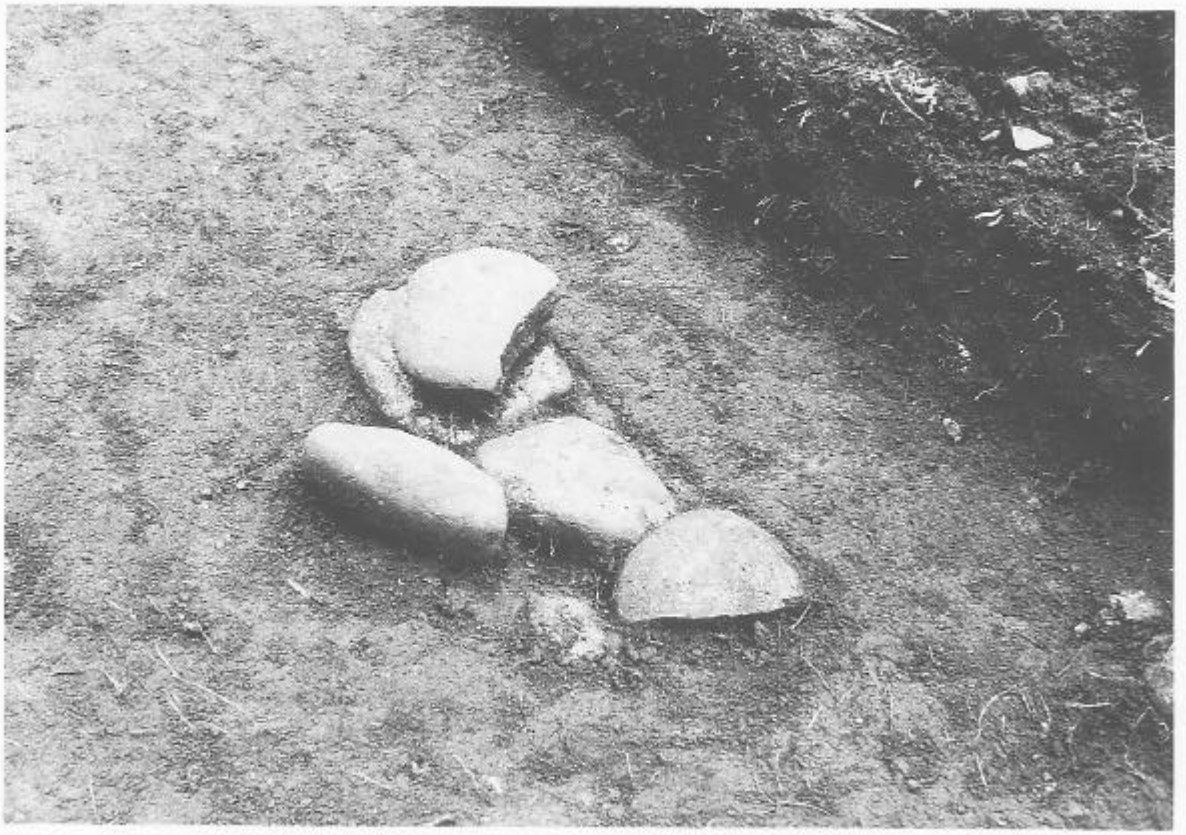
△小袋岱遺跡　遠景　（南西から）

△小袋岱遺跡　調査風景　（北西から）

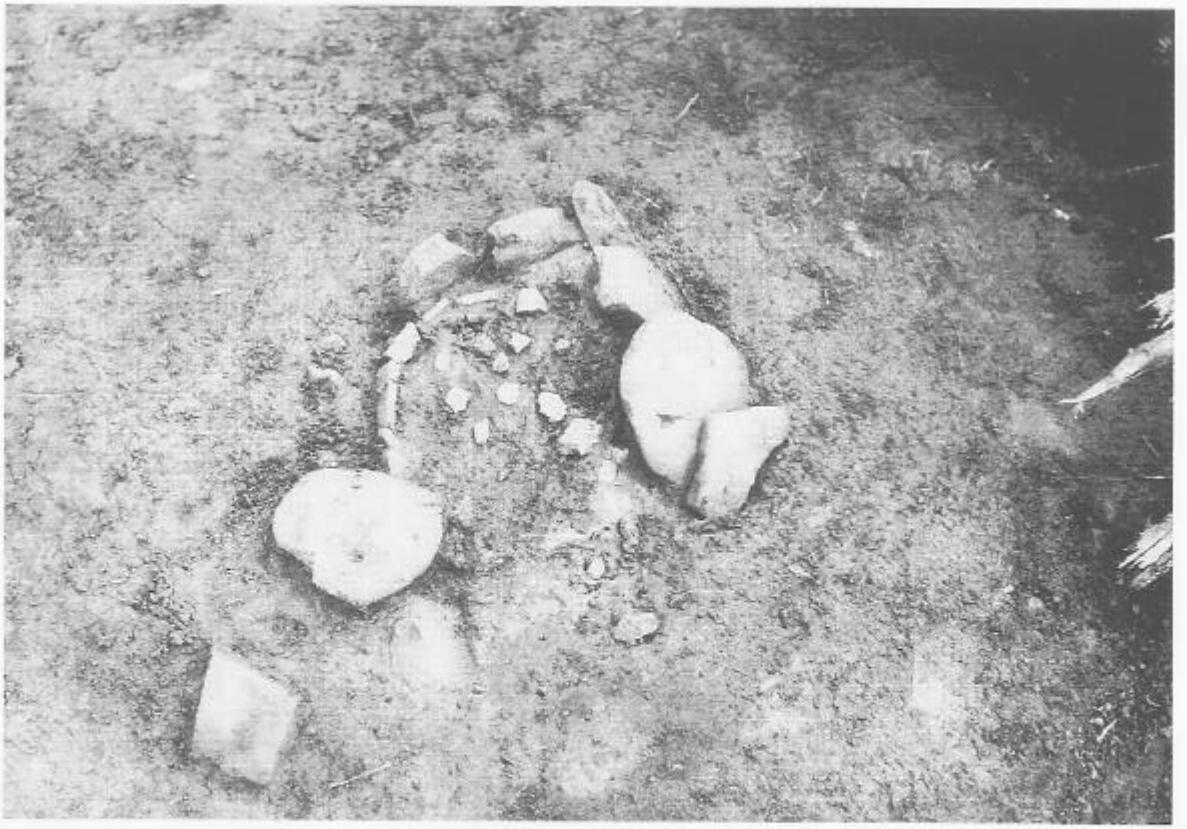


△小袋岱遺跡　竪穴住居跡　（西から）

△小袋岱遺跡　焼土遺構　（北から）



△小袋岱遺跡　配石遺構　（北から）



△小袋岱遺跡　土器埋設石囲い炉　（北から）

3　県道木戸石鷹巣線建設事業

脇神（わきがみ）館跡

1　遺跡所在地　秋田県北秋田郡鷹巣町脇神字タタラノ沢31外

2　範囲確認調査期間　平成7年11月6日～11月22日

3　範囲確認調査対象面積　9,400㎡

4　工事区域内遺跡面積　8,000㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

脇神館跡は、ＪＲ奥羽線鷹ノ巣駅の南南東約4.2㎞の大野台台地北東端部（北緯40°11′63″、東経140°23′25″）に位置し、東側をタタラノ沢、西側を館ヶ沢によって開析された北向きの舌状台地（標高69m）に立地している。台地上に至る斜面は非常に急峻であり、沖積地との比高は35～40mである。

舌状台地の北東部斜面下を小猿部川が北西方向に流れ、対岸は脇神の集落である。

②現況

山林である。立木の一部が伐採されずに残っている。

台地平坦面では、北側の舌状台地先端から南へ50m付近と南東部の尾根状部分に空堀が切られ、台地の張り出す部分と中央部を画していることがわかる。中央部にはＬ字形の土塁も現状で確認できる。これらの空堀や土塁の遺存状況は、一部立木の伐採・除去の際に壊された所もあるが、概ね良好である。

6　範囲確認調査の結果

①層序

台地平坦面の層位は、Ⅰ層黒褐色土（厚さ5～20㎝）：表土、Ⅱ層褐色土（厚さ10～25㎝）、Ⅲ層黄褐色土：地山である。土塁で囲まれた中央部は、土塁外側や台地西側縁辺部と比較するとⅠ・Ⅱ層が薄くなっており、郭や平坦面を造りだすための地業が行われた結果であると考えられる。

土塁部分については、旧表土層の上に黄褐色土の盛土があり、館の形成期とそれ以前の時期の区別が可能であるが、他については層位的に時代区分をする事は困難である。

斜面の層位は台地平坦面と同じであるが、地業による土の流入により台地の縁に近い箇所では、地山までの深さが約1mくらいの箇所もある。

②検出遺構

〈縄文時代〉

縄文時代と特定できる遺構は検出されていない。

〈平安時代〉

平安時代の竪穴住居跡5軒を検出した。

〈中世〉

調査区である南側平坦面では、北側は空堀（幅約8m・深さ3m）、西・南側は土塁（基底幅約6m・上幅約2m）がめぐり、東側が切岸されたほぼ長方形の郭が原地形で確認できた。さらに、範囲確認調査では館跡に関連して次の状況を確認した。舌状台地を南北に画している空堀の南側に、掘削時期の異なる空堀が2条平行して掘られ計3条になること、北側の空堀と中の空堀の塁線上には柱穴列を検出した。郭の西・南側を囲む土塁の外側に、土塁に沿って溝を1条検出した。

〈時期不明〉

土坑が台地の西側を中心に12基、焼土遺構も4基検出したが、時期については現時点では特定できない。

③出土遺物

遺物は、すべて台地平坦面から出土した。

〈縄文時代〉

縄文時代晩期の土器や石器がごく少量出土した。

〈平安時代〉

平安時代後葉の甕形の土師器・須恵器（コンテナ1箱）が最も多く、台地の平坦面から偏りなく出土した。

〈中世〉

土塁等で囲まれた郭内や外側の溝から、安土桃山期を中心とした中世陶器が6点出土した。

〈時期不明〉

焼土遺構に伴う鉄滓も3地点で出土した。

7　所見

①遺跡の種類

縄文時代晩期、平安時代、中世の複合遺跡であるが、検出された遺構や出土遺物から、縄文時代晩期の散布地、平安時代後葉の集落跡及び中世の館跡と考えられる。

②遺跡の範囲と工事区域

遺跡の範囲は、北に張り出した舌状台地の平坦部及び斜面である。工事区域は遺跡のほぼ中

央部を西から南東にかけて横断しており、遺跡全体のほぼ半分を占めるものと考えられる。

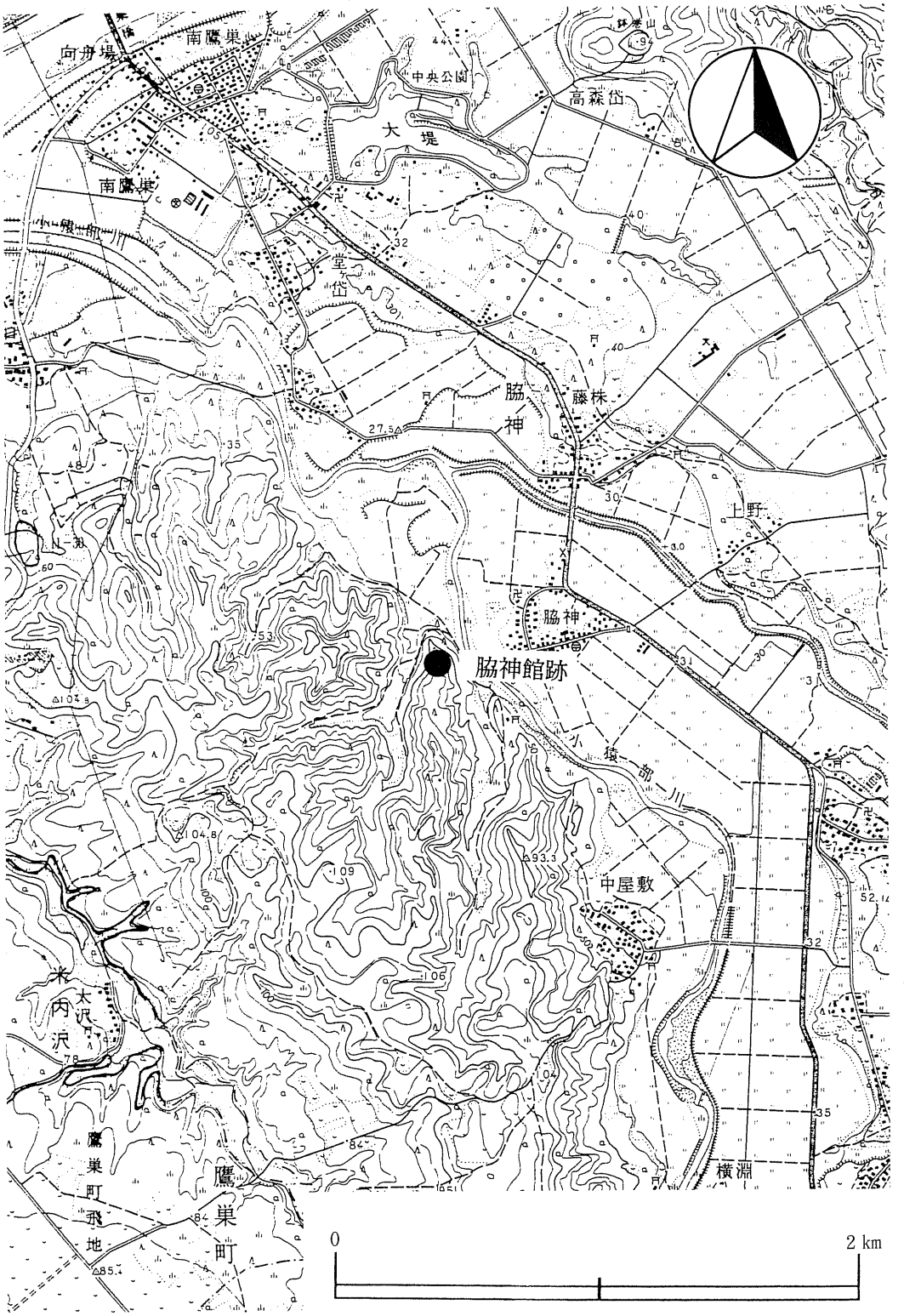
南東部斜面下は沢尻部分の湿地帯（1,400㎡）であり、遺構・遺物が検出されなかったことから、調査対象より除外することとし、工事区域内面積（8,000㎡）を決定した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

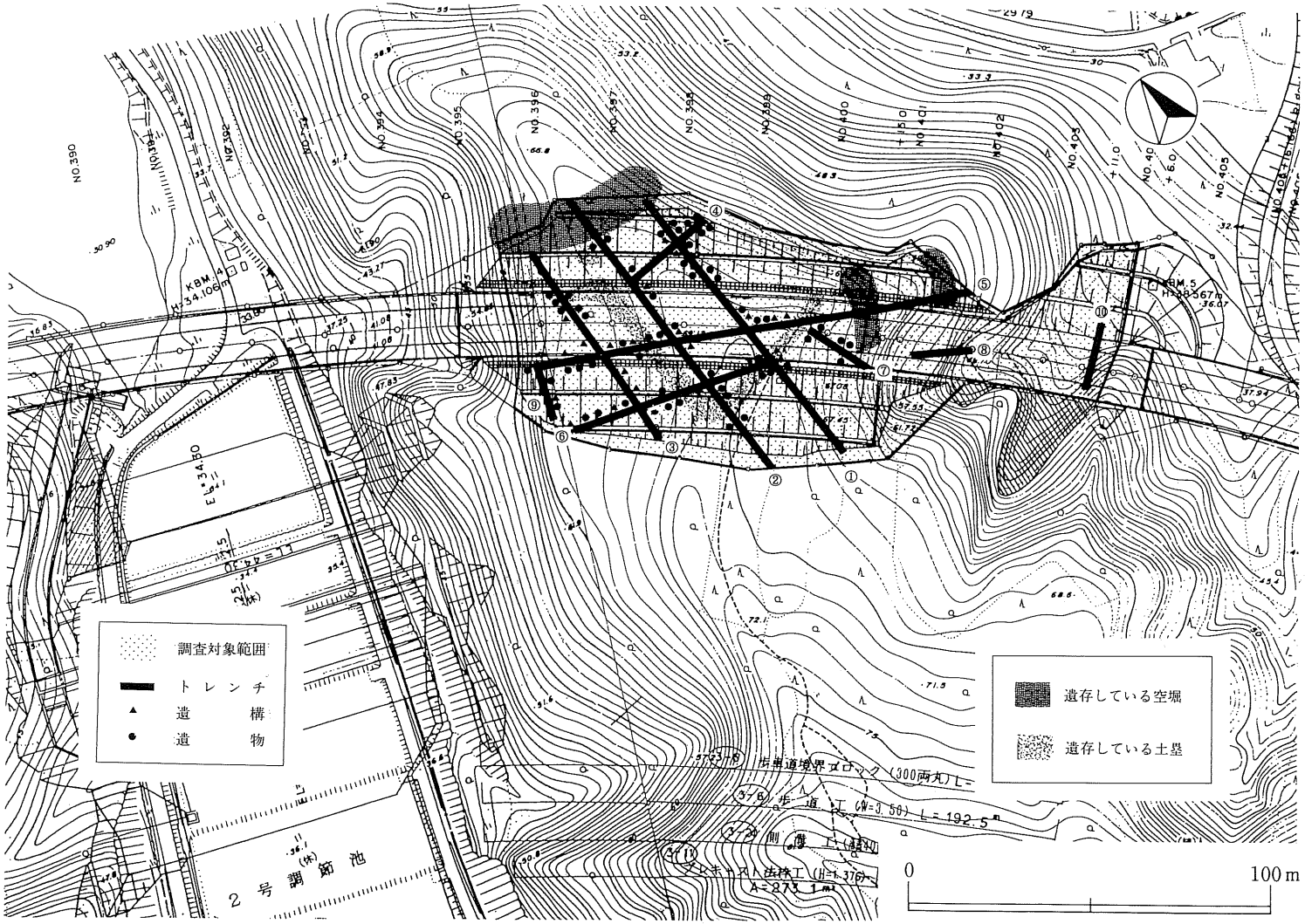
遺構では、主に平安時代後葉の竪穴住居跡やそれに伴う施設、中世の館の構成施設である土塁・溝・空堀・柵跡・掘立柱建物跡等の遺構が検出されるものと考えられる。また、製鉄に関連した遺構や縄文時代晩期の遺構などの検出も予想される。

遺跡は、その名称と遺構の存在から、秋田家文書の「浅利文書の浅利頼平領内村注文」に「わき神　田畠　家十五、まえハ八十　あれ文禄四年とりあいニ従當年ハ少し毛付申し候　秒よりなてきりの所」とある文献上の記載を裏付けられる可能性もある。

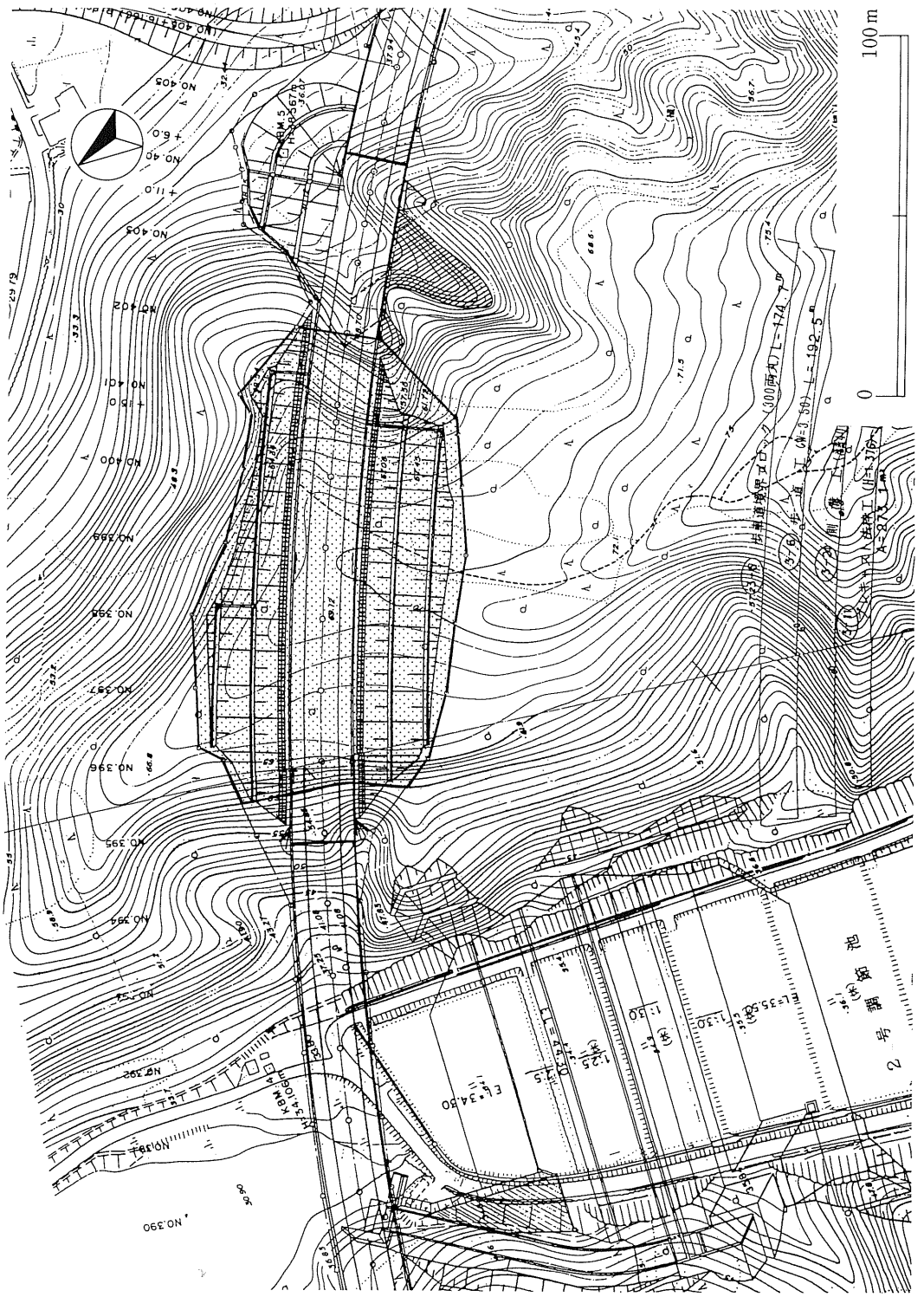
遺物では、平安時代後葉の土師器・須恵器が主に出土し、その他、中世陶器や鉄器、縄文時代晩期の土器・石器、製鉄関連遺構に伴う遺物が出土するものと思われるが、その総量はあまり多くないと予想される。



第36図　脇神館跡　位置図



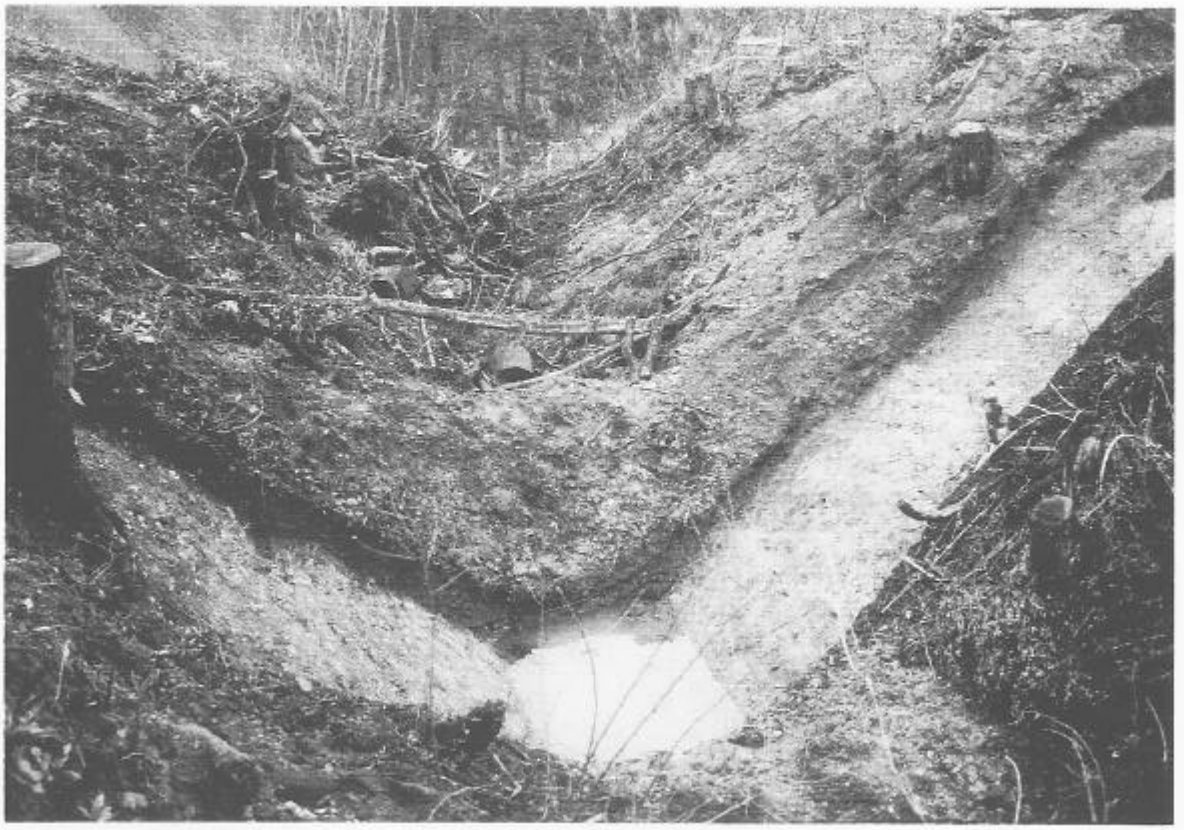
第37図　脇神館跡　範囲確認調査結果図



第38図　脇神館跡　工事区域内遺跡範囲図

△脇神館跡　遠景　（北東から）

△脇神館跡　南東部斜面　（南東　下から）



△脇神館跡　2トレンチ　遺存している空堀跡　（東から）

△脇神館跡　遺存している土塁跡　（西から）

△脇神館跡　９トレンチ　竪穴住居跡　（北から）

△脇神館跡　３トレンチ　平行する堀跡　（南から）